# 日露経済協力・人的交流に資する
# 人材育成プラットフォーム(HaRP)

Human Resource Development Platform for Japan-
Russia Economic Cooperation and Personnel Exchange

Платформа подготовки кадров для японо-
российского экономического сотрудничества и
гуманитарных обменов

# ANNUAL REPORT 2019

(April 2019 - March 2020)

# ご挨拶

「日露経済協力・人材交流に資する人材育成プラットフォーム(HaRP)」事業は，北海道大学と新潟大学が平成29年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～（タイプB：プラットフォーム構築プログラム）」に共同申請の上，採択されてスタートし，令和元年度で３年目が終了しました。

今年度の主な活動としましては，令和元年９月にモスクワ国立大学において開催した「第２回日露大学協会総会（第８回日露学長会議）」と令和２年１月に東京で開催した「第２回日露産官学連携実務者会議」があげられます。

今年度，日露大学協会は日露から各２大学，計４大学が新たに加わり日露各27大学，計54大学から成る組織となりました。「第２回日露大学協会総会（第８回日露学長会議）」にはこれらの加盟大学ばかりでなく，日露の企業をはじめとする12団体の参加（ブース出展）を得ることができました。また，昨年度に引き続き開催した「第２回日露産官学連携実務者会議」には，日本政府や地方自治体関係者，多数の企業関係者に加えて，前回を大きく上回る30ものロシア側大学関係者の参加を得ることができました。このように，本事業の活動を通じて日露の大学間の交流が深まるとともに，産官学で連携して人材育成を行うネットワークが確実に広がりつつあると実感しております。

これらの会議を今後も定期的に開催し，日露交流に関わる産官学の皆様が，両国間の経済協力に資する人材育成及び人的交流の拡大に向けて，一層の相互理解を深め，連携を強化する場を提供して行きたいと考えております。

また，日露の経済協力８項目に基づき本事業において設置した「医療・健康」，「都市づくり」，「先端技術協力」，「言語・文化・観光」など８つの専門セクションでは，各セクション内の個々の活動を進めつつ，活動状況の連絡会や，まだ専門セクションに参画していない大学や企業との情報交換会などを行いました。

日露人材交流委員会においては，日露間の単位互換制度の構築を目指して，日本国内や日露間で数度に亘る会議を開催し，日露の単位制度，科目開設基準に関する情報共有や意見交換，単位互換のガイドライン構築のための調査を進めました。

更に日露の学生連盟は，57名もの参加者を得て学生フォーラムを開催したことに加えて，組織整備や活動の対外的な情報発信にも努めました。

このほか，「第２回日露大学協会総会」に合わせて開催された「日露学術フォーラム」では，これまでより幅広い学問分野の研究者が集い，研究発表等を通じ，今後の新たな連携の可能性を探りました。

本年度は日露の大学間，また産業界や政府及び地方自治体等との協力により，このような様々な活動を実施いたしましたが，次年度も，日露交流に取り組む皆様にとって有益な取り組みを行い，重層的なプラットフォームの構築を進めてまいりますので，引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

令和２年３月

北海道大学　理事・副学長　笠原　正典

# 目次


1. 年間の主な活動 ―― 4p

2. 日露大学協会 ―― 5p

3. 日露学術フォーラム ―― 10p

4. 日露人材交流委員会 ―― 11p

5. 専門セクション ―― 16p

6. 日露学生フォーラム ―― 64p

7. 日露産官学連携実務者会議 ―― 85p

8. 大学の世界展開力強化事業中間評価について ―― 90p

9.HaRP事業へのメッセージ

・世界冬の都市市長会事務局 ―― 92p

・株式会社テクノソリューション ―― 94p

・在札幌ロシア総領事館 ―― 96p

・極東連邦大学 ―― 97p

● 付録1

1-1　日露学生フォーラム2019報告書(日本) ―― 99p

1-2　日露学生フォーラム2019報告書(ロシア) ―― 138p

● 付録2

大学の世界展開力強化事業(ロシア)採択校　情報共有シート ―― 144p

# 1 年間の主な活動

| | |
|---|---|
| 2019年 4月 | モスクワ国立大学・北海道大学打ち合わせ（於：モスクワ国立大学） |
| 5月 | モスクワ国立大学訪問及びロシアモスクワオフィス開設 |
| 6月 | 第2回日露人材交流委員会幹事会開催（於：北海道大学東京オフィス） |
| 7月 | 極東の産業振興セクション準備会開催<br>（於：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京）<br>モスクワ国立大学・北海道大学打ち合わせ（於：モスクワ国立大学） |
| 8月 | 日露学生連盟 日露学生による打ち合せ（於：北海道大学） |
| 9月 | Northern Sustainable Development Forumでの日露寒冷地セミナー及び円卓会議共催（於：ヤクーツク）<br>第2回日露大学協会総会及び日露学生フォーラム開催（於：モスクワ国立大学）<br>第3回日露人材交流委員会幹事会開催（於：モスクワ国立大学）<br>日露学術（旧人社）フォーラム開催（於：モスクワ国立大学） |
| 10月 | 「北海道とロシア連邦極東3地域の経済協力に関する常設合同委員会」第13回分野別部会参加（於：札幌）<br>タタルスタン共和国・スヴェルドロフスク州の日本関係地域コンソーシアムに関する情報収集，「100＋」フォーラム（建築・建設）参加（於：エカテリンブルク；都市づくりセクション活動推進） |
| 11月 | 「医療健康セクション」極東医療・健康フェア開催（於：ハバロフスク）<br>文部科学省・北海道大学意見交換（於：文部科学省）<br>世界冬の都市市長会実務者会議併催「日露パネルディスカッション」開催（於：ノリリスク） |
| 12月 | 新潟大学・北海道大学打ち合せ（於：北海道大学）<br>モスクワ国立大学・北海道大学打ち合わせ（於：モスクワ国立大学） |
| 2020年1月 | 日露人材交流委員会に関する意見交換会（於：北海道大学東京オフィス）<br>第2回日露産官学連携実務者会議開催（於：筑波大学東京キャンパス）<br>第4回人材交流委員会開催（於：筑波大学東京キャンパス）<br>日露学生連盟打合せ（於：筑波大学東京キャンパス）<br>先端技術協力専門セクション「人材育成に関する連絡会・意見交換会」開催<br>（於：筑波大学東京キャンパス） |
| 2月 | 言語・文化・観光専門セクション「ロシア語通訳・翻訳専門家育成に関する連絡会・意見交換会」開催（於：北海道大学） |

※HaRPの幹事校である北海道大学及び新潟大学の活動を中心に掲載。

その他，「日本留学海外拠点連携推進事業」（北海道大学，新潟大学，筑波大学共同採択）の一環として，以下の都市で留学フェアを開催。

| | |
|---|---|
| 2019年5月 | ユジノサハリンスク |
| 2019年9月 | サンクトペテルブルク，モスクワ |
| 2019年11月 | ハバロフスク，ウラジオストク |

## 2 日露大学協会

日露大学協会とは，日本とロシアの高等教育機関における大学間交流の推進，学生交流の増加などを目的とした，日露の大学による組織です。
最初は，日露それぞれ21大学（計42大学）の参画の下に設立が合意され，2019年10月現在では，下記の日露各27大学（計54大学）が参画しています。

| | 日本側加盟大学 | ロシア側加盟大学 |
|---|---|---|
| 1 | 北海道大学 | モスクワ国立大学 |
| 2 | 東北大学 | アルタイ国立大学 |
| 3 | 筑波大学 | ベルゴロド国立大学 |
| 4 | 千葉大学 | ヴォロネジ国立大学 |
| 5 | 東京外国語大学 | 極東連邦大学 |
| 6 | 東京工業大学 | ロシア外務省付属外交アカデミー |
| 7 | 新潟大学 | カラシニコフ記念イジェフスク国立工科大学 |
| 8 | 信州大学 | イルクーツク国立大学 |
| 9 | 金沢大学 | カバルダ・バルカル国立大学 |
| 10 | 名古屋大学 | カザン連邦大学 |
| 11 | 神戸大学 | クラスノヤルスク国立医科大学 |
| 12 | 広島大学 | クバン国立工科大学 |
| 13 | 山口大学 | モスクワ国立国際関係大学 |
| 14 | 長崎大学 | ロバチェフスキー記念ニジニーノヴゴロド国立大学 |
| 15 | 大分大学 | ノヴォシビルスク国立大学 |
| 16 | 福島県立医科大学 | セチェノフ第一モスクワ国立医科大学 |
| 17 | 神戸市外国語大学 | グブキン記念ロシア国立石油ガス大学 |
| 18 | 白鴎大学 | ロシア新大学 |
| 19 | 東海大学 | リャザン国立大学 |
| 20 | 上智大学 | サラトフ国立大学 |
| 21 | 創価大学 | サハリン国立大学 |
| 22 | 東京農業大学 | 北東連邦大学 |
| 23 | 早稲田大学 | 北方（北極圏）連邦大学 |
| 24 | 南山大学 | 太平洋国立医科大学 |
| 25 | 京都外国語大学 | 太平洋国立大学 |
| 26 | 近畿大学 | 南ウラル国立大学 |
| 27 | 神戸学院大学 | 南方連邦大学 |

（順不同）

## 第2回 日露大学協会総会

日露大学協会加盟校が参加して，1年半ごとに日露交互に総会を開催している日露大学協会総会は，2018年5月には，第1回日露大学協会総会が日本（札幌）で，2019年9月には，第２回総会がロシア（モスクワ）で開催されました。

第２回日露大学協会総会（第8回日露学長会議）では「人材育成」「医療健康」「地域開発」の3つの分野を軸に，学長同士が，日露の学術交流の現状と課題について活発に意見交換を行いました。また議論の中で，翌24日（火）に行われる学術フォーラムや人材交流委員会についてや，人文社会や医療分野等での協力強化等，今後の展望についても言及があり，最後は，共同議長の北海道大学笠原総長職務代理とモスクワ大学サドーヴニチィ学長による共同宣言を採択し幕を閉じました。
また総会における初の試みとして，日露交流を行う企業の紹介の場となる企業ブースを設けました。



## 総会開催概要

| | |
|---|---|
| 開　催　日 | 2019年9月23日(月・祝)<br>(9月22日(日):エクスカーション) |
| 開 催 場 所 | Intellectual Center<br>(モスクワ国立大学 Fundamental Library 7階, ロシア連邦モスクワ市) |
| 参加機関 (順不同) | 【省庁等】<br>文部科学省, 在ロシア日本国大使館, ロシア高等教育科学省, ロシア外務省<br><br>【日本の大学】<br>北海道大学, 東北大学, 筑波大学, 千葉大学, 東京外国語大学, 東京工業大学, 新潟大学, 信州大学, 金沢大学, 長崎大学, 福島県立医科大学, 神戸市外国語大学, 東海大学, 上智大学, 創価大学, 東京農業大学, 京都外国語大学, 近畿大学, 神戸学院大学, 長岡技術科学大学<br><br>【ロシアの大学】<br>モスクワ国立大学, アルタイ国立大学, イルクーツク国立大学, カバルダ・バルカル国立大学, カザン連邦大学, クバン国立工科大学, ロバチェフスキー記念ニジニーノヴゴロド国立大学, ノヴォシビルスク国立大学, セチェノフ第一モスクワ国立医科大学, ロシア新大学, 北方(北極圏)連邦大学, 太平洋国立医科大学, 南方連邦大学等<br><br>【学生】<br>日露学生フォーラム参加者(P57-58参照)<br><br>【団体・企業等(ブース出展を含む)】<br>国際交流基金, モスクワ・ジャパンクラブ, 日本貿易振興機構(JETRO), (株)エイジェック, (株)テクノソリューション, (株)東京インスツルメンツ, 東京貿易RUS　Ltd., 日本電子(株), 日立建機ユーラシアLLC, 三井物産モスクワ(有), Scientific company SPLIT, UNICHIMTEK |
| 言　　語 | 日本語及びロシア語(同時通訳) |

## プログラム

○9月22日(日)

エクスカーション及び在露日本国大使主催レセプション

○9月23日(月・祝日)

| | |
|---|---|
| 8:30-9:00 | 受付<br>企業の展示見学 |
| 9:00-10:00 | 開会式<br>来賓挨拶, 日露両議長によるプレゼンテーション |
| 10:00-11:00 | 日露の大学による①人材交流, ②医療・健康,<br>③地域開発に係る活動状況報告 |
| 11:00-11:30 | 写真撮影 |
| 11:30-13:30 | 日露の大学による①人材交流, ②医療・健康,<br>③地域開発に係る活動状況報告 |
| 13:30-14:00 | 閉会式<br>―企業代表による講演<br>―日露学生フォーラム参加学生の代表による発表<br>―協定締結式<br>―ディスカッション・コミュニケ採択<br>―閉会挨拶 |
| 14:00-15:00 | レセプション<br>企業の展示見学 |
| 15:00-18:00 | モスクワ国立大学博物館見学 |
| 18:00-19:00 | 夕食 |



日本側議長 北海道大学 笠原総長職務代理による
プレゼンテーション

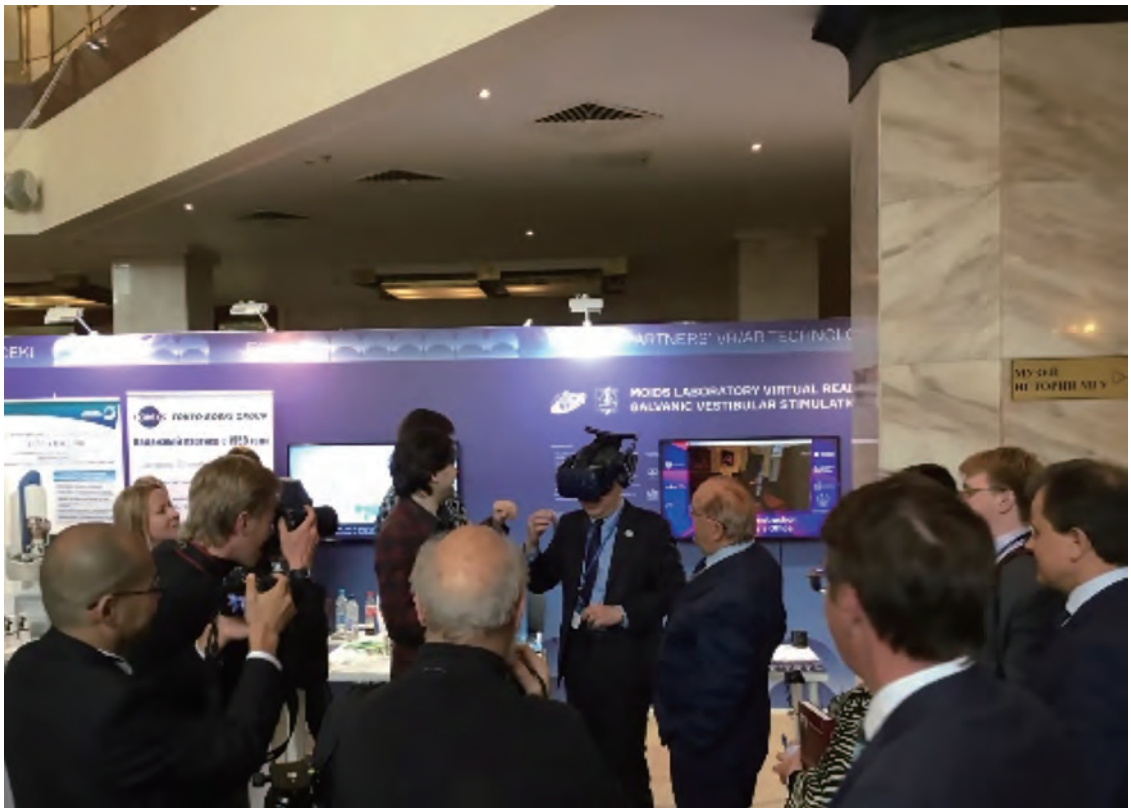
## 企業ブース

各企業ブースの出展者は，来訪者に対し自社の日露の産学協力の取組紹介等を熱心に行っていました。また，総会終了後にはモスクワ大学サドーヴィニチィ学長が芦立文部科学審議官とともにブースを巡り，出展者とコミュニケーションしました。

一部の出展企業からは，貴重なネットワークを構築する機会を得られたり，今後の産学協力の更なる発展が期待されるとのコメントをいただきました。今後も企業と関係者のコミュニケーションのための有益な場となるよう，工夫を凝らしたいと思います。

### ■出展機関（順不同）

○UNICHIMTEK
○日本電子株式会社
○東京貿易RUS LLC
○三井物産モスクワ（有）
○株式会社東京インスツルメンツ
○JETRO
○株式会社テクノソリューション
○Scientific company SPLIT
（以下モスクワ大学出展ブース）
○モスクワ大学&パートナーズVR/ARテクノロジー
○モスクワ大学物理学部
○モスクワ大地震データ解析センター
○モスクワ大海洋研究センター



企業ブースを訪れたサドーヴィニチ学長と芦立文部科学審議官

# 3　日露学術フォーラム

2019年9月24日に開催された，日露学術フォーラム（旧人社フォーラム）には，様々な分野の研究者，および同時期に開催されていた日露学生フォーラムの参加学生を含め約100名が参加しました。

同フォーラムは当初，特に人文社会科学分野の学術交流推進を深めることを目的とし，「人社フォーラム」として開催されていましたが，今回は理系分野も含めた研究交流も行うことが提案され，名称を「学術フォーラム」と変更して開催にいたったものです。

参加者の発表テーマはバラエティに富み，「歴史・考古学」「心理学・哲学」「言語学・文学」「経済・国際政治」「環境科学」の5つのセッションに分けて実施されました。

開会式では，モスクワ大学　ニコライ・ショーミン副学長，北海道大学　加藤博文モスクワオフィス所長，太平洋国立大学　セルゲイ・イヴァンチェンコ学長，京都外国語大学　松田武学長の挨拶に続き，セッションに分かれて議論が行われました。

それぞれのセッションでは，日露両側から1人ずつのコーディネーターによって，2会場で合計5セッションが行われ，各セッションでは4～7名の発表とディスカッションが行われました。

合計29名（日本側11名，ロシア側18名）が発表した各会場では，国や研究背景の異なる参加者からの質問が飛び交う活発な議論がなされ，今後の様々な分野での研究交流の発展が期待される会合となりました。





# 4 日露人材交流委員会

日露大学協会には，2つの委員会を置いており，その内の1つが日露人材交流委員会です。人材交流委員会は，以下の3つの目的のために設置・運営されます。

- 日露大学間の交流の拡大と発展に資する人材育成のための学生交流の支援
- 日露大学間の単位互換及び学位認定などの教育制度の調整に係る検討
- 日露大学協会と連携した日露大学間の交流の促進

以上の3つの目的の実現のために，委員会は以下の活動に取り組みます。

①日露間の学生交流にかかる「優れた取り組み（Good Practice）」の共有と発信
②大学院レベル等での共同教育プログラムの推進
③大学間の単位認定及び学位授与制度の比較検討
④日露学生連盟に対する支援

活動内容については，1年半ごとに開かれる日露大学協会総会で報告を行い，事業の終了する5年後には日露の両国政府に対して，日露の高等教育システムの在り方に関する提言書を取りまとめ，提言することをゴールとして想定しています。

また今年度は，昨年度に引き続き，第２回～第４回人材交流委員会幹事会（委員会の活動を推進する中心メンバー（幹事委員）による会合）を行い，日露大学間の単位互換制度や共同教育プログラム構築について，議論を重ねました。

## 第2回 日露人材交流委員会幹事会

2019年6月12日(水), 同年9月末に開催予定のモスクワ国立大学での次回幹事会に向けた議題整理を目的として, 第2回日露人材交流委員会幹事会を北海道大学東京オフィスで開催しました。

幹事会には, 日本側大学の人材交流委員会幹事7名, 委員6名(代理含む)及び事務担当者6名の計19名が参加しました。

会議では, すでにロシア側大学との共同教育プログラムを進めている新潟大学, 金沢大学, 長崎大学からの実施内容の報告がなされ, 日露大学間での単位互換を目指す際の課題点の整理が行われました。

ECTSのような, 国際的な単位互換制度のような統一した単位互換の枠組みの構築を基礎に, ロシア側大学での欧州の大学との共同学位プログラム事例についての情報を今後の収集しつつ, 将来的な日露大学間でのジョイントディグリーのような共同学位の構築に委員会として取り組むことで合意を得ました。



## 第3回 日露人材交流委員会幹事会

モスクワ国立大学で開催された日露大学協会総会の翌日の2019年9月24日(火)に，同じくモスクワ国立大学内において第3回日露人材交流委員会幹事会を開催しました。幹事会には日本の大学から20名，ロシアの大学から9名，総勢29名の教員，事務担当者が参加しました。

会議では，日露の大学双方から国際的な単位互換や共同学位の取り組み事例の報告が行われ，意見交換を行いました。その結果，以下の点について確認・合意を得ました。

○日露の学生交流を円滑に推進するために，日露間で統一した単位互換制度の構築が必要であること。
○ロシアでは2003年に欧州のボローニャ・プロセスによる単位制度（ECTS）を導入されており，ECTSを基準とした国際的な統一単位互換の枠組みを構築することができること。
○共同学位については，制度的に学部よりも修士課程において構築するのが望ましいこと。
○今後の協議の進め方としては，最初に統一した単位互換の枠組みをECTSなどを参考に日露双方で検討すること。
○ジョイントディグリープログラムの構築については，共通の単位互換制度が整うことを前提に日露間で引き続き検討を進めること。
○共同学位については，大学のみではなく，日露両国の政府教育機関を交えて議論すべきであり，相互に引き続き検討すること。
○1年半後(2021年春頃)に開催する日露大学協会総会の開催時までに，2回程度の日露合同の幹事会を開催して，継続して議論を行うこと。



## 第4回 日露人材交流委員会幹事会

2020年1月30日(木)に,筑波大学東京キャンパスにおいて,第4回日露人材交流委員会幹事会を開催しました。

幹事会には,日本側から人材交流委員会幹事8名,委員6名(代理含む)及び大学事務担当者の12名と文部科学省から2名の合計28名が参加し,ロシア側からは5大学から合計9名が参加しました。

まず始めに,北海道大学の加藤博文教授より,昨年9月にモスクワ国立大学にて行われた前回会議のまとめを報告があった後,北海道大学学務部学務企画課の土井將義係長より,「ロシアにおけるFederal State Education Standardsを活用した単位互換並びに共同教育プログラム構築」の提案について説明がありました。この説明は,日露大学間がそれぞれ国の教育制度に則り,単位互換を教育の質を保ちながら,単位互換をする方法を提案するものであり,多くの参加者が関心を示していました。

加えて,金沢大学の松本宏一教授による,日露大学間で既に行われている共同教育プログラムの紹介や,日本側大学3校,ロシア側大学2校による,各々の大学におけるカリキュラムやシラバスについて説明があった後,意見交換を行いました。

今回の会議では,日露間のカリキュラムや単位制度の差異について理解を深めることができ,今後の単位互換及び共同教育プログラム構築に向けての議論につなげていきたいと考えます。



# 人材交流委員会委員（日本の大学）

| NO. | 大学名（和文） | 参画形態 | 所属（和文） | 役職（和文） | 氏名（和文） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ◎北海道大学 | 幹事委員 | アイヌ・先住民研究センター | 教授 | 加藤　博文 | |
| 2 | ○新潟大学 | | － | 副学長（国際，環東アジア構想担当） | 髙橋　秀樹 | |
| 3 | 筑波大学 | | 人文社会系 | 教授 | 加藤　百合 | |
| 4 | 金沢大学 | | 理工研究域数物科学系 | 教授 | 松本　宏一 | |
| 5 | 長崎大学 | | 医歯薬学総合研究科 | 教授 | 高村　昇 | |
| 6 | 東海大学 | | 国際教育センター，工学部 | 国際教育センター所長，工学部教授 | 山本　佳男 | |
| 7 | 近畿大学 | | インターナショナルセンター | 准教授 | 菱川　邦俊 | |
| 8 | 長岡技術科学大学 | | 産学融合トップランナー養成センター | 産学融合特任准教授 | 鳩山　紀一郎 | 現在，協会加盟校でないが，日露交流の実績のある教員として参画 |
| 9 | 東北大学 | 委　員 | 大学院文学研究科 | 教授（副研究科長・国際交流室長） | 阿部　恒之 | |
| 10 | 千葉大学 | | 国際教養学部 | 教授 | 高垣　美智子 | |
| 11 | 東京外国語大学 | | 大学院総合国際学研究院 | 教授 | 沼野　恭子 | |
| 12 | 東京工業大学 | | 科学技術創成研究院先導原子力研究所 | 教授 | 小原　徹 | |
| 13 | 広島大学 | | 国際室 | 副学長（国際交流担当） | 丸山　恭司 | |
| 14 | 神戸市外国語大学 | | 外国語学部 | 教授 | 岡本　崇男 | |
| 15 | 上智大学 | | － | グローバル化推進担当副学長 | 杉村　美紀 | |
| 16 | 創価大学 | | グローバル・コア・センター | 副学長 | 田中　亮平 | |
| 17 | 南山大学 | | － | 副学長（国際担当） | 星野　昌裕 | |
| 18 | 京都外国語大学 | | 国際部 | 副学長兼国際部長 | 熊谷　俊樹 | |
| 19 | 神戸学院大学 | | 経済学部 | 教授 | 岡部　芳彦 | |
| 20 | 福島県立医科大学 | | | 副学長 | 山下　俊一 | 長崎大学学長特別補佐を兼任 |
| 21 | 東京農業大学 | | 国際協力センター | 副センター長 | 丹羽　光一 | |

2019年12月現在

# 5 専門セクション

専門セクションは，2016年の日露首脳間で合意した「8つの経済協力プラン」に沿って，日露の経済発展・交流促進に資する人材育成を目的として設置され，（1）医療健康，（2）都市づくり，（3）中小企業交流，（4）エネルギー開発，（5）産業多様化促進，（6）極東の産業振興，（7）先端技術協力，（8）言語・文化・観光において，日露の経済協力・発展に資する専門的な人材を育成することを目的として，日露両国における産学官の各界により構成される組織です。

HaRPでは，日露の大学，企業，自治体等多様な組織と協働する人材育成に関する取組みを奨励し，セクション内はもちろん，セクションをまたいで協働する取組みをより重要と考えています。また，HaRPが蓄積する日露人材育成の取組みやカウンターパートに関する情報を利用し，経済協力に資する高度専門家育成への積極的な参画を期待します。

## 専門セクションへの参画状況

| セクション名 | 参画大学（参画者の所属大学） |
|---|---|
| ①医療健康 | 新潟大学（リーダー校），筑波大学，金沢大学，長崎大学，東海大学，福島県立医科大学 |
| ②都市づくり | 北海道大学（リーダー校），東京大学，新潟大学，長岡技術科学大学，札幌市立大学** |
| ③中小企業交流 | 北海道大学（リーダー校），金沢大学，創価大学，大阪大学，小樽商科大学，札幌大谷大学** |
| ④エネルギー開発 | 北海道大学（リーダー校），東海大学，室蘭工業大学 |
| ⑤産業多様化促進 | 北海道大学（リーダー校），小樽商科大学*，札幌大谷大学** |
| ⑥極東の産業振興 | 新潟大学（リーダー校），北海道大学*，千葉大学，金沢大学，小樽商科大学，大阪大学，東京農業大学 |
| ⑦先端技術協力 | 金沢大学（リーダー校），北海道大学*，東京工業大学，東海大学，近畿大学，室蘭工業大学，大阪大学 |
| ⑧言語・文化・観光 | 北海道大学*（リーダー校），東北大学，東京外国語大学，新潟大学，神戸市外国語大学，東海大学，上智大学，創価大学，神戸学院大学，小樽商科大学，大阪大学，札幌市立大学** |

＊2019年度新規参画者あり　＊＊2019年度新規参画組織　2020年3月現在

## 専門セクション活動報告書（医療健康）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | 極東医療・健康セミナー |
| **開催時期** | 2019年11月15日（金） |
| **開催場所** | 極東国立医科大学（ロシア連邦・ハバロフスク） |
| **主催者** | 新潟大学 |
| **参加者** | ●新潟大学，極東医科大学関係者<br>●ハバロフスク市内の医療・医学関係者　260名が参加 |
| **活動内容** | 2019年11月15日，ロシア連邦・ハバロフスク市において，日本の医療・医学の専門家がロシアの医学生・医療関係者向けに集中講義を行う「極東医療・健康セミナー」が開かれました。<br>同セミナーは，新潟大医学部と25年以上に渡って交流活動を続ける極東医科大の全面協力を得て，同大で開催されました。ロシア連邦では，日本型医療や医学への興味・関心が高いため，現地の専門家や住民らのニーズにこたえつつ，ロシア極東における健康意識や医療レベルの向上も目指し，企画されました。<br>当日は，新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターの相澤直孝特任教授，同大光学医療診療部の横山純二准教授，医療健康セクション参画校である福島県立医科大学解剖・組織学講座の和栗聡教授らがそれぞれの専門分野を生かし，医学生や医学部教員向けに模擬講義を行いました。<br>テーマも多岐に及び，「睡眠時無呼吸症候群」や「初期胃がんの内視鏡治療」，「医学研究のためのオートファジー」を題材に，医学生や医学部教員向けに，わかりやすく専門的な内容を説明しました。会場には260人が詰め掛け，講演者に熱心に質問する姿も見られました。<br>あわせて，11月15，16日の両日には，新潟県内の産官学金で構成する「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」と極東医科大による共催イベント「極東医療・健康フェア」が，同大にて実施されました。第一日目には，同コンソーシアムに参加する県内のシンクタンクや商社，新潟大の代表団がハバロフスク地方政府代表団を表敬したほか，日本型の最新医療機器を整備した健康診断施設である「SAIKO」を訪問しました。これらの活動を通じて，日露両国の医療分野で活躍する団体同士が連携を深めることにつながりました。<br>第二日目には，新潟大医学部の教授2名ならびに極東医科大の教授1名による一般市民向けの公開講座が行われました。267名が参加し，最先端の乳がん治療や，日本の高齢者医療に関する解説に熱心に耳を傾けていました。 |
| **関連URL** | https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/2019/11/16/jp-6/ |

【関連写真】




「極東医療・健康セミナー」の講演者ら



「極東医療・健康セミナー」の聴衆者ら



ハバロフスク州政府保健省代表団との会合



「極東医療・健康フェア」会場の様子

# 専門セクション活動報告書（産業多様化促進）

<table>
<tr><td colspan="6">(1) 担当教員</td></tr>
<tr><td>所属大学・部局</td><td colspan="5">札幌大谷大学　社会学部　地域社会学科</td></tr>
<tr><td>職名</td><td colspan="5">助教</td></tr>
<tr><td>責任者氏名</td><td colspan="5">山田 政樹</td></tr>
<tr><td colspan="6">(2) 活動内容</td></tr>
<tr><td>事業・活動名</td><td colspan="5">・日本貿易振興機構（JETRO）様訪問（9/23）<br>・サンクトペテルブルク日本商工会定例会における HaRP 活動紹介（9/23）<br>・日産マニュファクチャリング Rus 工場見学（9/25）</td></tr>
<tr><td>活動時期</td><td colspan="5">令和元年 9 月 22 日 ～ 令和元年 9 月 26 日 （ 5 日間）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動形態</td><td>□授業</td><td>□研究指導</td><td>□ インターンシップ</td><td>□ セミナー</td><td>☒ 講演会</td></tr>
<tr><td>□ シンポジウム</td><td colspan="4">☒ その他（企業訪問（工場見学））</td></tr>
<tr><td>対象者及び参加者数</td><td colspan="5">小樽商科大学大学院 教授 簇本 智之<br>小樽商科大学大学院 教授 玉井 健一<br>札幌大谷大学 助教 山田 政樹</td></tr>
<tr><td>本活動に参画した他大学・企業・自治体等</td><td colspan="5">日本貿易振興機構（JETRO）サンクトペテルブルク事務所<br>日本貿易振興機構（JETRO）モスクワ事務所<br>Nissan Manufacturing RUS, LLC</td></tr>
<tr><td>具体的な活動内容（詳細について記入願います）</td><td colspan="5">・日本貿易振興機構（JETRO）様訪問<br>ロシアの最近の経済概要，サンクトペテルブルク周辺のビジネス動向に関してのヒアリング調査を行いました。<br>・サンクトペテルブルク日本商工会定例会における HaRP 活動紹介（9/23）<br>HaRP の活動内容，特に産業多様化促進に関しての紹介を行い，状況によっては企業などの視察を依頼する可能性がある点に関してご理解を頂きました。<br>・日産マニュファクチャリング Rus 工場見学（9/25）<br>実際に日産様の工場へ伺い，工場を視察，NISSAN のロシアで行っている生産活動についてのインタビュー調査を行いました。</td></tr>
</table>

**(3) 成果・HaRP 事業への貢献**

1.本事業への効果という観点から、得られた成果

NISSAN 様の現地の情報の詳細が手に入ったのが大きな成果となりました。ロシア経済の中で車業界は上向きの状況となっており，特に SUV 市場は好調となっていました。工場は組み立てメインで他国の工場からの部品供給を受けて，最終組み立てを行っていました。日本人はほぼおらず現地の人材を雇用している状況でした。従業員は大卒が 50%を占めている状況となっていました。初任給のサラリーは約 56,000 ルーブルとなっており，平均勤続年数も 6 年程度となっていました。2016 年以降はグローバル工場の中でも上位（27 中 9 位），ヨーロッパ内ではトップの工場パフォーマンス（一人が 1 台を作るのにかかる時間）となっており，当初の仮説としていたパフォーマンス懸念はないといっても良い。品質チェックもタブレットを使用し IoT を駆使して行っていました。社員の CSR への意識も高く，社員の 20%はボランティアも行う状況となっていました。技術力やカイゼンに関しても懸念はなく，今後は自分たちで創意工夫を行っていく力をつけさせる必要がある状況となっていました。

現地の大学との連携も行うことも考えられていた。ロシアの経済やビジネス動向，生産現場の状況を考えると，ロシアと日本の学生間でレベル差も少ないと考えられます。今後の人材育成を行うに当たっては，現地大学と日本の大学を協力させ，ともにプロジェクトを行うことや，現地学生と日本の学生とで同時に短期のインターンをすることで現地の状況を知り，ネットワークを作りながら学んでいくことが良いと考えられます。

2. 当該活動によりもたらされる他大学への波及効果

基本的に上記の通り，ロシアのディスクリート生産に関して，低い水準のレベルとの仮説を立てている場合は，その仮説が崩れる可能性が高いことが示唆されました。そのため，先進国とマニュファクチャリングに関して水準が同程度であることを意識した状態での仮設を立てておく必要があると考えられます。それを念頭に置くことにより，日露での人材育成や学生間交流に関して，建設的な関係構築を考えられるようになると考えられます。

**(4) 今後の展望**

1. 日露交流の拡大・人材育成という観点における展望

事例が 1 社のみとなっており，偏りがある状況となっています。他社の事例，中小企業の事例も集め，そのうえでプラットフォームを作成する必要があります。今回定例会でもお会いした他の自動車会社様には次回は訪問させて頂きたい点についてご快諾頂きました。また，ロシアでスタートアップ支援を行っている，日ロの IT 産業をブリッジするコンサルティング会社へも調査協力をご快諾頂いています。来年以降に訪問し詳細を調査が可能な状況となっています。

**(5) その他**

ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

他セクションのフラットフォーム作成状況，行っている内容，今後行う内容をお互い共有すると良いと考えられます。




写真 1：右から山田助教，玉井教授，簇本教授，サンクトペテルブルク国立大学 佐藤研究員




写真 2：簇本教授，山田助教，JETRO 一瀬所長，玉井教授，サンクトペテルブルク国立大学佐藤研究員



写真 3：サンクトペテルブルク日本商工会定例会の様子

# 専門セクション活動報告書（極東産業振興）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | 極東の産業振興セクション準備会 |
| **開催時期** | 2019年7月19日（金） |
| **開催場所** | 東京工業大学　キャンパスイノベーションセンター東京 |
| **主催者** | 新潟大学 |
| **参加者** | 6大学（新潟大，北海道大，千葉大，金沢大，小樽商科大，東京農業大）より，13名が参加 |
| **活動内容** | 2019年7月19日に，東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京にて，「極東の産業振興セクション準備会」が開かれました。ロシアとの交流活動に携わる6大学の教職員が集まり，各大学の主な取り組みを共有するとともに，各大学の蓄積する情報やノウハウ，それぞれが直面する課題の共有を図り，極東の産業振興に資する効果的な取り組み方法について，意見を交わしました。<br>参加大学が抱える課題としては，主に下記のテーマで意見が寄せられました。同様の問題に対して，先行して取り組んだ実績や経験を持つ大学から，助言や解決策を提供する形式を取りました。<br><br>【主な課題・議題】<br>●ロシア側との継続的な窓口なる学内の人材不足について<br>●ロシア側教員との英語での連携，ロシア側学生の英語力について<br>●ロシアにおける日本学生のインターンシップの可能性とその障壁について<br>●学生を研究室配属として受け入れる場合の注意点<br><br>議論の場では，研究志向・研究重視の姿勢を打ち出し，日本への留学を望む大学に対しては，修了証書を準備したり単位を付与したりするなどして，相手校側の満足度を高める工夫をする等，実際のプログラムを進める上での実質的な工夫点などが共有されました。<br>極東の産業振興セクションとしての今後の取り組みについては，参画大学の活動を「HaRP(日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム)」のホームページ上で公開していくほか，各校の知識や問題点を随時共有しながら，手助けが必要な際には，セクション参画校同士が知恵を出し合う体制を目指すことが，合意されました。加えて，各大学のプロジェクトや取り組みに，他大学の学生が参加する機会を模索することについても，参加校同士で同意が図られました。 |
| **関連URL** | https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/2019/07/19/jp/ |

【関連写真】



極東の産業振興セクション準備会の様子

# 専門セクション活動報告書（先端技術協力①）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **(1) 担当教員** | | | | | |
| 所属大学・部局 | 金沢大学・医薬保健研究域薬学系 | | | | |
| 職名 | 准教授 | | | | |
| 責任者氏名 | 佐々木陽平 | | | | |
| **(2) 活動内容** | | | | | |
| 事業・活動名 | ロシア・アルタイ地域の資源植物調査およびアルタイ国立大学と関連企業の視察 | | | | |
| 活動時期 | 令和 1 年 9 月 8 日 ～ 令和 1 年 9 月 13 日 ( 6 日間) | | | | |
| 活動形態 | □授業 | □研究指導 | □ インターンシップ | □ セミナー | □ 講演会 |
| | □ シンポジウム | ☒ その他：薬用資源植物調査と施設見学 | | | |
| 対象者及び参加者数 | 全3名：佐々木陽平（責任者），他大学院生 2 名 | | | | |
| 本活動に参画した他大学・企業・自治体等 | なし | | | | |
| 具体的な活動内容 | （1） アルタイ山脈地域の薬用植物の自生地調査：日本で漢方薬原料として使用されている薬草の自生地域およびその資源量。<br>（2） Barnaul 市内のバザール調査：アルタイ地域の薬用植物の流通および市場調査。実際の種類や量，用途などに関する調査。<br>（3） 南シベリア植物園施設訪問：この施設はアルタイ州立大学附属植物園である。薬用資源を中心に，多数の植物を維持，栽培していた。<br>（4） 製薬会社 Visterra 社の施設見学：広大な敷地には植物栽培施設，植物抽出エキス製造工場，関連製品販売所などが点在していた。近隣の大学生１名を研修生として受け入れているとのこと。 | | | | |

**(3) 成果・HaRP 事業への貢献**

1.本事業への効果という観点から、得られた成果

（1） アルタイ国立大学との薬用植物の研究活動を通じた人材育成および学生交流：アルタイ国立大学附属薬用植物園である，南シベリア植物園のスタッフの方と研究交流をしました。この植物園は園内の植物の維持管理とは別にアルタイ地域の資源植物調査を実施していました。また研究棟も併設しており化合物探索や DNA 配列解析も実施可能でした。この内容および設備は，私の研究内容と類似しており共同研究テーマを設定することが可能と判断しました。共同研究を遂行する間に学生交流および人材育成が可能です。交流についての内容は，博士課程の学生であれば専門的な内容での研究交流となりますが，例えば学部生であればより拡大した内容を交えての交流活動が実施できると考えます。

（2） 製薬企業 Visterra 社の施設見学：敷地内では人材育成や学生交流が十分実施可能な設備や施設がありました。学生のインターンシップを受け入れる体制も整っているようです。実際，ロシアの大学生を定期的に受け入れているそうです。社の代表は日本人学生も歓迎すると行っていました。日本の大学生でも Visterra 社の業務内容に興味を持つ学生がいればインターンシップが実施可能であることを確認することができました。

（3） 薬用資源の自生地調査：アルタイ地域には漢方薬材料として利用される植物が多く自生していることを確認することができました。ただ，これら野生資源を採取して日本で使用するという考えは，質的安定性や量的なことから現実的ではないと思います。しかしこれらの植物は日本で見ることはないものであり，将来，植物見学ツアーのような旅行企画などの可能性も考えられました。

（4）

2. 当該活動によりもたらされる他大学への波及効果

（1） 上記項目の（3）について，例えば薬学生の学生教育の一環として，希望者が参加できる自生地見学ツアーが考えられます。この企画であれば薬学部を中心に他大学でも受け入れられる可能性が考えられます。

**(4) 今後の展望**

1. 日露交流の拡大・人材育成という観点における展望

（1） 今回訪問した施設のうち，南シベリア植物園との研究交流は私の研究活動方針にも合致しています。共同研究を進める計画をしています。

**(5) その他**

ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

（1） 今回は，私の研究室の博士課程の学生2名が同行するプログラムでした。博士課程の学生は既に自身の遂行すべき研究テーマを有していますから，今後の新たな新規交流の設定が限定される状況にありました。しかし今後，交流対象を学部生に拡大する方向で検討した場合は，人材育成も含めた交流が活動になることが期待されます。



製薬会社 Visterra 社の施設見学



南シベリア植物園施設訪問



アルタイ山脈地域の薬用植物の自生地調査

# 専門セクション活動報告書（先端技術協力②）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | 第2回　先端技術協力専門セクション連絡会・日露情報交換会 |
| **開催時期** | 2020年1月30日（木） |
| **開催場所** | 筑波大学東京キャンパス文京校舎 |
| **主催者** | 北海道大学 |
| **参加者** | ● ロシア22大学・3組織（NGO等）から36名参加<br>● 日本6大学・7組織（企業・行政機関等）から24名参加（北海道大学からは9名参加） |
| **活動内容** | 2019年2月28日に筑波大学東京キャンパスで第1回日露産官学連携実務者会議と併催された先端技術協力セクションミーティングに続いて，2020年1月30日に第2回先端技術協力専門セクション連絡会及び日露情報交換会が開催されました。<br>特に日本において重大な課題となっているIT人材に関する話題を含む，先端技術に関する情報交換の場を設けることにより，今後日露の先端技術教育に関する情報・ノウハウ交換や，先端技術協力の活発化のきっかけとなることを狙って北海道大学より提案がなされ，実施に至ったものです。<br>前回と比較して，日本側参加者数が3倍以上になったのみならず，翌日開催の第2回日露産官学連携実務者会議に合わせて多くのロシア人関係者が来日することもあり，本会合のテーマである「先端技術」に興味・関心のある多くのロシア人関係者が参加しました。<br>会議は，欧露，ウラル，シベリア，極東等，ロシア各地の大学・NGO等から多様な話題提供の希望を受け，日本側発表者の内容と併せて3つのセッション立てとしました。先端技術協力セクションリーダー校・金沢大学の大谷吉生副学長の挨拶の後，「Advanced technologies in medicine and healthcare」セッションで3名（全員ロシア側），「Advanced technologies and PPPs (public-private partnerships)」で4名（日本側1名，ロシア側3名），「Advanced technologies in research and higher education」で10名（日本側2名，ロシア側8名）のプレゼンテーションがあり，発表者は自組織の歴史や主要な実績，日本側相手組織との取り組みの概要や今後の展望を含め，各大学における多様な活動を紹介するとともに，出席者が代表する大学等に参加を呼びかけました。<br>大学関係者の他，日露の行政機関（経済産業省，JETRO，在日ロシア連邦通商代表部等）・ロシアに進出している企業，NGO等関係者が集まり，大学との連携の分野・形態について実績の報告，2020年度に開催する事業・イベントの案内を共有しました。その例として次のものが挙げられます。<br>● 北海道大学のモスクワ国立大学との共同事業（ 先端技術協力セクションに参画している工学研究院の渡慶次学教授・地球環境科学研究院のラム　アバタル助教それぞれの取り組み） |

| | |
|---|---|
| | ● アルタイ国立大学と金沢大学の共同事業<br>● 株式会社テクノソリューションの（ロシア高等教育の最も発展した分野の一つである）IT人材育成における協力の提案<br>● 北東連邦大学と株式会社ブリヂストンの連携事業<br>● モスクワ市立教育大学の筑波大学・近畿大学・東京外国語大学と連携している日本映像翻訳アカデミー（JVTA）株式会社との交流<br>● ウリヤノフスク州のYouth Business Incubators（茨城県と交流開始）<br>HaRP関係及びHaRPと並行して実施されている個々の事業が多角的に紹介され，情報交換に加え，翌日開催された第2回日露産官学連携実務者会議の参加者にとって交流の場となりました。 |
| **関連URL** | 第1回先端技術協力セクションミーティング<br>https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/2019/02/28/20190228technology-jp/ |



先端技術協力セクションリーダー校・金沢大学の大谷吉生副学長の挨拶



第2回（7） 先端技術協力専門セクション連絡会・日露情報交換会の様子

# 専門セクション活動報告書（言語・文化・観光）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | 言語・文化・観光専門セクション「ロシア語通訳・翻訳専門家育成に関する連絡会・意見交換会」 |
| **開催時期** | 2020年2月21日（金） |
| **開催場所** | 札幌市，北海道 |
| **主催者** | ● 北海道大学　国際部　国際連携課　国際戦略担当，日露経済協力に資する人材育成プラットフォーム（HaRP）事務局 |
| **参加者** | ● （8）言語・文化・観光専門セクション参画者（北海道大学，東京外国語大学，神戸市外国語大学，創価大学，大阪大学，札幌大学）<br>● その他の日本の大学関係者 （北海道大学，北海学園大学，札幌大学）<br>● ロシアの大学関係者（モスクワ国立大学，北東連邦大学，サハリン国立大学）<br>● 行政組織関係者（在札幌ロシア連邦総領事館，経済産業省北海道経済産業局，北海道庁総合政策部国際課ロシアグループ）<br>● 企業関係者 （学校運営法人　JVTA日本映像翻訳アカデミー，株式会社G.I.プラン，株式会社アレム・インターナショナル，株式会社FECマネージメント，T.T.T. ABROAD ACADEMY）<br>● NGO関係者（NPO法人 日本サハリン協会）<br>● HaRP事務局 |
| **活動内容** | 極東3地域及びモスクワ州，サンクトペテルブルク市，ノヴォシビルスク市をはじめロシアとの学術文化交流，中小企業が中核を担う経済交流，その支援・活性化を図る行政機関の事業，外国人留学生採用サポート等の高度外国人材事業に注力している北海道を場として，（8）言語・文化・観光専門セクション参画者の2019年度の連絡会，並びに，「現場の声」，人材育成側に対する問題提起及び期待，社内での育成事例などのグッド・プラクティスを共有できる官民団体との意見交換会を行った。<br>セクション参画者（6大学）及びその日本側連携組織（2社），ロシア側相手大学（3大学）からそれぞれの事業，とりわけ通訳・翻訳家育成事業の紹介があり，それぞれの日露の地域がその分野において抱えている問題が指摘された。例えば，大学に在籍期間中の研修や卒業後の活動の場が限られていること，日本語・ロシア語の授業を教室で行うことによる語学力向上の限界，各領域において専門化が進むことによる専門用語の挑戦，現場再現の試み，学生の動機付けの問題等。<br>発表の後，大学と官民団体の関係者の間で次のトピックについて活発な意見交換が行われた。<br>● 通訳専門家として成立するのに必要な能力（コミュニケーション能力，教養，柔軟 |

| | |
|---|---|
| | 性）<br>● 人材育成側・雇用側が直面している挑戦（専門人材不足，長期雇用機会の減少，賃金水準の低下，特定分野の専門家ではなくゼネラリストを求める行政機関等の勤務体制）及びその対策（各業種で活躍しているOBのネットワーク構築及び定期的講演・交流会の実施）<br>● 特定分野（医療等）の通訳・翻訳を含むロシア語の授業を通じて学生が培う能力（異文化間コミュニケーション，学習能力，臨機応変に対応する能力等），<br>● 今後日本語・ロシア語通訳専門家が特に求められる分野（観光，IT，医療，スポーツ，エンタメ）<br>● 通訳専門家に対する語学力以外の要望 |
| **関連URL** | 日露経済協力に資する人材育成プラットフォーム（HaRP）のHP<br>https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/2020/02/17/language-culture-and-tourism/<br>https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2020/02/language-culture-and-tourism.pdf<br><br>東京外国語大学　日露人的古流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラムのHP<br>https://tufs-tenkai2rus-jp.com/ |



2月21日（8）言語・文化・観光専門セクション「ロシア語通訳・翻訳専門家育成に関する連絡会・意見交換会」の参加者

# 専門セクション活動報告書（複数セクションにわたる活動①）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | Northern Sustainable Development Forumの併催イベントとなった一連の Cold Lands Seminar. Arctic and Asia.及び円卓会議（北東連邦大学及び北海道大学が共催） |
| **開催時期** | 2019年9月23~27日 |
| **開催場所** | ヤクーツク市，サハ共和国，ロシア |
| **主催者** | ● Government of the Sakha Republic (Yakutia);<br>● Northern Forum Secretariat;<br>● M.K. Ammosov North-Eastern Federal University;<br>● Northern Forum Working Group on Environment and Conservation of Biodiversity;<br>● Northern Forum Working Group on Assessment of Quality of Life in the Arctic Regions |
| **HaRP関連の発表，HaRP事務局と共催のイベント，HaRP関係の発表者** | 1. 9月23日. Cold Lands Seminar. Arctic and Asia. Specialized Section 1: “Connectivity, communication infrastructure and regional development of the North”. Juha Saunavaara, 北海道大学, 北極域研究センター, 助教. “Needs and problems of transport and communication infrastructure of the regions of the North.” 大塚 夏彦 (online). 北海道大学, 北極域研究センター, 副所長, 教授. “Prospects for the development of the transport system of Yakutia “river / sea”.”<br>2. 9月24日. Roundtable Discussion Carbon Budget of Ecosystems, Cities and Villages on Permafrost (COPERA Project) Arctic and Asia. 杉本 敦子, 北海道大学, 北極域研究センター, 教授.<br>3. Cold Lands Seminar. Arctic and Asia. Specialized Section 2. “Socio-Economic Development of the Arctic and the North”. Juha Saunavaara, 北海道大学北極域研究センター, 助教. “Hokkaido Cooperation with Russian Regions, with Emphasis on the Far East and Siberia.”<br>4. 9月25日. NSDFの全体会議のセッション4. The Arctic and Asia: Opportunities and Areas of Cooperation. 田畑 伸一郎, 北海道大学, スラブ・ユーラシア研究センター, 教授. “People and Community in the Arctic: Possibility of Sustainable Development.”<br>5. Round table “Winter cities of the world: opportunities for cooperation”. Arctic and Asia. Marina Lomaeva, 北海道大学, 国際部国際連携課, 産学官連携コーディネーター. “World Winter Cities Association for Mayors.”<br>6. 9月26日. Cold Lands Seminar. Arctic and Asia. Specialized Section 3: “Environmental Monitoring”. 杉本 敦子, 北海道大学, 北極域研究センター, 教 |

| | |
|---|---|
| | 授. “Environmental Monitoring in Permafrost Territories.” Ram Avtar, 北海道大学, 地球環境科学研究院, 助教. “Multisensor Remote Sensing Techniques for Environmental Monitoring.”<br>7. 9月27日. Cold Lands Seminar. Arctic and Asia. Specialized Section 4: “Humanities”. 後藤 正憲, 北海道大学, スラブ・ユーラシア研究センター, 助教. “The Reconstruction of the Binary Opposition in the Livestock Sector of the Sakha people.” Jeffrey Gayman, 北海道大学, メディア・コミュニケーション研究院, 教授. “Challenges and successes of working with local indigenous peoples in a school curriculum for Hokkaido University on Education for Sustainability.” Tyrel Eskelson, 北海道大学, メディア・コミュニケーション研究院, 特任助教. “Education for Sustainable Development: Fundamentals and Methodology.” Tatyana Tsagelnik, 北海道大学, 北海道大学, 大学院国際広報メディア・観光学院. “The Impact of Discourse on Cultural Sustainability: Representation of the Ainu People and Culture in Japan.” Ashley Dollin, 北海道大学, 大学院国際広報メディア・観光学院. “Studying the Problems of Indigenous Representation through the Media.” |
| **関連専門セクション** | (2) 都市づくり; (4) エネルギー開発; (6) 極東の産業振興; (7) 先端技術協力; (8) 言語・文化・観光 |
| **活動内容** | ロシアおよび日本の北部において，重要な協力分野となり得る気候や環境，社会等の北方圏の問題を共同で考え，協力していくために1994年に設立された国際地域組織「北方圏フォーラム」において，初めての産学官連携会議（北方圏フォーラム・サハ共和国政府・北東連邦大学等が共催）を開催しました。本会議と並行して北東連邦大学と共催で行われた「Cold Lands Seminar」では，人材育成における今後の連携基盤の構築を目指し，北方圏の経済・社会・先住民・環境・インフラ・地域間交流等の研究・教育に関わる日本の専門家が，様々な専門分野における報告をしました。<br>Northern Sustainable Development Forumはロシア国会，北部各地の議会，モスクワ国立大学，サンクトペテルブルク国立大学，サンクトペテルブルク国立工科大学，ウラル連邦大学，シベリア連邦大学，チェリャビンスク国立大学，現地の複数の大学や研究所（ヤクート国立農業アカデミー，北極国立文化芸術大学，ロシア科学アカデミー極東支部北方圏生物問題研究所等），北極南極研究所，数多くのロシアの企業（特にIT系），NGO（WWF RussiaやRussian Association of the Indigenous Peoples of the North,<br>Siberia and the Far East等），マスコミ等の代表（http://nsdf.ru/en/list-of-particpants/）との交流や，今後の協働事業の可能性について話し合う好機となりました。またそれを契機として，エカテリンブルク・ノリリスク・サンクトペテルブルク各地で10～11月に開催したHaRP関連のイベントでの人的ネットワーク拡大，及び第2回日露産官学連携実務者会議（2020年1月31日開催）へロシア各地から多数の参加者を得ること（30大学・47 |

| | |
|---|---|
| | 名）へとつながりました。<br>　また，北東連邦大学と共催で行った一連のCold Lands Seminarに参加した北海道大学の研究者は，それを機に専門セクションに参画することとなりました。2020～2021年の「日露地域・姉妹都市交流年」（日露地域交流年）を意識して，HaRPとして「北極地域コンソーシアム」のようなものを構築できれば，多くのステークホルダーと協働し，北方圏の課題を解決する多面的な専門家育成が出来ることが期待されます。 |
| **関連URL** | http://nsdf.ru/en/ |




9月25日. NSDFの全体会議のセッション4. The Arctic and Asia: Opportunities and Areas of Cooperation. 田畑 伸一郎, 北海道大学, スラブ・ユーラシア研究センター, 教授. “People and Community in the Arctic: Possibility of Sustainable Development.”



9月26日. Cold Lands Seminar. Arctic and Asia. Specialized Section 3: “Environmental Monitoring”. 杉本 敦子, 北海道大学, 北極域研究センター, 教授. “Environmental Monitoring in Permafrost Territories.” Ram Avtar, 北海道大学, 地球環境科学研究院, 助教. “Multisensor Remote Sensing Techniques for Environmental Monitoring.”



9月27日. Cold Lands Seminar. Arctic and Asia. Specialized Section 4: “Humanities”. 後藤正憲, 北海道大学, スラブ・ユーラシア研究センター, 助教. “The Reconstruction of the Binary Opposition in the Livestock Sector of the Sakha people.” Jeffrey Gayman, 北海道大学, メディア・コミュニケーション研究院, 教授. “Challenges and successes of working with local indigenous peoples in a school curriculum for Hokkaido University on Education for Sustainability. ” Tyrel Eskelson, 北海道大学, メディア・コミュニケーション研究院, 特任助教. “Education for Sustainable Development: Fundamentals and Methodology.” Tatyana Tsagelnik, 北海道大学, 北海道大学, 大学院国際広報メディア・観光学院. “The Impact of Discourse on Cultural Sustainability: Representation of the Ainu People and Culture in Japan.” Ashley Dollin, 北海道大学, 大学院国際広報メディア・観光学院. “Studying the Problems of Indigenous Representation through the Media.”

# 専門セクション活動報告書（複数セクションにわたる活動②）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | 100+ Forum Russia – International Forum for High-rise and Special Constructions@Yekaterinburg |
| **開催時期** | 2019年10月29～1月1日 |
| **開催場所** | エカテリンブルク市，スヴェルドロフスク州，ロシア |
| **主催者** | ● ロシア連邦建設・住宅公営事業省<br>● スヴェルドロフスク州<br>● ロシア連邦建築建設科学アカデミー<br>● ウラル連邦大学<br>● ウラル国立建築芸術大学等 |
| **HaRP関連の発表，HaRP事務局と共催のイベント** | HaRP関係の発表者・・・<br>● 瀬戸口 剛．北海道大学大学院工学研究院，研究院長，教授<br>● 渡辺 典大．北海道大学大学院工学研究院，助教<br>● ロマーエヴァ マリーナ，北海道大学国際部国際連携課，産学官連携コーディネーター<br><br>HaRP事務局，専門セクション活動・・・<br>● 10月29日（火）露日協会スヴェルドロフスク州支部との打合せ，ウラル国立経済経営大学訪問<br>● 10月30日（水）露日協会エカテリンブルク市支部との打合せ，スヴェルドロフスク州国際交流・経済協力局との打合せ，ウラル連邦大学（経済経営学部及び建築建設学部）訪問<br>● 10月31日（木）10:00–11:30 100+ フォーラム「Creating a Comfortable Urban Environment – A Way to Improve the Quality of Life」セッションに参加，日本語学校訪問「ゆめ」 |
| **関連専門セクション** | (2) 都市づくり; (4) エネルギー開発; (6) 極東の産業振興; (7) 先端技術協力; (8)言語・文化・観光 |
| **活動内容** | エカテリンブルク市は，モスクワ，サンクトペテルブルク及びノヴォシビルスクに次いで第4位の人口を持つロシアの大都会であり，ロシア最大の産業博覧会「イノプロム」の開催地です。日本は2017年開催の「パートナー国」となることに合意し，「イノプロム2017」では，日本企業の総合ブース「ジャパンパビリオン」の設置，日露ビジネスフォーラムをはじめとする多彩なビジネスプログラムが実施されました。また「北海道ブース」も出展し，道内企業等27社による道内の技術や製品のPR展示を行うとともに，北海道大学大学院工学研究院の瀬戸口 剛教授よ |

| | |
|---|---|
| | り北方圏のまちづくりの研究背かも紹介し，本道の魅力をロシア全土に向けて発信しました。<br>ビジネスプログラムと同時に各種文化プログラムが披露され，そのうち，総務省の日露地方自治体間交流促進事業の一環として，神戸市が主催した学術・学生交流プログラムに神戸市内の3大学（神戸大学・神戸学院大学・神戸市立外国語大学）が参加し，エカテリンブルク市とウラル連邦大学を訪問し学生間交流を行った。このような交流事業の背景には，露日協会エカテリンブルク市支部（情報文化センター「日本」）の長年の活動があり，それを基にエカテリンブルク市はロシアの中でも露日交流が最も発展している地域となりました。<br>2019年度初めに露日協会エカテリンブルク市支部から派生したスヴェルドロフスク州支部のZanin支部長から同市で毎年開催される国際的な会議「100+フォーラム」の紹介があり，都市づくり専門セクションのリーダー校である北海道大学大学院工学研究院の瀬戸口 剛研究院長・教授及び渡辺 典大助教が参加しました。<br>「100+フォーラム」は，高層ビルやユニークな建造物の設計，建設，資金調達，運営に特化した専門的な展示会です。世界的な建築および建設業界の花形企業，連邦および地方当局，市町村の長，主要な建設の専門家，専門研究機関の代表者がこのイベントに参加しており，2019年には国連のWorld Cities Dayの行事がそのフォーラムを場として10月31日に開催されることとなり，国内外から大きな注目を集めました。<br>瀬戸口研究院長はパネリストとして10月31日の「Creating a Comfortable Urban Environment – A Way to Improve the Quality of Life」セッションに参加し，「Desirable High-rise Building Form Based on the Snow and Wind Tunnel Simulations for Winter Cities」について報告しました。その先日は，ウラル連邦大学建築建設学部を訪問し，同セッションのモデレーターを務めた，風雪の影響を考慮した建造物（住宅及び公共施設）設計という研究分野において多数の接点を持つAlyokhin副学部長と会談しました。<br>また，HaRP事務局としては日本の大学との交流に関心を示しているウラル連邦大学経済経営学部及びその連携先であるロシア科学アカデミーウラル支部研究所の研究員と情報交換を行いました。その後，2019年9月23ー27日にヤクーツクで開催されたNorthern Sustainable Development Forumで会ったウラル連邦大学のMalygina上級研究員と経済経営学部管理可能なシステム運営研究科のKruglikov准教授と打合せをしました。その結果，Kruglikov准教授とMalygina上級研究員が11月16日に北海道大学とノリリスク国立産業大学が，札幌市 に事務局が置かれている世界冬の都市市長会実務者会議（WWCAM WLOM）のサイドイベントとして共催した一連の日露パネルディスカッション「North for Work and Life」の「Session 2. Construction in regions with a cold climate, in permafrost. Smart City (energy efficient systems)」及び「Session 4. Long-term monitoring of the environment state in the Norilsk industrial region and adjacent territories. Efficient nature management, ecology」で報告することが合意され，今後の連携の基盤が構築されました。<br>そのコラボレーションに加え，Kruglikov准教授よりウラル連邦大学附属FANUC-UrFU研修センターの紹介を受け，同センターのオフチンニコヴァ所長（副学長補佐）と北海道大学がるHaRP事業の一環として2020年1月31日に東京で開催す第2回日露産官学連携実務 |

| | |
|---|---|
| | 者会議において，人材育成を目的としたウラル連邦大学とファナック株式会社の連携事業について発表してもらう可能性について話し合いました。<br>さらに，露日協会エカテリンブルク市支部と1月31日の実務者会議への参加について打合わせした他，スヴェルドロフスク州支部のZanin支部長の斡旋でウラル国立経済経営大学及びスヴェルドロフスク州国際交流・経済協力局，日本語学校「ゆめ」で日本との交流の実勢及び有望な交流分野等についてヒアリングしました。<br>このように，露日協会スヴェルドロフスク州支部の協力を得て，「都市づくり」セクション活動を推進するとともに，HaRP事務局として今後の日露交流の拠点となるスヴェルドロフスク州の主要な大学，地方公共団体，NGOとの連携体制が構築できました。その成果として，2019年11月のノリリスク市で開催された日露パネルディスカッション「North for Work and Life」における協働，2020年1月31日の実務者会議における地域レベル日露産学連携型の人材育成事業としてのラル連邦大学附属FANUC-UrFU研修センターの紹介，露日協会エカテリンブルク市支部代表の参加が挙げられます。<br>スヴェルドロフスク州の各大学・官民団体との連携と(2) 都市づくり・(4) エネルギー開発・(6) 極東の産業振興等の専門セクションにおける交流は，2020年1月に幕を開けた日露地域・姉妹都市交流年においてさらに発展し，同州のロシアの他地域との交流ネットワークを活用することによって更なる相乗効果を期待します。 |
| **関連URL** | 「100+フォーラム」のHP（「Creating a Comfortable Urban Environment – A Way to Improve the Quality of Life」セッションの詳細）<br>http://www.forum-100.com/program/creating-a-comfortable-urban-environment-a-way-to-improve-the-quality-of-life/<br>ウラル連邦大学のHP<br>https://urfu.ru/en/news/29493/ |




10月31日 「Creating a Comfortable Urban Environment – A Way to Improve the Quality of Life」セッションのモデレーターとパネリスト




10月31日　露日協会スヴェルドロフスク州支部長，ウラル連邦大学建築建設学部及び経済経営学の教員との集合写真

# 専門セクション活動報告書（複数セクションにわたる活動③）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | Lectures and Workshops, Panel discussions and Talk show “North for Work and Life” (held as part of the World Winter Cities Association for Mayors Working Meeting (WWCAM–2019)@Norilsk, November 14–18) |
| **開催時期** | 2019年11月14日 (Lectures&Workshops), 16日 (Panel discussions and Talk show) |
| **開催場所** | ノリリスク市，クラスノヤルスク地方，ロシア |
| **主催者** | ● ノリリスク市<br>● ノリリスク発展局<br>● MMC Norilsk Nickel PJSC<br>● 札幌市 総務局 国際部 国際課 (世界冬の都市市長会の事務局)<br>● ノリリスク国立産業大学<br>● 北海道大学　国際部　国際連携課　HaRP事務局 |
| **HaRP関連の発表，HaRP事務局と共催のイベント，HaRP関係の発表者** | 1. 11月14日. Juha Saunavaara, 北海道大学, 北極域研究センター, 助教.<br>2. “Needs and Problems of Communications Infrastructure in the Northern Regions.”<br>3. 11月16日. Japan-Russia Panel discussions “North for work and life”. 開会の挨拶 ロマーエヴァ マリーナ, 北海道大学国際部国際連携課, 産学官連携コーディネーター. Session 1. Information systems and technologies. Big Data. The introduction of IT in production processes. Session 2. Construction in regions with a cold climate, in permafrost. Smart City (energy efficient systems).<br>3.1. 森 太郎．北海道大学, 工学研究院, 准教授. “The impact of energy-efficient construction on the regional development (in winter cities).”<br>3.2. Filimonov Mikhail, Professor of the Controlled Systems Department, Ural Federal University, Ekaterinburg. Vaganova Natalia, Applied Problems Department, N.N. Krasovskii Institute of Mathematics and Mechanics, Ural Branch of the Russian Academy of Sciences. (online) “Simulation of thermal effects of engineering objects and climate changes on the permafrost boundaries.”<br>3.3. Kruglikov Sergey, Associate Professor, Head of the Controlled Systems Modeling Department, Head of the Applied Systems Research Laboratory, Institute of Economics and Management, Ural Federal University. (online) “Energy-efficient control system forming for “smart cities” in the Russian Arctic by optimizing energy supply |

and electric heating of urban settlements."

3.4. 飯田 隆元, 株式会社 ノースプラン, 取締役部長. (online) "Installation of wind and snow protection structures (implementation of projects in Sakhalin region)."

4. Session 3. Socio-economic problems of the North development. Logistics, maintenance and development of infrastructure. Problems of the indigenous peoples of Taimyr. Moderator: 大塚 夏彦. 北海道大学, 北極域研究センター, 副所長, 教授.

4.1. Voronenko Alexander, Head of Shanghai Cooperation Organization and Asia-Pacific Region Research Center, Khabarovsk State University of Economics and Law. (online) "Prospects for the interaction of Russian and American northern regions in the socio-economic sphere."

4.2. Prisyazhny Mikhail, First Deputy Minister of Education and Science of the Sakha Republic, Head of the Northern Studies Department, North-East Federal University. "Integrated research and activities of the Scientific and Educational Center for the Development of the Arctic and Subarctic "North"."

4.3. Jeffrey Gayman, 北海道大学, メディア・コミュニケーション研究院, 教授. (online) "Challenges and Issues of a Collaborative Program of Research and Education with the Ainu People of Japan."

4.4. 大塚 夏彦. 北海道大学, 北極域研究センター, 副所長, 教授. "Transformation of the logistics network in the Far North."

4.5. 飯田 隆元, 株式会社 ノースプラン, 取締役部長. (online) "Installation of wind and snow protection structures (implementation of projects in Sakhalin region)."

5. Session 4. Long-term monitoring of the environment state in the Norilsk industrial region and adjacent territories. Efficient nature management, ecology.

5.1. Tutubalina Olga, Leading Researcher of Aerospace Methods Laboratory, Department of Cartography and Geoinformatics, Faculty of Geography, Lomonosov Moscow State University. "Multiplatform monitoring of northern ecosystems in Russia".

5.2. Ram Avtar, 北海道大学, 地球環境科学研究院, 助教. (online) "InSAR analysis of Thermokarst Siberian Permafrost region."

5.3. Malygina Natalya, Senior Researcher of the Applied Systems Research Laboratory, School of Management and Interdisciplinary Studies, Ural Federal University. (online) "Digital technologies for the protection and development of wild reindeer populations of the

| | |
|---|---|
| | Yamal-Taimyr transect of the Russian Arctic in the framework of effective non-depleting nature management."<br>5.4. 立澤 史郎, 文学研究院, 助教. (online) "Drastic changes in wild reindeer habitat use and the need for trans-Siberian cooperation."<br>6. 11月16日. Talk show "Making winter city life better." 森 太郎. 北海道大学, 工学研究院, 准教授. "Making winter city life better in Sapporo, Hokkaido, Japan." |
| **関連専門セクション** | (4) エネルギー開発; (6) 極東の産業振興; (7) 先端技術協力; (8) 言語・文化・観光 |
| **活動内容** | 北海道地域コンソーシアムの活動として，札幌市総務局国際部国際課に事務局が置かれている「世界冬の都市市長会の実務者会議」が初めてロシアのノリリスク市で開催されることを受け，そのサイドイベントとして産学官のパネルディスカッションを行うことを提案しました。<br>現地のノリリスク国立産業大学と共催した4つのパネルディスカッションには北海道大学関係者（2名が渡航し，3名がオンラインで）のみならず，そのロシア側相手大学（モスクワ国立大学及び北東連邦大学：2名）や2019年9月23~27日のNorthern Sustainable Development Forum@Yakutskで知り合ったウラル連邦大学（4名）かハバロフスク国立経済法科大学（1名）の教員が参加した。さらに，北海道ロシア地域間協力チームに加入している日本企業1社（株式会社 ノースプラン）の代表もロシアで日本技術を導入した事業の実績について報告しました。冒頭挨拶では産学官連携型の人材育成推進・支援の役割を担うHaRP事業の紹介を行いました。<br>そのパネルディスカッションはクラスノヤルスク地方内外の大学のみならず，地方自治体・企業からも注目が集まりました。例えば，アイヌ民族を対象とした研究教育の報告はタイムル（ドルガン・ネネツ）郡（自治管区）議会議員や先住民及び農水局局長が聞きに来訪し，それぞれの立場から関連のテーマで発表し，ディスカッションに加わりました。また，ノースプラン社の報告に対しては，現地の大手企業（ロシア最大で世界でも有数の金属採鉱会社）ノリリスク・ニッケル系列の交通会社2社やノリリスク市博物館の代表がコメントし，1930年代に遡る現地の除雪・防風対策について情報交換を行いました。<br>また，そのパネルディスカッションの開催に先立ち，14日に北海道大学のSaunavaara助教が，現地において，極めて関心が高いテーマ（"Needs and Problems of Communications Infrastructure in the Northern Regions"）についてオンライン講演をしました。<br>さらに，北海道大学の森准教授は同日別会場で開催されたトークショーに出演し，学界・人材育成側を代表する唯一の有識者として冬の都市である札幌市の住宅環境整備について発言がありました。<br>以上のように，HaRP事業で企画実施したイベントが世界冬の都市市長会への学術有識者の関与・ロシア北部の大学の国際化，とりわけ日本の大学との交流発展に刺激を与え，今後ともパネルディスカッションに参加した大学や官民団体との連携の継続が期待されます。 |

| | |
|---|---|
| **関連URL** | http://norilsk2019.com/en<br>https://norvuz.ru/about_the_university/news/363464/<br>https://www.nstu.ru/news/news_more?idnews=120622 |



11月16日. Japan-Russia Panel discussions “North for work and life”. 参加者の集合写真




World Winter Cities Association for Mayors Working Meeting (WWCAM–2019)@Norilskに参加したHaRP関係者

ロマーエヴァ マリーナ, 北海道大学国際部国際連携課, 産学官連携コーディネーター

大塚 夏彦. 北海道大学, 北極域研究センター, 副所長, 教授

森 太郎. 北海道大学, 工学研究院, 准教授

# 専門セクション活動報告書（複数セクションにわたる活動④）

| | |
|---|---|
| **イベント名** | 北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合，寒冷地建築・北極域研究に関する意見交換，日露地域産学連携に関する情報収集 |
| **開催時期** | 2019年11月18～20日 |
| **開催場所** | サンクトペテルブルク市，ロシア |
| **主催者** | ● 北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合･･･北海道（総合政策部国際局国際課ロシアグループ），サンクトペテルブルク市政府<br>● 寒冷地建築に関する意見交換･･･サンクトペテルブルク国立大学建築土木大学，一般社団法人 北海道総合研究調査会（HIT）<br>● 北極域研究に関する意見交換･･･北海道大学，サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部，北極南極研究所（AARI）<br>● 日露地域産学連携に関する情報収集･･･北海道大学，サンクトペテルブルク日本センター，サンクトペテルブルク国立工科大学 |
| **HaRP関連の発表，HaRP事務局と共催のイベント** | HaRP関係の発表者･･･<br>● 大塚 夏彦. 北海道大学, 北極域研究センター, 副所長, 教授<br>● 森 太郎. 北海道大学, 工学研究院, 准教授<br>● ロマーエヴァ マリーナ, 北海道大学国際部国際連携課, 産学官連携コーディネーター<br><br>HaRP関連の発表，HaRP事務局と共催のイベント･･･<br>● 11月19日 10:00−12:30 北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合への参加，大塚教授及び森准教授による報告<br>● 11月19日 15:00−17:00 寒冷地建築に関する意見交換会（サンクトペテルブルク国立大学建築土木大学及び一般社団法人 北海道総合研究調査会共催）<br>● 11月18日 13:00−14:30 北極域研究に関する意見交換会（Arctic Workshop）サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部等の教員及び学生が参加<br>● 11月20日 11:00−12:30 北極域研究に関する意見交換会（北極南極研究所（AARI）の研究者との交流）<br>● 11月20日 9:00−10:00, 15:30−17:00 日露地域産学連携に関する情報収集（サンクトペテルブルク日本センター，サンクトペテルブルク国立工科大学） |
| **関連専門セクション** | (2) 都市づくり; (4) エネルギー開発; (6) 極東の産業振興; (7) 先端技術協力 |
| **活動内容** | 北海道地域コンソーシアムの活動，すなわち北海道 総合政策部 国際局 国際課 ロシアグ |

| | |
|---|---|
| | ループとの連携の一環として，2018年8月のサンクトペテルブルク市代表団来道をはじめ北海道大学が関わってきた北海道とサンクトペテルブルクとの地域交流の人材育成分野での産学官連携構築を図って，北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合・寒冷地建築に関する意見交換会に参加するとともに，現地の研究教育機関や行政機関を訪問してワークショップ開催など情報交換を行いました。<br>1. 11月19日のワーキンググループ第3回会合では大塚教授，森准教授がそれぞれ代表する北海道大学の北極域研究センター，工学研究院の寒冷地の観測・海運・建築といった分野での日露北部地域への社会貢献，両国各地の今後の連携モデルとなり得る交流の実績（グッド・プラクティス）について報告しました。<br>2. 一般社団法人 北海道総合研究調査会及び（北海道大学工学部が2019年に部局間交流協定を締結した）サンクトペテルブルク国立大学建築土木大学が共催した11月19日の寒冷地建築に関する意見交換会には北海道大学，札幌市立大学，北海道科学大学の教員，北海道建設部の関係者，建設企業（岩倉化学工業株式会社，あいもり株式会社，コスモ建設株式会社，株式会社誠和工業）の代表取締役，北方建築総合研究所（道総研）やHITの専門家が出席した。大学間交流（相互のサマースクールなどのショートプログラムへの学生派遣，学会への参加，研究交流等）に加えて，北海道，サンクトペテルブルクそれぞれが企画している歴史的建造物の修復改修プロジェクトに大学関係者が関わる可能性，担う役割等について話し合いをしました。<br>北海道とサンクトペテルブルクとの交流分野が寒冷地建築の他，観光，教育，文化，北極域研究開発を含めて多岐にわたっており，HaRP事務局もその大学関係者の取り組みを支援してきました。<br>今回のサンクトペテルブルク訪問は2019年9月23ー27日にヤクーツク市で開催されたNorthern Sustainable Development Forumで会ったサンクトペテルブルク国立大学国際関係学部のKharlampieva准教授，アジア経済研究センター（その所長は小手川 大助，元IMF日本代表理事）のBelozyorov副所長，Sokolovskaya上級研究員との連携構築への一歩となりました。<br>3. Kharlampieva准教授は，18日に国際関係学部その他の学部の教員と学生を集めたArctic Workshopを開き，大塚教授，森准教授は出席者から数多くの質問を投げかけられ，北方圏における日露の協力分野・方向について意見を交わしました。同ワークショップの開催に続いて，Kharlampieva准教授は2020年3月2ー6日に東京で開催される北海道大学が開催者となっていた第6回国際北極研究シンポジウム（ISAR-6）に参加することとなりました（ただし，新型コロナウイルス感染予防のために中止）。<br>4. Belozyorov副所長はHaRP事務局より北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合の案内を受け，19日にアジア経済研究センターの活動，日本の大学その他の団体との交流の展望について報告しました。<br>5. 20日，北海道大学極東地域研究センターの大塚副所長は極東南極研究所（AARI）を訪問し，今後の共同研究・インターンシップの可能性について情報交換を行ったほか，同研究所の国立極地研究所（NIPR）及び株式会社島津製作所（Shimadzu Corporation）との連携について情報収集をしました。島津製作所は研究用の設備の |

| | |
|---|---|
| | みならず，その使用指導，技術サポートを提供しているとのこと。<br>6. サンクトペテルブルクの研究教育機関と日本企業との連携事例について20日にサンクトペテルブルク日本センターとサンクトペテルブルク国立工科大学においてもヒアリングし，川崎重工業株式会社のKawasaki Robotics GmbH社及びロシア連邦販売代理店Robowizard LLCが同大学においてKawasaki Robotics Technology Center (KRTC) を開設したこと等を知ることができました。<br>サンクトペテルブルク訪問時に打合せなどをした各団体の関係者にその後，2020年1月31日に東京で開催された第2回日露産官学連携実務者会議の案内を送信し，ロシアの地域的取り組みの事例としてサンクトペテルブルク国立工科大学附属KRTCを紹介した同センター所長及び青年活動支援部部長，川崎重工業株式会社マーケティング本部の代表，ワーキンググループ第3回会合に代表を派遣したサンクトペテルブルク国立文化大学の教員等が実務者会議に参加しました。<br>サンクトペテルブルクの研究教育機関，日露行政機関及び日本企業支部等のと連携は来年度以降も北海道地域コンソーシアム枠内において，並びに専門セクション参画者の活動を通じて展開されるよう，HaRP事務局でできる支援を続けたいと考えます。 |
| **関連URL** | 北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合<br>http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/russia/20191119.pdf<br>https://www.gov.spb.ru/press/government/177594/<br>http://www.econ.spbu.ru/ru/news-events/news/zasedanie-rabochey-gruppy-po-razvitiyu-sotrudnichestva-mezhdu-peterburgom-i<br>寒冷地建築に関する意見交換（サンクトペテルブルク国立大学建築土木大学）<br>https://www.spbgasu.ru/en/news/5254/<br>https://www.spbgasu.ru/Novosti/5250/<br>北極域研究に関する意見交換（サンクトペテルブルク国立大学国際関係部）<br>http://sir.spbu.ru/news/?id=4668 |



11月18日にサンクトペテルブルク国立大学国際関係学部と共催したArctic Workshop発表者



11月19日の北海道とサンクトペテルブルクとの協力発展に関するワーキンググループ第3回会合に参加したHaRPの専門セクション参画者　北海道大学の大塚教授及び森准教授



11月19日にサンクトペテルブルク国立建築土木大学で開催された寒冷地建築に関する意見交換会参加者

# 専門セクション活動状況一覧表2019

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （1）医療健康 | 新潟大学 | 山川 詩保子 | 医学・医療全般 | 日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築 (Japan-Russian G-MedEx Project, G-MedEx) | 学生の派遣<br>その他（企業・地方自治体等（地域コンソーシアム）との連携） | 学部<br>修士<br>博士 | ・クラスノヤルスク国立医科大学<br>・極東国立医科大学<br>・北東連邦大学<br>・サンクトペテルブルク国立大学<br>・太平洋国立医科大学<br>・カザン連邦大学<br>・カザン国立医科大学<br>・モスクワ国立大学<br>・モスクワ国立第一医科大学（セチェノフ大学） | ・新潟県<br>・新潟市<br>・環日本海経済研究所（ERINA）<br>・株式会社 第四銀行<br>・三井物産株式会社（日露医学医療交流コンソーシアムにいがた） | 学部<br>受入　22名　派遣　16名<br>大学院<br>受入　1名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・夏期医学生交流プログラムにて10名の学部生を派遣、22名の学部生を受入。医学研究実習プログラムにおいては4名の学部生を派遣。<br>・モスクワ国立第一医科大学（セチェノフ大学）にて開催された外科オリンピックに2名の学部生が参加。<br><br>②企業・地方自治体等との連携<br>・下記③に記載のハバロフスクでのイベントにおいて、「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」加盟団体によるセッション・展示等を実施。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・国費外国人留学生1名を受入。<br>・11月にハバロフスク（極東国立医科大学）において、「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」と同大の共催により、一般市民向けに医療や健康に関わる公開講座「極東医療・健康セミナー」を開催し、267名の参加を得た。 |
| | 筑波大学 | 未定（旧：菅井先生） | | ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム | その他（実習、実務研修） | 学部（一部修士・博士） | ・ロシア国立研究医科大学<br>・モスクワ国立大学<br>・カザン連邦大学<br>・ノヴォシビルスク国立医科大学<br>・太平洋国立医科大学<br>・ロシア各地の病院 | | | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・ロシアの医科系大学、医学部を有する大学と医療実務研修などの双方向の交流を実施。 |
| | 金沢大学 | 原 章規 | ・脳神経科学<br>・予防医科学<br>・がん医科学<br>・循環医科学 | 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム（先制医療プログラム） | 学生の相互派遣 | 教員（研究交流）<br>博士 | ・カザン連邦大学<br>・ クラスノヤルスク国立医科大学<br>・サンクトペテルブルグ国立第一医科大学<br>・タタルスタン共和国がんセンター | 理化学研究所 | 受入 6名　派遣 4名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2017年度から実施している世界展開力強化事業(ロシア)の体系的で多層的な学生交流プログラム「先制医療プログラム」に今年度はクラスノヤルスク国立医科大学、サンクトペテルブルク国立第一医科大学、サンクトペテルブルク国立大学及びモスクワ国立大学から博士課程学生が6名参加し、ラボローテーションによる先端技術の修得及び相互の大学における交流のさらなる発展につなげた。<br>・また、2019年9月にはサンクトペテルブルク国立第一医科大学との共催でシンポジウムを開催し、金沢大学から博士課程の大学院生と教員が4名ずつ参加し、大学院生はポスター発表を実施し、それにより、今後の共同研究などに繋げることができた。 |
| | 長崎大学 | 高村 昇 | 被ばく医療 | 日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業 | 学生の相互派遣 | 修士 | ・北西国立医科大学<br>(・ゴーメリ国立医科大学<br>・ベラルーシ国立医科大学) | ・福島県立医科大学<br>・福島県川内村<br>・福島県富岡町<br>・福島県大熊町<br>・原子力安全研究協会<br>・アルパイン株式会社 | 受入 10名<br>派遣 14名（派遣のうち4名は福島県立医科大学より） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・北西国立医科大学　学生交流協定（2013年～）<br>学生の相互派遣<br>（受入）10月「川内村実習」5名、12月「放射線防護学Ⅰ・Ⅱ」5名<br>（派遣）1月「生物統計学」9名（うち留学生7名）<br>・講義を3大学の学生が共修（10月 川内村実習及び救急医学実習-福島、12月 放射線防護学Ⅰ・Ⅱ-長崎大学、1月 生物統計学-サンクトペテルブルク）<br>・衛生テレビ会議（3大学 3度）<br><br>②企業・地方自治体等との連携<br>・受入留学生は災害・被ばく医療科学共同専攻学生と共に福島県川内村の長崎大学・川内村復興推進拠点、長崎大学、川内村役場及び原子力安全研究協会が共同運営しているKNNセンターにおいてフィールド実習を行った。<br>・2020年3月に予定していたワークショップ（川内村報告会）については、新型コロナウイルス感染症（COVID-2019）の拡大影響のため、中止とした。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・日露大学協会総会（2019/9/22-9/24 ロシア）<br>・日露学生フォーラム（2019/9/22-9/27　ロシア）<br>・日露産官学連携実務者会議（2020/1/31　東京）<br>・災害・被ばく医療科学共同専攻のロシア語版HPの開設、同専攻のロシア語版パンフレットを各協力機関、ロシア語圏の大学、ロシアでの日本留学フェアへ配布を行った。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （1）医療健康 | 東海大学 | 山本 佳男 | ライフケア | ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成―主に極東地域の経済発展を目的として― | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士 | ・極東連邦大学<br>・サハリン国立大学<br>・モスクワ国立大学<br>・国立研究大学高等経済学院（HSE）<br>・極東国立医科大学<br>・サハリン国立大学<br>・極東連邦大学附属病院<br>・北斗医療センター（ウラジオストク）<br>・北斗リハビリセンター（ウラジオストク）等 | ・神奈川県伊勢原市役所<br>・未病センター（神奈川県） | 中長期海外研修<br>受入　16名　派遣　10名<br>短期海外研修<br>受入　15名<br>健診人材研修<br>受入　5名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・受入留学生：モスクワ国立大学（2018年9月～2019年7月：2名、2019年4月～7月：4名）、極東連邦大学（2019年4月～7月：5名、2019年9月～2020年3月：6名）、国立研究大学高等経済学院（2019年4月～7月：2名、2019年9月～2020年3月：1名）、サハリン国立大学（2019年4月～7月：1名、2019年9月～2020年3月：1名）、極東連邦大学（2020年2月：13名）、極東国立医科大学（2020年2月：2名）、計37名。<br>・派遣留学生：モスクワ国立大学（2018年9月~2019年7月：4名、2019年9月~2020年7月：2名）、極東連邦大学（2019年9月~2020年1月：2名）国立研究大学高等経済学院（2020年1月~3月：6名）。<br>・2020年2月健診人材実務者研修（学生5名を極東連邦大学附属病院にてプログラムに参加するために派遣）予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。<br>・受入留学生は、2020年2月に東海大学医学部付属病院にて研修を実施。5名の健診人材実務者留学生を受入。<br><br>②企業・地方自治体等との連携<br>・2019年9月からの受入留学生は、神奈川県伊勢原市と連携し「伊勢原市未病センター」および伊勢原市役所にてインターンシップを実施。<br>・健診人材実務者研修派遣学生は、ウラジオストク北斗医療センター、および北斗リハビリセンターにてインターンシップを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） |
| | 福島県立医科大学 | 和栗 聡 | 被ばく医療 | | 学生の相互派遣 | 修士 | ・北西国立医科大学<br>(・ゴーメリ国立医科大学<br>・ベラルーシ国立医科大学) | 長崎大学 | 受入　10名<br>派遣　2名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年4月～5月に学部学生2名をゴーメリ国立医科大学・ベラルーシ国立医科大学に派遣、単位互換なし。<br>・2019年1月～2月に修士学生2名を北西国立医科大学に派遣。単位互換を予定（長崎大学と共同）。<br>・2019年10月川内村実習における留学生受入（長崎大学と共同）。 |
| （2）都市づくり | 北海道大学 | 瀬戸口 剛<br>渡部 典大 | 寒冷地適応型省エネ技術 | ・極東・北極圏の専門家を目指す日露教育プログラム（RJE3プログラム）<br>・HaRPプログラム | 学生の相互派遣<br>その他（大学訪問、日露産学官連携型のイベントへの参加） | 学部<br>修士<br>博士 | ・極東連邦大学<br>・北東連邦大学<br>・イルクーツク国立大学<br>・サハリン国立大学<br>・太平洋国立大学<br>・サンクトペテルブルク国立建築土木大学 | RJE3特別演習Ⅰ（寒冷地建設技術フィールドスクール）の自治体・協力企業等<br>・北海道庁<br>・北海道開発局<br>・恵庭市<br>・株式会社　北海道日建設計<br>・株式会社　ドーコン<br>・北海道立総合研究機構　建築研究本部 | RJE3特別演習Ⅰ（寒冷地建設技術フィールドスクール）参加学生<br>・受入 7名<br>RJE3日露デザインスクール参加学生<br>・派遣　学生12名、教員2名<br>ロシア各地訪問<br>・派遣　教員2名 | 極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組である北海道大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）であるRJE3プログラム<br>①大学間協定に基づく学生交流<br>・北海道大学サマーインスティテュートを開催（RJE3特別演習Ⅰ（寒冷地建設技術フィールドスクール））。<br>・ラーニングサテライト事業（RJE3 日露デザインスクール）。①大学間協定に基づく学生交流<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・RJE3特別演習Ⅰ（寒冷地建設技術フィールドスクール）にて道内建築系企業、 研究機関、 行政機関等を訪問。<br>・RJE3 日露デザインスクールにてハバロフスク市内建築・デザイン企業を訪問。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2020年2月18～20日に太平洋国立大学で開催された第20回国際フォーラムNew Ideas of New Centuryに参加。<br><br>HaRPプログラム<br>①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年10月28日、サンクトペテルブルク国立建築土木大学と部局間協定を締結。今後の学生交流について意見交換を行った。サンクトペテルブルク国立建築建設大学にはRJE3プログラムに関連したサマーインスティテュートを紹介しており、学生受入を検討中。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年10月30日、ウラル連邦大学建築建設学部を訪問し、北海道大学大学院工学研究院とHaRP事業を紹介、Alyokhin副学部長等と今後の学生交流について意見交換を行った。<br>・日本が2017年の「パートナー国」となった、エカテリンブルク市の「イノプロム2017」の「北海道ブース」において、道内企業等27社による道内の技術や製品のPR展示を行うとともに、北海道大学大学院工学研究院の瀬戸口 剛教授より北方圏のまちづくりの研究成果も紹介し、本道の魅力をロシア全土に向けて発信した。それに続いて、高層ビルやユニークな建造物の設計、建設、資金調達、運営に特化した専門的な展示会である2019年10月の「100+フォーラム」瀬戸口研究院長、渡部助教が参加。国連のWorld Cities Dayの行事がそのフォーラムを場として開催された10月31日に瀬戸口研究院長がパネリストとして「Creating a Comfortable Urban Environment – A Way to Improve the Quality of Life」セッション（ウラル連邦大学建築建設学部主催）に参加し、「Desirable High-rise Building Form Based on the Snow and Wind Tunnel Simulations for Winter Cities」について報告。<br>・2019年11月1日、ノヴォシビルスク国立建築土木大学（Sibstrin）を訪問、北海道大学大学院工学研究院とHaRP事業を紹介、学生交流事業の可能性について意見交換を行った。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （2）都市づくり | 北海道大学 | 森 太郎 | 寒冷地適応型省エネ技術 | ・極東・北極圏の専門家を目指す日露教育プログラム（RJE3プログラム）<br>・HaRPプログラム<br>・北海道・ロシア地域間協力プログラム | 学生の相互派遣<br>その他（パネルディスカッション・セミナー・意見交換会等への参加、実務交流、実務研修） | 修士<br>その他（行政機関・民間企業の関係者、研究者） | ・極東連邦大学<br>・サンクトペテルブルク国立建築土木大学<br>・ノリリスク国立産業大学<br>・ノリリスク市、ノリリスク市発展局<br>・GradSovet LLC | ・札幌市立大学<br>・北海道科学大学<br>・北方建築総合研究所（道総研）<br>・北海道総合研究調査会（HIT）<br>・北海道<br>・札幌市<br>・北海道の建設企業　4社 | 派遣<br>・GreenFest　学生3名、教員2名<br>・WWCAM実務者会議、日露パネルディスカッション　教員2名<br>・北海道とサンクトペテルブルク市との協力発展に関する第3回ワーキンググループ会合、寒冷地建築に関する意見交換会　10数名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年11月18日、10月に部局間協定を締結したサンクトペテルブルク国立建築土木大学と学生・研究交流について打ち合わせ。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・2020年10月10～12日にウラジオストクで開催された国際建築環境フェスティバルGreenFestに北海道大学の教員2名・学生3名が参加。持続可能な都市づくり、パッシブハウス技術について情報・意見交換。<br>・2019年11月15日に、世界冬の都市市長会（WWCAM）の事務局が置かれている札幌市 総務局 国際部 国際課との連携の一環として、ノリリスク市で開催されたWWCAM実務者会議、16日にノリリスク国立産業大学と北海道大学が共催した日露パネルディスカッションに参加。同日、WWCAM実務者会議のサイドイベントとして行われたトークショーに出演し、学界・人材育成側を代表する有識者として冬の都市である札幌市の住宅環境整備について発言。WWCAM実務者会議には現地の有力企業（世界有数の鉄金属生産企業）Norilsk Nickel社の関係者も参加。他のロシアの地方自治体（WWCAM会員都市であるノヴォシビルスク市、マガダン市等）と交流。永久凍土地帯の建設現場を視察。<br>・2019年11月、北海道 総合政策部 国際局 国際課 ロシアグループとの連携の一環として、北海道とサンクトペテルブルク市との協力発展に関する第3回ワーキンググループ会合（19日）、10月に部局間協定を締結したサンクトペテルブルク国立建築土木と北海道総合研究調査会（HIT）が共催した大学寒冷地建築に関する意見交換会（19日）に参加。大学間交流（相互のサマースクールなどのショートプログラムへの学生派遣、学会への参加、研究交流等）に加えて、北海道、サンクトペテルブルクそれぞれが企画している歴史的建造物の修復改修プロジェクトに大学関係者が関わる可能性、担う役割等について論じた。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年11月18日、サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部で開催された国際セミナー（Arctic Workshop）で発表。サンクトペテルブルク国立大学の他の学部を含めて、教員約10名、学生約20名参加約30名参加。 |
| | 新潟大学 | 道上 真有 | ・日本住宅企業のロシア進出の展望と課題<br>・日露住宅市場比較<br>・極東ロシア地域等におけるロシアの産業多様化・産業振興（住宅、観光、地場産業、ネットビジネスほか）<br>・日露の少子高齢化への対応 | | 学生の相互派遣<br>その他（共同研究） | | ・極東連邦大学<br>・サンクトペテルブルク国立経済大学<br>・ハバロフスク国立経済法科大学<br>・極東国立交通大学<br>・カザン国立建築大学（検討中） | | 夏の新潟大学サマースクール<br>受入　6名<br>経済学部国際交流事業<br>派遣　10名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年5月極東連邦大学と大学間交流協定締結し、少子高齢化の対策について共同研究を開始。その成果を2022年ごろに図書刊行予定。<br>・2019年8月極東連邦大学工学部都市づくり建築学科と極東地域の都市づくり・住宅開発における日露協力の可能性について、共同研究協定を締結した。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年9月カザン国立建築大学を訪問し、ロシアにおける日本住宅企業のビジネス展開と課題についての講演を行った。学生視聴者数50名。同大学建築経済学科と共同研究に向けた話し合いを継続している。<br>・2019年8月に新潟大学サマースクールへ、サンクトペテルブルク国立経済大学並びに極東連邦大学(双方とも道上の担当校）から来日、6名程度受け入れを行い、1コマ経済学部にて授業を実施した。<br>・2019年8月に経済学部国際交流事業として、極東国立交通大学で開催された日・台・韓・露4か国学生サマーワークショップ派遣10名（ネットビジネスについての英語による授業）。 |
| | 東京大学 | 加藤 浩徳 | 社会基盤学 | | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士<br>博士 | ・モスクワ国立大学<br>・サンクトペテルブルク国立大学 | | | 前任の佐藤慎司教授から加藤浩徳教授が引き継いだ。2019年度まで、東京大学が実施してきた大学の世界展開力強化事業「自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム（STEPS）」が終了したが、JASSOのプログラムを利用して、東京大学からモスクワ国立大学、サンクトペテルブルク国立大学への学生派遣を計画した。しかし、参加希望学生がいなかったため、実質的な活動は行えていない。 |
| | 長岡技術科学大学 | 鳩山 紀一郎 | ・交通計画<br>・都市計画<br>・地盤工学<br>・水工学など | Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE) | 学生の受入 | 学部3年（5年制大学の場合は学部4年） | ・モスクワ国立大学<br>・極東国立交通大学 | | 受入　4名<br>（極東国立交通大学　2名、モスクワ国立大学　2名） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年8月に極東国立交通大学の学生1名をNASSYEプログラム生として受入。<br>・2019年9月にモスクワ国立大学と大学間交流協定及び学生交流覚書を締結し、同大学心理学部及び計算数理サイバネティクス学部へ1名ずつ学生を5カ月派遣。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2020年3月に短期インターンシッププログラム生としてモスクワ国立大学の学生2名（3週間、交通心理実験の計画と実践）、極東国立交通大学の学生2名（2週間、交通シミュレーションを用いた交通対策評価法の習得）を受入。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （2）都市づくり | 北海道大学 | 杉本 敦子 | ・北極域の持続的開発<br>・永久凍土生態系 | J-ARC Netのプログラム | 学生の受入<br>その他（ウィンタースクール・サマースクールの開催） | 修士<br>博士 | ・北東連邦大学<br>・北東連邦大学のベンチャー企業<br>・ロシアの民間企業 | ・国立極地研究所<br>・海洋研究開発機構（JAMSTEC）<br>・日本の官公庁<br>・日本の企業 | 受入　5名<br>派遣　中止 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年8月4～14日、2017年より共同教育プログラム（Joint Master Course Program on Sustainable Development of the Arctic ）を実施している北東連邦大学と共同で北極域永久凍土生態系に関するサマースクール（北海道大学の2019年度ラーニング・サテライトプログラム）を実施（北極域永久凍土生態系実習）。<br>・2020年2月に北東連邦大学でウィンタースクールをヤクーツク市において開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>国立極地研究所、JAMSTEC、民間企業及び大学ベンチャー企業、官公庁の研究所等と連携（官民団体の関係者を招待するオープンセミナー開催など）。J-ARC Netのプログラムでは、大学のみならず、企業や官公庁も含めて若手の人材育成を行っている。 |
| | 札幌市立大学 | 山田 良 | ・空間デザイン<br>・寒冷地デザイン<br>・環境共生デザイン | | | 学部 | ノヴォシビルスク国立建築デザイン芸術大学 | | 派遣　20名 | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・「Tea House in Novosibirsk」：滞在や交流を目的とした現代の仮設「茶室」のデザインと制作。<br>2019年10月14~18日<br>・ノヴォシビルスク国立建築デザイン芸術大学建築デザインコースと札幌市立大学デザイン学部人間空間デザインコース山田良研究室による共同スタジオ及び作成制作（計約20名）。<br>・原寸作品（複数作品）を制作。<br>・作品プロセス・講評・レクチャーを通じた学生間、教員間の交流。<br>・公共空間（広場）での作品展覧会による市民交流。 |
| | 北海道大学 | 高橋 浩晃 | | | | | | | | ＊詳細は 「(4) エネルギー開発」の欄に記載 |
| （3）中小企業交流 | 北海道大学 | 杉本 敦子 | ・北極域の持続的開発<br>・永久凍土生態系 | | | | | | | ＊詳細は 「(2) 都市づくり」の欄に記載 |
| | 北海道大学 | 西田 まゆみ | 触媒 | | 学生の相互派遣<br>その他（企業の研究者との交流） | 修士<br>博士<br>その他（企業研究者） | ・ロシア科学アカデミーシベリア支部ボレスコフ触媒研究所（BIC）<br>・LLC Nanocomposite Materials Group of companies (NCM)<br>・LLC SYGMA-NOVOSIBIRSK | | 受入<br>LLC NCM 1名<br>LLC SYGMA-NOVOSIBIRSK 1名 | ②企業・地方自治体等との連携<br>・ロシア（CIS諸国）の先端技術に焦点をあて、鉱工業製品の輸入販売や、ロシア科学アカデミーの専門研究所及び、ロシア企業と協力し新技術・製品の開発を進めている株式会社ミール リミテッドの清水洋社長から紹介を受けたロシア企業ナノコンポジットマテリアル株式会社NCM（ナノ微粒子・ナノ複合材料の開発と製造）と北大・触媒科学研究所との交流を開始した。<br>・NCMが特に北大・触媒科学研究所・福岡教授の「フルーツの保存に関する研究」に非常に興味を持っており、北大訪問の意向があるので、触媒科学研究所に招き、交流を開始した。<br>・上記交流を通してNCMと触媒科学研究所の間で共同研究に発展させたい。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・上記案件とは別に、ノヴォシビルスク国立工業大学からプラズマ溶射に関する共同研究の可能性を持ちかけられているので、例年のサッポロ・ビジネス・レセプション in ノボシビルスクに参加し、日本の研究機関及び企業とのマッチングを図りたい。 |
| | 金沢大学 | 大友 信秀 | | 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム | 学生の相互派遣<br>その他（アントレプレナー教育、インターンシップ） | 修士 | カザン連邦大学 | | 派遣 12名（インターシップ参加者数） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・金沢大学の日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム「基礎科学プログラム」「先端科学技術プログラム」の参加者のうち12名が、カザン連邦大学留学中にロシアでの企業見学（Ford Sollers Elabuga組立工場（自動車メーカー））に参加した（2019年8月）。 |
| | 創価大学 | 小﨑 晃義 | | | 学生の受入 | 受入　1名 | ・モスクワ国立大学<br>・極東連邦大学 | | 1名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・極東連邦大学は、9月に1名受入。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>ロシア人の私費留学生（大学院生）に日本企業でのインターン志望についての聞き取りを行った。 |
| | 大阪大学 | 藤原 克美 | | | | | | | | ＊詳細は 「(8) 言語・文化・観光」の欄に記載 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （4）エネルギー開発 | 北海道大学 | 高橋 浩晃 | ・地震<br>・火山<br>・津波<br>・防災 | ・日本国及びロシア連邦の隣接地域における地震、火山噴火及び津波の予測、警戒及び対処の分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラム（政府日ロ防災協力プログラム、外務省）<br>・日露科学技術協力（文科省）<br>・北方四島専門家交流事業（内閣府） | 学生の受入 | 修士<br>博士 | ・ロシア科学アカデミー本部・研究所群（6カ所程度）<br>・極東連邦大学 | ・外務省<br>・文部省<br>・内閣府<br>・高知大学<br>・鹿児島大学 | 受入　1名<br>イベント参加　9名（内訳：3大学8名、1機関1名） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・極東連邦大学と1995年から研究協力を実施。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・日露青年交流センター交流事業で極東連邦大学博士課程院生が2018年11月から2019年10月31日まで滞在。2019年5月末に開かれる学会で、津波防災関係の発表。<br>・極東連邦大学工学部のShestakov部門長を2019年7月に招聘しワークショップを中心とする共同研究を実施。<br>・7月27日にミニワークショップを開催。他国（中国）・高知大学・鹿児島大学の教員、現在日露青年交流事業で来日している極東連邦大学の大学院生、理学研究院の大学院生が参加。 |
| | 北海道大学 | 杉本 敦子 | | | | | | | | ＊詳細は「(2) 都市づくり」の欄に記載 |
| | 東海大学 | 山本 佳男 | ・ガス<br>・原子力 | | その他（高等学校生徒の交流） | その他（高等学校生徒） | 私立ガスプロム小中高等学校（旧名 公共株式会社ガスプロム附属教育センター） | ・東海大学付属浦安高等学校・中等部<br>・東海大学付属高輪台高等学校・中等部<br>・東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部 | 受入　10名<br>派遣　2名 | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年10月3日、東海大学付属高輪台高等学校の生徒が2名、私立ガスプロム小中高等学校（モスクワ）を訪問。校長等の報告会、生徒のプロジェクト発表会に出席、校内を見学。<br>・2019年11月5日～9日、私立ガスプロム小中高等学校の教職員6名、生徒10名から成る代表団を受入。代表団は東海大学との協定に基づく学校交流を目的とする研修団で、2008年以来、日本とロシア相互に訪問し合い、学術・文化における学校間交流を続けている。代表団は11月8日に東海大学付属高輪台高校を訪問し、ロシアの文化紹介を行い、教職員、生徒間による活発な交流を行った。 |
| | 室蘭工業大学 | 安居 光國 | バイオマス | | | 修士 | 極東連邦大学 | ・北海道大学<br>・九州大学<br>・三笠市 | | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・活動実績はない。 |
| （5）産業多様化促進 | 北海道大学 | 高橋 浩晃 | ・地震<br>・火山<br>・防災 | | | | | | | ＊詳細は「(4) エネルギー開発」の欄に記載 |
| | 小樽商科大学 | 小林 友彦 | | | | | | | | ＊詳細は「(6) 極東産業振興」の欄に記載 |
| | 小樽商科大学 | 旗本 智之<br>玉井 健一 | ・サプライチェーン<br>・生産ラインの最適化<br>・産業の多角化 | | その他（教員の派遣） | 学部<br>その他（教員） | ・サンクトペテルブルク国立大学<br>・モスクワ国立大学 | 札幌大谷大学 | 教員　3名 | ＊詳細は 札幌大谷大学の山田助教の欄に記載 |
| | 札幌大谷大学 | 山田 政樹 | ・サプライチェーン<br>・生産ラインの最適化<br>・産業の多角化 | | その他（教員の派遣） | 学部<br>その他（教員） | ・サンクトペテルブルク国立大学<br>・モスクワ国立大学 | 小樽商科大学 | 教員　3名 | ②企業・地方自治体等との連携<br>・2019年9月にロシア日産自動車製造会社のサンクトペテルブルク工場を訪れ、工場を視察、NISSANのロシアで行っている生産活動及び人材育成に関するインタビュー調査を行った。また、サンクトペテルブルク日本商工会議所定例会でHaRP活動の紹介および今後の展望に関する発表を行った。ジェトロ・サンクトペテルブルク事務所訪問ではロシアの最近の経済概要、サンクトペテルブルク周辺のビジネス動向に関してのヒアリング調査を行った。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年3月にサンクトペテルブルク大学高等マネージメントスクールリサーチセンター、サンクトペテルブルク日本センターを小樽商科大学の教授2名とともに訪問している。また、同時にモスクワ国立大学ビジネススクールSergei Shaposhnikov准教授ともオンライン会議を行い、2019年7月に日本へ招待し、小樽商科大学で、「日露経済協力の発展可能性ー 今後の挑戦と機会について ー」をテーマとした講演会を行った。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （5）産業多様化促進 | 北海道大学 | 大塚 夏彦 | 北極域の持続的利用<br>海洋工学<br>海洋環境<br>社会基盤 | 極東・北極圏の専門家を目指す日露教育プログラム（RJE3プログラム） | その他（教員の派遣、情報交換及び今後の連携に関する意見交換） | 修士<br>博士<br>その他（教員） | ・極東連邦大学<br>・北東連邦大学<br>・北方（北極）連邦大学<br>・ノリリスク国立産業大学<br>・サンクトペテルブルク国立大学<br>・北極南極研究所 | ・北海道<br>・北海道総合研究調査会（HIT）<br>・札幌市<br>・北海道経済同友会 | 教員　1名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2019年8月4～14日、北海道大学の2019年度ラーニング・サテライトプログラムである北極域永久凍土生態系に関するサマースクールを北極域研究センターの杉本敦子教授とともに北東連邦大学で実施（北極域永久凍土生態系実習）。<br>・2020年2月に北東連邦大学でウィンタースクールをヤクーツク市において開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・北極海航路の利活用に関し、北海道経済同友会、港湾管理者、港湾物流関係企業、北海道、との連携のもと、ロシア関係者との情報交換を実施。<br>・2019年6月12日、ロシア国営企業であるロスアトム社の特別講演が行われた、国土交通所の「北極海航路に係る産学官連携協議会（第9回）」で報告。<br>・2019年11月12日、在ウラジオストク日本国総領事館を訪問。<br>・2019年11月15日に、世界冬の都市市長会（WWCAM）の事務局が置かれている札幌市 総務局 国際部 国際課との連携の一環として、ノリリスク市で開催されたWWCAM実務者会議実務者会議、16日にノリリスク国立産業大学と北海道大学が共催した日露パネルディスカッションに参加し、セッション4（Long-term monitoring of the environment state in the Norilsk industrial region and adjacent territories. Efficient nature management, ecology）のモデレーターを務めた（約20名参加）。WWCAM実務者会議に参加した現地の有力企業（世界有数の鉄金属生産企業）Norilsk Nickel社、他のロシアの地方自治体（WWCAM会員都市であるノヴォシビルスク市、マガダン市等）の関係者と交流。北極海航路の要港があるドゥディンカ市を訪問。ノリリスク市付近の永久凍土地帯の建設現場を視察。<br>・2019年11月、北海道 総合政策部 国際局 国際課 ロシアグループとの連携の一環として、北海道とサンクトペテルブルク市との協力発展に関する第3回ワーキンググループ会合（19日）、10月に部局間協定を締結したサンクトペテルブルク国立建築土木と北海道総合研究調査会（HIT）が共催した大学寒冷地建築に関する意見交換会（19日）に参加。また、サンクトペテルブルク日本センターを訪問し、日本のサンクトペテルブルク支部・工場と現地の大学との連携事業などについて情報収集。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年11月12日、極東連邦大学工学部を訪問、北極域研究センターの活動状況を紹介、相互のショートプログラムへの学生・研究者の派遣などについて情報交換。<br>・2019年11月18日、サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部で開催された国際セミナー（Arctic Workshop）で発表。サンクトペテルブルク国立大学の他の学部を踏めて、教員約10名、学生約20名参加約30名参加。<br>・2019年20日、北極南極研究所、サンクトペテルブルク国立工科大学自分学部を訪問し、学生・教員交流の可能性について会談。 |
| （6）極東の産業振興 | 北海道大学 | 高橋 浩晃 | | | | | | | | ＊詳細は 「(4) エネルギー開発」の欄に記載 |
| | 北海道大学 | 小林 真 | ・森林資源管理<br>・環境保護 | | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士 | 極東国立農業大学 | 北海道中川郡中川町 | 派遣 1名、　　1名 | ②企業・地方自治体等との連携<br>・極東国立農業大学の学部生は2月25～28日に開催された冬の森林生態学フィールドコースに参加し、冬山での森林伐採の現場見学を含む研究を受けた。同伐採は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターと包括的連携協定を結んでいる中川町との技術交流の一環としても開催されており、効率的な林業の実施、環境に配慮した林業等への理解を深めた。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・北海道大学大学院環境科学院修士課程学生1名が10月1～13日に行われた極東ロシアの森林調査およびロシア科学アカデミー極東支部地質・天然資源管理研究所（Institute of Geology & Nature Management）の見学会に参加。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (6) 極東の産業振興 | 千葉大学 | 髙垣 美智子 | ・スマート農業<br>・温室ビジネス（植物工場、食ビジネス）<br>・農業工学<br>・園芸学 | 極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム(FARM) | 学生の相互派遣<br>インターンシップ | 学部<br>修士 | ・沿海地方国立農業アカデミー<br>・極東国立農業大学<br>・サハリン国立大学<br>・ウスリースク市<br>・ノヴォシビルスク国立農業大学<br>・ロシア側民間企業（温室・養蜂等） | ・農林水産省<br>・柏市<br>・イワタニアグリグリーン　株式会社<br>・株式会社　プラネット<br>・双日　株式会社、双日食料株式会社<br>・ハンモ　株式会社<br>・NPO　植物工場研究会 | 派遣　27名（うち学生15名）<br>受入　36名（うち学生23名） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2017年度から大学間交流協定を締結している沿海地方国立農業アカデミーと多様な園芸学分野、養蜂、森林科学に関わる、サハリン国立大学とは農業及び食品ビジネス、農業行程管理、食品安全に関わる、交流プログラムをそれぞれ実施している。<br>・2019年度から大学間交流協定を締結して交流を開始した極東農業大学、ノヴォシビルスク国立農業大学からはそれぞれ学部学生を受け入れて、施設園芸、養蜂に関わる短期プログラムを実施した。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・ロシア人学生を受入時にイワタニアグリグリーン株式会社の協力により、千葉大学環境健康フィールド科学センター内の施設において短期インターンシップを実施した。また、長期滞在の留学生に対して、2020年3月に豊橋市の株式会社プラネットにおける5日間のインターンシップ受入れの了解をもらっていたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響で中止せざるを得なくなり、急遽、ハンモ株式会社でのインターンシップに変更した。<br>・日本人学生の派遣時に、サハリン、ウスリースクの数社の個人農企業を訪問した。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・派遣：沿海地方国立農業アカデミー、サハリン国立大学に短期派遣。<br>・2019年5月24日に、沿海地方農業農業アカデミーと共催で、沿海地方行政府、関連農企業、日本の企業数社、農林水産省関係者の参加を得て、「有機農業」に関わる第4回日本ロシア極東農業ビジネスフォーラムをウスリースク・沿海地方国立農業アカデミーにおいて開催し、教職員5名が参加した。<br>・2020年2月28日に、沿海地方国立農業アカデミーと共催で、サハリン国立大学、極東農業大学、ノヴォシビルスク国立農業大学等の関係者、官公庁、農業企業の参加を得て、「極東ロシアとの蜂蜜ビジネスの拡大」に関わる、第5回日本ロシア極東農業ビジネスフォーラムを千葉県柏市において開催する予定であったが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大から2020年度に延期することになった。 |
| | 新潟大学 | 長谷川 英夫 | ・育種学<br>・植物病理学<br>・土壌学<br>・土壌肥料学<br>・植物栄養学<br>・農業機械学<br>・農業施設学<br>・食用大豆<br>・薬用作物<br>・食品科学<br>・応用微生物<br>・森林環境科学<br>・農業経済<br>・農業機械 | ・平成26年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「ロシア連邦極東地域における高度農業人材育成プログラム」（博士後期課程）<br>・2018年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「ロシア連邦極東地域における高度農業人材育成プログラム」採択（博士前期課程＋博士後期課程）<br>・平成29年度「国際共同研究パイロット事業」（ロシアとの農業共同研究分野）（農林水産省農林水産技術会議） | 学生の相互派遣<br>その他（企業研修、学生主催の国際シンポジウムの開催など） | 学部<br>修士<br>博士 | ・ロシア科学アカデミー極東支部全ロシア大豆研究所<br>・極東連邦農業バイオテクノロジー研究センター<br>・沿海地方国立農業アカデミー<br>・ロシア側民間企業 | ・農林水産省<br>・新潟市<br>・農業食品関連企業 | 受入：<br>学生　2名（2019年9月のBRIDGE主催の国際学生フォーラム参加者）<br>ロシア優先配置受入学生　8名（太平洋国立大学　1名、クバン国立大学　3名、クバン国立農業大学　3名、ロシア水文気象環境監視局附属全地球気候・環境研究所　1名）<br>研究者　4名（ロシア科学アカデミー極東支部全ロシア大豆科学研究所）<br><br>派遣：<br>学生　0名（COVID-19のため2020年3月派遣中止）<br>研究者　延べ10名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2016年から大学間交流協定を締結している沿海地方国立農業アカデミーとの森林野生動物分野、工業技術分野の交流を発展させた。<br>・2019年9月9～19日、サマースクール（森林野生動物分野）に学部生・大学院生を派遣し交流の深化を図った。2020年3月にスプリングスクールを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・毎年9月中旬から下旬に農学部公認グローバル人材育成サークルBRIDGE主催の国際学生フォーラムに沿海地方国立農業アカデミーの学部生を招き、Sustainable food system―Stories on one plate―を開催し双方向の交流の発展を図った。BRIDGEは自ら民間助成金を獲得して、学生主体で国際フォーラムを開催している。<br>・（(6) 極東産業振興セクションとしての活動）7月にセクション準備会を開催（6校・13名）し、各校の取り組みに係る情報共有と諸課題に係る意見交換を行った。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者(2019年度) | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （6）極東の産業振興 | 金沢大学 | 長尾 誠也 | ・海洋科学<br>・環境科学<br>・生態学<br>・毒性学<br>・魚病学<br>・大気科学 | 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム | 学生の相互派遣<br>研究者の受け入れ<br>シンポジウムの開催 | 修士 | ・極東連邦大学 ロシア科学アカデミー極東支部<br>・ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋研究所 | | 受入　6名（教員のみ、極東連邦大学/ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所）<br>派遣　6名（教員4名、学生2名）<br><br>学生（イベント・調査参加）<br>研究集会 (15名 (ロシア研究員3名)、学生8名)<br>国際シンポジウム (3日間、のべ184名(ロシア研究員12名(4名3日間))　のべ学生77名)<br>共同研究 (調査6名 (学生2名))<br>シンポジウム (15名、うち学生9名) | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所、極東連邦大学に9月8～21日に大学院博士前期課程2年生を2名派遣。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・准教授1名　9月8～12日にロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所に派遣<br>○ 研究者受入<br>・ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所研究者2名（8月26日～8月31日）能登半島七尾湾における海底湧水共同調査<br>・ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所研究者4名（12月16日～12月21日）研究集会＆環日本海域環境研究センター主催国際会議招聘、金沢開催<br>○ 派遣<br>・PACOM-2019国際会議出席（inivited speaker）極東連邦大学、ウラジオストク（7月15日～7月18日）教授1名<br>・e-ASIA2019国際会議出席　極東連邦大学、ウラジオストク（8月12日～8月15日）教授2名<br>・共同研究（共同利用・共同研究拠点公募共同研究事業）<br>ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所との共同研究　(R01-R02年度）「環日本海域沿岸域における海底湧水の実態把握」<br>ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所との研究集会　(R01年度）「日本海における越境汚染の実態把握」 |
| | 小樽商科大学 | 小林 友彦 | ・教育<br>・人材開発 | | その他（ロシアの提携校の研究者による講演会の開催） | 学部<br>修士 | 極東連邦大学 | 小樽市 | 15名（講演会の参加者数、うちロシア人1名） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2020年1月14日に小樽商科大学法制研究会を北海道大学で開催。報告者: Vyacheslav Gavrilov教授（極東連邦大学法科大学院）。テーマ: "Legal Regulation of Navigation Along the Northern Sea Route"。 |
| | 大阪大学 | 藤原 克美 | | | | 学部<br>修士<br>博士 | 極東連邦大学 | | | ＊詳細は 「(8) 言語・文化・観光」の欄に記載 |
| | 新潟大学 | 道上 真有 | | | | | | | | ＊詳細は 「(2) 都市づくり」の欄に記載 |
| | 東京農業大学 | 丹羽 光一 | ・食品開発<br>・食文化<br>・農業振興<br>・海洋科学<br>・露青年交流 | | 学生の受入<br>その他（イチゴ栽培に関する極東連邦大学との共同研究） | 学部<br>修士<br>博士（予定） | ・極東連邦大学<br>・LLC Euro-Asian Trading House Innovation （ООО «Евро-Азиатский Торговый Дом «Инновация»»） | ・自治体：高知県、茨城県、北海道網走市、岩手県久慈市など42件<br>・教育機関：北見工業大学など8件<br>・企業：ロイヤルホールディングス、野村証券、日本香堂など26件<br>・日立トリプルウィン　株式会社<br>・株式会社　ホーブ<br>・サクラ化学工業　株式会社 | 受入　10名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・北海道の農業を通じた学生文化交流実施。同プログラムでは、極東連邦大学の学生（学部生、大学院生）10名か、学術的な体験を交えて日本の農業と文化を理解し、日本の学生と親睦を深めるための研修を 2019年10月16日～23日にわたって行なった。研修は、北海道網走と東京で行い、北海道では日本の最先端の農業と自然を、東京では日本の首都の現状と文化を学んだ。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>極東連邦大学において、イチゴの温室栽培試験を実施。以下の企業との連携事業。<br>・LLC Euro-Asian Trading House Innovation （ООО «Евро-Азиатский Торговый Дом «Инновация»»）<br>・日立トリプルウィン　株式会社<br>・株式会社　ホーブ<br>・サクラ化学工業　株式会社<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・ 極東連邦大学東洋学部地域国際研究学科のChertushkina准教授が東京農業大学生物産業学部に在籍して日露の文化に関する教育研究を実施中。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （6）極東の産業振興 | 北海道大学 | サウナワーラ ユハ　ミカエル | 地域開発 | 北極域研究推進プロジェクト（ArCS） | その他（産学官連携型のイベントへの教員の参加、講演・ワークショップ開催） | 学部<br>その他（教員、官民団体関係者） | ・北東連邦大学<br>・ノリリスク国立産業大学 | ・北海道<br>・北海道総合研究調査会（HIT）<br>・札幌市 | 2019年9月23日の寒冷地セミナー　学生等約60名参加<br>24日の寒冷地セミナー　学生等約60名参加<br>2019年11月13日　ノリリスク国立産業大学電力産業経済経営学部情報システム・技術学科向けのオンライン講演　教職員・学生約30名参加 | ②企業・地方自治体等との連携<br>・2019年7月25日、世界冬の都市市長会（WWCAM）の事務局が置かれている札幌市 総務局 国際部 国際課及び2019年の同会実務者会議の開催都市となったノリリスク訪問団との打合せに参加。<br>・2019年9月23～27日にヤクーツク市で開催された産学官連携型の北方圏持続可能な開発フォーラム（Northern Sustainable Development Forum）に参加、ロシア各地の大学及び官民団体関係者と交流。同フォーラムに際して北東連邦大学と北海道大学が23日に共催した寒冷地セミナー（Cold Lands Seminar）のセッション1―北極圏及びアジア―コネクティヴィティ、通信インフラ及び北方圏の地域開発―（Session 1. Arctic and Asia. Connectivity, Communication Infrastructure and Regional Development of the North）において講演（テーマは「Needs and problems of transport and communication infrastructure of the regions of the North」）、北東連邦大学の学生を対象としたワークショップを行った。また、24日の寒冷地セミナー（Cold Lands Seminar）のセッション2―北極圏及びアジア―北極圏及び北方圏の社会経済発展―（Session 2. Socio-Economic Development of the Arctic and the North）において講演。北海道総合研究調査会（HIT）・ヤクート国立農業アカデミー・北東連邦大学が共催した、農業における国際事業の企画管理に関する円卓会議に出席。それぞれのセッションには学生やその他のフォーラム参加者が約60名参加。<br>・2019年11月13日に、世界冬の都市市長会（WWCAM）の事務局が置かれている札幌市 総務局 国際部 国際課との連携の一環として、ノリリスク市で開催されたWWCAM実務者会議に際して、13日にノリリスク国立産業大学電力産業経済経営学部情報システム・技術学科の学生を対象にでオンライン講演（テーマは「Needs and Problems of Communication Infrastructure in the Northern Regions」）を行った。ノリリスク国立産業大学の教職員・学生約30名参加。 |
| （7）先端技術協力 | 大阪大学 | 保坂 淳 | ・核エネルギー<br>・原子力<br>・素粒子・原子核物理学<br>・数値シミュレーション<br>・計算科学 | | 学生の相互派遣 | 修士<br>博士<br>その他（若手研究者、ポスドク等） | ・極東連邦大学<br>・合同原子核研究所 | ・高知大学<br>・名古屋大学<br>・九州大学 | 受入　2名（うち教授1名、ポスドク1名） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年、極東連邦大学のポスドク（高密度核物質の理論研究、格子QCDによる数値シミュレーション）が3週間滞在し、少人数による研究打ち合わせ会1回とそのポスドクによるセミナーを行った。 |
| | 北海道大学 | 渡慶次 学 | 生物計測化学 | | 学生の受入 | 修士<br>博士 | モスクワ国立大学 | ・東北大学<br>・Tianma Japan株式会社 | 受入 1名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・モスクワ国立大学と北海道大学は、2011年から「分析・計測技術の開発」に関する共同研究を実施しており、学生を含む人材交流・教育交流（共同研究、セミナーの開催）を行っている。<br>・2019年1月にモスクワ国立大学のMikhail A. Proskurnin教授が指導する学生Polina A. Galkina氏が来日し、蛍光偏光免疫分析の高感度に関する研究の他、北海道大学大学院令和元国際連携総合プログラム報告会等に参加し、研究室内外の学生・教員とも人的交流（学生交流や教育交流）を積極的に行った。<br>・Galkina氏の研究指導には東北大学多元物質科学研究所の教授が関わり、先端技術協力における複数の大学が連携して学生を指導することにより、効果的な人材育成の事例となった。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・一部の研究テーマに関しては、JST先端分析技術・計測機器プログラムの内容を含んでおり、これに関しては日本のTianma Japanという企業が参画している。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・Proskurnin教授、Galkina氏、東北大学多元物質科学研究所の教授とテレビ会議を行い、実験の進捗及び進め方、継続的な共同研究などについて議論した。 |
| | 北海道大学 | 西田 まゆみ | 触媒 | | | | ・ロシア科学アカデミーシベリア支部ボレスコフ触媒研究所（BIC）<br>・Nanocomposite Materials Group of companies (NCM) | | | ＊詳細は 「(3) 中小企業交流」の欄に記載 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （7）先端技術協力 | 東京工業大学 | 小原 徹 | ・生命理工学<br>・ライフエンジニアリング<br>・原子核工学<br>・医用工学<br>・環境科学 | 健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム | 学生の相互派遣<br>その他（学生交流シンポジウム開催） | 学部<br>修士<br>博士 | ・モスクワ国立大学<br>・モスクワ国立原子力研究大学（MEPhI）<br>・ロシア科学アカデミー附属タンパク質研究所<br>・ロシア科学アカデミー附属細胞生物物理学研究所<br>・ロシア科学アカデミー附属微生物生化学生理学研究所<br>・ロシア科学アカデミー附属理論・実験生物物理学研究所<br>・ロシア科学アカデミー附属基礎生物学問題研究所<br>・ロシア科学アカデミー附属プーシチノ研究センター<br>・ロシア科学アカデミー附属有機元素化合物研究所<br>・ロスアトム（ロシアの国営原子力企業）<br>・株式会社 味の素-ジェネチカ・リサーチ・インスティチュート（AGRI） | ・日本原子力研究開発機構（JAEA）<br>・味の素　株式会社<br>・株式会社　島津製作所<br>・日本原子力発電　株式会社<br>・一般財団法人　電力中央研究所<br>・福井県<br>・技術研究組合 国際廃炉研究開発機構（IRID） | ①学生交流<br>・派遣：<br>MSUへ短期 8名、長期 2名、MEPhIへ短期 4名、長期 1名<br>・受入：<br>MSUから短期 8名、長期 2名、MEPhIから短期 4名、長期 1名<br><br>②企業連携<br>AGRIへは、東京工業大学学生9名、教員 1名。MSU学生 4名が訪問。RosatomTechへは、東京工業大学学生 5名、教員 1名が訪問。<br>味の素へは、MSU学生8名、東京工業大学学生5名、教員1名が訪問。電力中研にはMEPhI学生5名、東京工業大学教員1名が訪問。<br><br>③その他<br>日露学生交流フォーラムはロシア側（教員15名、学生13名）、さらに東京工業大学教員・学生を中心に総計約70名が参加。 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・モスクワ国立大学・ロシア国立原子力研究大学との学生交流長期3名ずつの受入・派遣と短期12名ずつの受入・派遣を実施。<br>・モスクワ国立大学との全学交流協定を締結（2019年9月）。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・2018年同様、モスクワではAGRIやロスアトムに1～2日間の見学を実施。また日本では味の素株式会社の川崎工場・研究所並びに電力中研視察を実施。<br>・味の素株式会社、株式会社島津製作所、並びに国際廃炉研究開発機構からR&Dの担当者を招聘し、講演を実施。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・3大学合同の研究交流シンポジウム（第3回日露学生交流フォーラム）を2020年2月20日に東京工業大学すずかけ台キャンパスにて開催。 |
| | 室蘭工業大学 | 平井 伸治<br>葛谷 俊博 | ・希土類硫化物熱電材料<br>・バイオプラスチック | レアアース資源有効活用研究のための国際拠点形成 | 学生の相互派遣<br>インターンシップ<br>その他（教員の相互派遣、シンポジウムの開催など） | 修士<br>博士<br>その他（研究員） | ・ヨッフェ物理学技術研究所<br>・ニコラエフ無機化学研究所 | ・大阪大学<br>・金沢大学 | | |
| | 金沢大学 | 田中 茂雄 | ・電子情報<br>・機械工学<br>・数学<br>・物理学<br>・物質科学<br>・ナノ生命科学<br>・製薬 | 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム（基礎科学プログラム、先端科学技術プログラム） | 学生の相互派遣<br>インターンシップ | 修士 | ・カザン連邦大学<br>・極東連邦大学<br>・ロシア科学アカデミー極東支部<br>・アルタイ国立大学<br>・ロシア製薬企業（Visterra社） | ・株式会社　PFU<br>・株式会社　アクトリー<br>・津田駒工業　株式会社 | 受入21名　派遣26名 | ②企業・地方自治体等との連携<br>・2019年9月に金沢大学創薬・薬学専攻の教員1名と大学院生2名が、アルタイ国立大学を訪問し、学生交流・共同研究を促進するとともに、アルタイ山脈近郊の自生薬草の調査、アルタイ地方のロシア製薬企業（Visterra社）視察を行った。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・上記学生交流を通じて、国際同窓会ネットワークを形成し、学生の将来のキャリア形成に活用させる。<br>・金沢大学の日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム「基礎科学プログラム」「先端科学技術プログラム」において、カザン連邦大学、極東連邦大学、イルクーツク国立大学、アルタイ大学、サンクトペテルブルク国立大学及びモスクワ国立大学から計21名の学生を約4週間受け入れた。アントレプレナー合宿、シンポジウム参加、工場見学やインターンシップ等も行った（2019年8～9月）。<br>・また、26名の学生をカザン連邦大学、極東連邦大学、国立イルクーツク大学、サンクトペテルブルク国立大学及びモスクワ国立大学へ、約2～4週間派遣し、うち12名がロシアでの企業見学（「フォード・ソラーズ」（自動車メーカー））に参加した（2019年8月）。 |
| | 東海大学 | 山口 滋 | レーザー技術 | | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士<br>博士 | ・モスクワ国立大学<br>・極東連邦大学<br>・トムスク国立大学<br>・ロシア科学アカデミー極東支部沿海地方科学研究センター | 東北大学 | 受入　1名　（研究者） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年11月5日～9日、私立ガスプロム小中高等学校の教職員6名、生徒10名から成る代表団を受入。代表団は東海大学との協定に基づく学校交流を目的とする研修団で、2008年以来、日本とロシア相互に訪問し合い、学術・文化における学校間交流を続けている。代表団は11月8日に東海大学付属高輪台高校を訪問し、ロシアの文化紹介を行い、教職員、生徒間による活発な交流を行った。<br>・東海大学付属高輪台高等学校の生徒を2名、私立ガスプロム小中高等学校に派遣。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (7) 先端技術協力 | 近畿大学 | 田中 仙君 | ・再生可能エネルギー<br>・製品開発、プロジェクトを推進・牽引するグローバル人材の養成 | 日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成 | 学生の相互派遣<br>インターンシップ | 学部<br>修士<br>博士 | ・モスクワ国立大学<br>・ドゥブナ国立大学<br>・ITMO大学<br>・チュメニ国立大学<br>・極東連邦大学<br>・サンクトペテルブルク国立大学<br>・ロシア政府附属財政大学<br>・モスクワ国立工業物理研究大学（MEPhI）<br>・モスクワ市立大学 | ・豊田通商株式会社<br>・豊田通商ロシア（Toyota Tsusho RUS LLC、モスクワ）<br>・大阪府<br>・ものづくりビジネスセンター大阪<br>・「モノづくり」企業10社 | 派遣：短期21名、長期5名<br>受入：短期15名、長期10名<br>（いずれも学生数） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・2018年度よりロシアの交流協定締結校との間で学部学生の1セメスター交換留学プログラムを実施している。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・2019年度はロシアからの1セメスター交換留学生9名に対して、11月から12月にかけての約1ヶ月にわたり、それぞれの専門分野に応じた「モノづくり」企業10社でインターンシップを実施した。<br>・また、短期人材交流受入プログラムでは、大阪府と関係機関が運営する中小企業のためのモノづくりに関する支援拠点である「ものづくりビジネスセンター大阪」（東大阪市）や東部大阪地域のモノづくり企業の協力を得て、ロシアからの学生15名に対して7月に1日研修を実施し、製造現場を見聞しながら、モノづくりの基本を学習した。 |
| | 北海道大学 | アバタル　ラム | SDGs達成を目指した環境観測における無人航空機（UAV）の適用 | | 学生の相互派遣 | 修士 | ・モスクワ国立大学<br>・北東連邦大学 | | 受入 4名（うち学生3名）<br>派遣　3名予定（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・モスクワ国立大学地理学部のTutubalina教授との交流を継続。10月中旬に北海道大学で開催した環境観測用の地理空間データに関する日印露シンポジウム（Japan-India-Russia Symposium on Geospatial Data for Environmental Monitoring）にTutubalina教授と大学院生2名・若手研究者（ポストドック）1名を招へい。<br>・2020年3月にモスクワ国立大学に学生（修士）を1名派遣予定だったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年9月23～27日にヤクーツク市で開催された産学官連携型の北方圏持続可能な開発フォーラム（Northern Sustainable Development Forum）に参加、北東連邦大学が毎年行う寒冷地セミナー（Cold Lands Seminar）のセッション3―北極圏及びアジア―環境観測―（Session 3. Arctic and Asia. Environmental Monitoring）に北海道大学北極域研究センターの杉本教授とともに参加し、「環境観測用の複数センサーリモートセンシング技術」（“Multisensor Remote Sensing Techniques for Environmental Monitoring”）について発表。北東連邦大学、ヤクート国立農業アカデミー及びヤクート国立農業研究所の研究者・学生と交流。 |
| (8) 言語・文化・観光 | 東海大学 | 山本 佳男 | ライフケア | | | | | | | ＊詳細は 「(1) 医療健康」の欄に記載 |
| | 小樽商科大学 | 小林 友彦 | ・APEC<br>・ 国際貿易に関する経営学・経済学・法学<br>・地域振興への大学の貢献 | | | | | | | ＊詳細は 「(6) 極東の産業振興」の欄に記載 |
| | 小樽商科大学 | 髙野 宏康 | ・日露観光人材交流・育成<br>・日本語教育<br>・バレエ等の文化面 | 日露交流の礎となる観光人材交流・育成事業 | その他（小樽市の姉妹都市交流事業への学生の参加） | 学部 | ・ナホトカ市 | T.T.T.ABROAD ACADEMY | 小樽市の姉妹都市交流事業への学生参加者数　5名（うち1名をナホトカ・ウラジオストクに派遣） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・小樽商科大学社会連携実践「本気プロ」ロシアとの交流による小樽活性化チーム<br>・参加学生：5名<br>・担当ディレクター：高野宏康（小樽商科大学グローカル戦略推進センター）<br>・連携先：T.T.T.ABROAD ACADEMY（主宰：高橋匠美）<br>・主な活動内容：<br>○日本語ロシア語会話フレーズ集の作成。ロシア人用（2019年5月）、日本人用（2020年2月）。<br>○小樽の祭礼でロシアと小樽にちなむ食品調理、販売。<br>○ナホトカ市・小樽市姉妹都市交流事業（7月のナホトカの少年少女使節団（13名）の受入等）への協力（ガイドツアー、日本語会話レッスン、交流会など） |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （8）言語・文化・観光 | 北海道大学 | 池田 恵子 | ・持続可能な開発のための教育（ESD）<br>・ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム | ・双方向型短期留学支援プログラム「ESD Campus Asia Pacific」<br>・ ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム | 学生の相互派遣 | 学部（2〜4年生、2年生が主体） | ・サハリン国立大学<br>・ウラル国立教育大学 | | 派遣 3名（短期 1名、中期 2名）<br><br>オンラインワークショップ　合計約40名（北海道大学：12名、サハリン国立大学：20名、ウラル国立教育大学：7名） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・教育学部では6大学5か国間の双方向型短期留学支援プログラム「ESD Campus Asia Pacific」において、交流協定校のひとつであるサハリン国立大学教育学部との交流を2017年度より開始している。<br>・同時に「ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム」として、同2017年より同大学と3か月間の単位互換・双方向型・短期留学プログラムも開始した（学士課程の学生を2〜4名派遣）。交流プログラムは、国連が掲げるSDGs を達成するための学びを異文化理解、多言語教育の観点から深め、他国での実践的経験を通じて、将来に渡る幅広い社会的教育指導者の育成を目的とする包括的な教育を目指すものである。<br>・2019年度8月に10日間の短期受入プログラム、 9月に10日間の派遣プログラム、12月から2月にかけて3か月の派遣プログラムを遂行。<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年9月に教員2名、大学院生2名が2008年から北東連邦大学で継続されているCold Lands Seminarの一環として計画された「先住民族と持続的な開発」というパネルに参加し、40名近くの教員や学生の前で、アイヌ民族の社会的課題や当学部のESDキャンパス・アジア・パシフィックについて発表を行った。大学院生たちは日露共同専門家育成プログラムRJE3（Russia-Japan Educational Program）の卒業生をはじめ、北東連邦大学で勉学に励んでいる幅広い大学院生との交流し、知見を広げた。<br>・2019年11月12日に大学間協定に基づく学生交流の延長上にジョイント・リサーチプログラムを可能とする試みを実施（サハリン国立大学・ウラル国立教育大学と北海道大学との間で、3大学オンラインワークショップ）。「日露比較からみる現在の位相：地域教育、教育心理学、教育学研究を通じて」と題し、北海道大学より12名、サハリン国立大学より約20名、ウラル国立教育大学より約7名の教員の参加があった。トピックは多岐に渡り、今後の継続的な研究連携の可能性について協議を行った。すでに特定領域の共同研究については個別の進展が見られた。 |
| | 北海道大学 | パイチャゼ スヴェトラナ | ・東アジア・極東ロシア地域における移住プロセス<br>・異文化コミュニケーション | タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project: TLLP） | その他（国際シンポジウムの開催、共同プロジェクトの実施、共同出版プロジェクトなど） | 修士<br>博士 | ・サハリン国立大学<br>・サハリン人文工科大学<br>・サハリン州国立歴史文書館<br>・サハリン州立美術館<br>・サハリン州国立郷土博物館<br>・ノヴォシビルスク国立工科大学 | | TLPPワークショップ　7名（うち北海道大学大学院生3名、ノヴォシビルスク国立工科大学学生1名） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2020年1月14日（火）から15日（水）まで「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project: TLLP）・ワークショップ」を開催。シェフィールド大学大学院生3名と教員1名、北海道大学メディア・コミュニケーション学院大学院生3名、ノヴォシビルスク国立工科大学学生1名による研究発表やディスカッション、教員による講義やワークショップなど、様々な研究・教育交流を行った。TLLPの趣旨に基づき、北海道大学の学生とロシアからの学生は英語で、シェフィールド大学の学生のうち2名は日本語で研究発表を行った。 |
| | 東北大学 | 阿部 恒之 | 日露異文化交流 | ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラム（修士・博士）<br><br>モスクワ国立大学心理学部学生短期交流プログラム | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士 | モスクワ国立大学 | 一般財団法人 東北多文化アカデミー（予定） | JSDプログラム：　受入　1名<br>短期交流プログラム：　受入　1名、派遣　1名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・JSDプログラム：モスクワ国立大学心理学部大学院博士課程1年次学生を1名受入（2018年度後期〜2019年度前期の一年間）、学位取得のための実験心理学的な研究手法について指導した。<br>・短期交流プログラム：モスクワ国立大学心理学部学生１名を2019年9月より1年間の予定で受け入れた。また、東北大学文学研究科博士前期課程学生1名が、モスクワ国立大学心理学部を訪ね、10日間ほど滞在し、授業の聴講、学生との交流などを行なった。<br>・モスクワ国立大学心理学部から東北大学文学研究科に長期留学する学生が出てくることが期待される（過去3名×半年間の実績あり）。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・短期交流プログラム：2019年10月から半年間、モスクワ国立大学心理学部の教員1名の研修を受け入れ、東北大学の学生に授業を提供してもらった。その成果として、東北大学文学研究科の学生1名が2020年度のモスクワ国立大学への派遣に応募することになった。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 言語・文化・観光 | 東京外国語大学 | 沼野 恭子 | ・人文社会科学分野 多様なビジネス分野に関わる応用力を備えた、卓越した日露ビジネス人材を育成<br>・貿易・金融、観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳、報道、文化交流等の多様な分野で日露経済活動を活性化 | 日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム | 学生の相互派遣<br>その他（インターンシップ） | 学部 | （交流協定締結先）<br>① モスクワ国立大学<br>② モスクワ国立国際関係大学<br>③ ロシア国立人文大学<br>④ 国立研究大学高等経済学院<br>⑤ サンクトペテルブルク国立大学<br>⑥ 極東連邦大学<br><br>・モスクワ市立大学（協定校ではない）<br>（JVTA主催、東京外国語大学が共催する日本アニメ上映イベント@モスクワ 2020.05.23-24での「協力校」）<br><br>（インターンシップ受入ロシア企業）<br>・LLC RYATICO（モスクワ）<br>（「実業ロシア」のメンバー企業で、日露間を中心に食品・雑貨の輸出入に取り組み始めた貿易会社） | （学生交流相手）<br>・創価大学<br>・創価学園 （高等学校）<br>（東京外国語大学の受入学生を派遣し、学生同士の交流を進めている）<br>・稲城市立若葉台小学校<br>（国際理解を深める授業に東京外国語大学の学生とロシアからの受入学生を派遣し「ロシアについて」出張授業を行う）<br>（インターンシップ受入先）<br>・日本映像翻訳アカデミー　株式会社（JVTA）<br>・ジェトロ<br>・ソニー 株式会社<br>・日立建機日本　株式会社<br>・横河電機　株式会社<br>・伊藤忠商事　株式会社<br>・三井物産　株式会社<br>・住友商事　株式会社<br>・株式会社　ヤマハミュージックリテイリング<br>・京セラ　株式会社<br>・京セラドキュメントソリューションズ　株式会社<br>・飯田グループホールディングス　株式会社<br>・ジェーアイシー（JIC）旅行センター　株式会社<br>・名取事務所<br>・国際交流基金<br>・SAMI LLC（東京外国語大学ロシア語科 OB がペテルブルクで立ち上げた IT系コンサルティング会社） | ①学生交流<br>・受入<br>短期：30名<br>長期：24名　計54名<br>・派遣<br>短期：25名<br>長期：16名　計41名<br>②インターンシップ<br>（東京外国語大学学生）<br>・ロシアで17の企業・団体で20回、延べ63名が参加<br>・日本国内で6の企業・団体で11回、延べ26名が参加<br>（受入学生）<br>・日本国内で5の企業・団体で9回、延べ43名が参加<br>・ロシアで3の企業で3回13名が参加<br>③ その他の交流活動<br>・タンデム学習会：約30名<br>・小学校でロシア紹介：3名<br>④ビジネス関連講義履修者<br>・日露ビジネス講義：42名<br>・国際日本学：　11名<br>・ロシア語医療通訳：4名<br>・駐在員のロシア語：10名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・短期受入：2週間の「日露ビジネスサマースクール」実施<br>・長期受入: 日本語及び日本の文化・社会・経済を学ぶ科目を履修<br>・短期派遣：学部前半のロシア語専攻学生ロシア語・ロシア文化を学習<br>・長期派遣: 6協定大学でロシア語や他の一般科目を履修<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・JVTAでのインターンシップ（東京）：映像翻訳者の養成と映像翻訳の受託業務を行っている中堅企業「日本映像翻訳アカデミー（JVTA）」（東京）で東京外国語大学の学生とロシアからの受入学生が毎月、1名ずつインターンシップを経験している。インターンシップの最終日に、モスクワに拠点を持ったばかりのJVTA幹部を前にロシア市場における事業提案のプレゼンテーションを行う。<br>・J-ANIME MEETING IN RUSSIA：前述のインターンシップ実施でJVTAと協力関係を深め、同社が主催、東京外国語大学が共催する形で、2020年5月23、24日にモスクワで日本アニメを紹介するイベント「J-ANIME MEETING IN RUSSIA」を開催する運びとなった。2019年11月より日露の学生45名が参加し、本格的な準備に入った。2日間に長編・短編計16本のアニメをロシア語字幕付きで上映する予定。アニメの選択、（日本語からロシア語の）字幕翻訳、PR, 協賛企業候補へのアプローチ等について、JVTAスタッフの指導を受けながら、日露の学生が一緒に考え、議論を交わし、そして行動にしている。こうしたチームで一つの事業に取り組むプロセスを通じて「交渉力」「調整力」など社会に出て役立つコンピテンシーを育むことにつながっている。<br>・他のインターンシップ実施企業・団体：他に日本の商社（三井物産、住友商事、伊藤忠等）、メーカー（日立建機、ソニー、京セラ、ヤマハ等）、ロシアの会社（RYATICO、SAMI）、ジェトロ等<br>・ 就業体験科目：　冬学期にモスクワと東京で就業体験科目を設定し、モスクワで２人、東京で１人が履修した。いずれも受入先は JVTA。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・週に1度、ロシアからの留学生と東京外国語大学のロシア語専攻学生のためにタンデム学習会を実施した。語学力向上と交流を深めることを目的としている。<br>・三井物産のロシア法人は、現地採用候補者のロシア人学生4～5名をほぼ毎年、日本に1週間程度研修させている。同社に勤める東京外国語大学 OBの依頼で、半日のみ東京外国語大学の学生と交流する「日露学生交流セミナー」を実施している。セミナーでは異文化間の相互理解をテーマに議論する。2018年の同セミナーのメンバーだった、東京外国語大学の協定校・サンクトペテルブルク国立大学の学生2名が、翌年の東京外国語大学サマースクールに参加した。同セミナーが東京外国語大学への短期留学の動機付けになった事例である。また、東京外国語大学の学生にとっても同年代のロシア語話者と議論する貴重な機会となっている。<br>・稲城市立若葉台小学校高学年の児童の「国際理解の授業」で、東京外国語大学のロシア語専攻の学生1名とロシア協定校の学生2名が、「ロシアについて」出張授業を行った。昨年に続いて2回目で、同小学校から今後とも継続するよう要請された。 |
| | 新潟大学 | 道上 真有 | | | | | | | | ＊詳細は 「(2) 都市づくり」の欄に記載 |
| | 大阪大学 | 藤原 克美 | 日露教育交流・人材育成ネットワークの構築 | ロシア夏季研修プログラム | 学生の派遣 | 学部 | ・モスクワ国立大学<br>・ロシア民族友好大学<br>・サンクトペテルブルク国立大学<br>・ウラル連邦大学<br>・ノヴォシビルスク国立大学<br>・トムスク国立大学<br>・シベリア連邦大学<br>・極東連邦大学 | | 派遣　12名（モスクワ国立大学夏季研修プログラム）、15名程度（その他） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・サンクトペテルブルク国立大学（大学間）、モスクワ国立言語大学、ウラル連邦大学、シベリア連邦大学（以上部局間）学生派遣、受入。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・キャリア・デザインセミナーを開催。在ユジノサハリンスク日本国総領事、在アゼルバイジャン特命全権大使等を歴任した元外交官が、ロシアとの交流の可能性について講演。学生が18名 （含ロシア人1名） が参加。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （8）言語・文化・観光 | 上智大学 | 杉村 美紀 | ・ロシア語<br>・ロシア文化社会<br>・グローバル社会 | | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士<br>博士 | ・モスクワ国立大学<br>・モスクワ国立言語大学<br>・サンクトペテルブルク国立大学<br>・サンクトペテルブルク国立文化大学<br>・ゲルツェン記念ロシア国立教育大学<br>・リャザン国立大学<br>・ヴォロネジ国立大学<br>・ペトロザヴォーツク国立大学<br>・極東連邦大学 | | 派遣　11名<br>受入　11名　（うち2名はサマーセッション） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>現在9大学（モスクワ国立大学、モスクワ国立言語大学、サンクトペテルブルク国立大学、サンクトペテルブルク国立文化大学、ゲルツェン記念ロシア国立教育大学、リャザン国立大学、ヴォロネジ国立大学、ペトロザヴォーツク国立大学、極東連邦大学）と交換留学協定を締結しており、ロシア語、ロシア文化社会、グローバル社会の分野において、単位互換に基づく学生交換を実施している。2019年度においても継続的に各大学と双方向の学生交換を行っており、春学期には6大学に8名の学生を派遣し、秋学期にはさらに1大学に3名の学生を派遣した。また、受入については、春学期に3大学から4名、秋学期に4大学から5名の学生を受け入れた。また6~7月のサマーセッションにも2大学から2名受け入れた。 |
| | 神戸学院大学 | 岡部 芳彦 | 日本のアニメ・サブカルチャー | | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士 | ・ニジニーノヴゴロド国立言語大学<br>・極東連邦大学 | ・神戸市<br>・神戸市外国語大学 | 受入　4名<br>派遣　7名<br><br>極東サブカルチャー交流（極東連邦大学）ロシア側学生約80名、日本側学生20名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・ニジニーノヴゴロド国立言語大学：8月22～9月22日 2名、10月28～11月28日 2名。<br>②企業・地方自治体等との連携<br>・ 2019年9～11月にニジニーノヴゴロド国立言語大学学部生1名、大学院2名を対象にインターンシップを実施 。受け入れ先は神戸市国際課、神戸市海外ビジネスセンター、JETRO神戸、ひょうご海外ビジネスセンターおよびロシアに日本製の様々な製品を輸出している株式会社竹本トレーディング。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年10月に「北方4島ビザなし交流」事業のロシア島民の訪問団24人を受入、法学部、人文学部、現代社会学部、経済学部の学生との交流を行った。<br>・2019年11月に極東サブカルチャー交流を極東連邦大学で実施（日露青年交流センターの支援で訪露プログラム「東方学生サブカルチャー交流プログラム」を実施）。 |
| | 神戸市外国語大学 | 岡本 崇男 | 派遣16名（学生のみ：交換・長期10名、短期6名）、 受入　7名（日本語プログラム3名、大学院生2名、研究生2名） | | 学生の相互派遣 | 学部<br>修士<br>博士<br>その他（教員） | ・モスクワ国立大学<br>・国立プーシキン記念ロシア語大学<br>・クバン国立大学<br>・ウラル連邦大学<br>・太平洋国立大学<br>・エカテリンブルグ市 | ・総務省<br>・神戸市<br>・神戸大学<br>・神戸学院大学 | 派遣16名（学生のみ：交換・長期10名、短期6名）、 受入れ7名（日本語プログラム3名、大学院生2名、研究生2名） | ①大学間協定に基づく学生交流<br>2019年度予定・・・<br>・クバン国立大学（交換） 派遣 2名<br><br>・ウラル連邦大学（交換） 派遣 1名<br>・太平洋国立大学（交換） 派遣 2名<br><br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・平成31年度北方四島交流後継者訪問共催事業（6月6日～11日）の「第4回アニメ・オタク文化青年サミットin色丹」（代表：神戸学院大学・岡部芳彦教授）の学生通訳として1名を派遣 。 |
| | 創価大学 | 江口 満 | | | 学生の相互派遣 | 学部 | ・モスクワ国立大学<br>・極東連邦大学<br>・ロシア民族友好大学<br>・モスクワ国際大学<br>・トルストイ記念トゥーラ国立教育大学<br>・プレハーノフ記念ロシア経済大学<br>・ロシア国立人文大学<br>・北東連邦大学<br>・バイカル国立大学<br>・ルースキー・ミール基金 | 東京外国語大学 | 派遣　24名<br><br>ロシア連邦の駐日大使及び駐日公使による講演会　約1000名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・10ヶ月交換留学：モスクワ国立大学4名、極東連邦大学1名、ロシア民族友好大学3名<br>・サンクトペテルブルク・ロシア語短期研修：ゲルツェン記念ロシア国立教育大学と近々交流協定を結び、8月に第1回ロシア語短期研修（2週間、16名）を行った。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>ルースキー・ミール基金と共同で次の活動を実施。<br>・6月 プーシキン生誕220周年記念イベント実施。<br>・7月にロシア連邦のドミトリー・ピリチェフスキー駐日公使、12月にミハイル・ガルージン駐日大使による講演を行った。<br>・12月 第29回ロシア語スピーチコンテスト実施。 |

| | 日本側大学名 | 参画者の氏名 | 交流分野 | プログラム名 | 交流形態（2019年度） | 対象者（2019年度） | ロシア側相手大学等 | 日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携） | 2019年度の学生参加者数等 | 2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （8）言語・文化・観光 | 北海道大学 | ゲーマン　ジェフリー　ジョセフ | 先住民に関する研究 | | 学生の派遣<br>その他（テレビ会議による教員と大学院生の合同研究会） | 修士　博士 | 北東連邦大学 | 北海道平取町 | 派遣　4名（うち学生2名） | ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年9月23～27日にヤクーツク市で開催された産学官連携型の北方圏持続可能な開発フォーラム（Northern Sustainable Development Forum）に教員2名と大学院生2名（修士1名、博士1名）を派遣し、その一環として北東連邦大学と共同で行った寒冷地セミナー（Cold Lands Seminar）のセッション4―北極圏及びアジアー文系ー（Session 4. Arctic and Asia. Humanities）に参加し、発表した。<br>・寒冷地セミナーで知り合った北東連邦大学のSidorova准教授との共同企画として、2020年3月25日にテレビ会議による北東連邦大学の教員及び学生等との合同研究会を開催。 |
| | 北海道大学 | 杉本 敦子 | | | | | | | | ＊詳細は 「(2) 都市づくり」の欄に記載 |
| | 北海道大学 | 大塚 夏彦 | | | | | | | | ＊詳細は 「(5)産業多様化促進」の欄に記載 |
| | 札幌市立大学 | 山田 良 | | | | | | | | ＊詳細は 「(2) 都市づくり」の欄に記載 |
| | 札幌大学 | 岩本 和久 | 文化交流<br>外国語教育 | | 学生の相互派遣 | 学部 | 北東連邦大学<br>モスクワ国立大学<br>サハリン国立大学 | | 北東連邦大学：　派遣　3名、受入　1名<br>モスクワ国立大学：　派遣　3名<br>サハリン国立大学：　派遣　1名 | ①大学間協定に基づく学生交流<br>・協定校（北東連邦大学、モスクワ国立大学、サハリン国立大学）への学生派遣、北東連邦大学からの学生受入。<br>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）<br>・2019年5月10日～13日の国後島訪問に札幌大学の学生が1名、6月7日～19日の色丹島訪問に学生が4名参加。<br>・2019年7月16～8月15日、北方四島交流受入事業使節団と学生との交流（日本語習得）のうち、札幌市内見学、交流会、スピーチコンテスト、歓送会に札幌大学の学生が参加し、ロシア人参加者と交流した（参加学生はのべ17名）。 |

# 6 日露学生フォーラム

日露学生連盟は，日露大学協会の下部組織として位置づけられる，「学生の立場と目線」から日露交流を促進する学生が主体となって運営される組織です。

2019年9月に開催された第2回日露大学協会総会にあわせて，9月23日から28日にかけて，第2回日露学生フォーラムが開催され，日露大学協会に加盟する大学から延べ57名（日本の大学から30名，ロシアの大学から27名）の学生が参加しました。




日露学生フォーラムは，昨年度の日露大学協会総会において設立が承認された日露学生連盟の活動の一つであり，23日の日露大学協会総会における代表学生の発表を皮切りに，テーマ別のディスカッションや発表，在ロシア日本大使館山本敏生公使や日露の大学教員による講演，エクスカーションなどが行われました。1週間にわたり，寝食を共にした交流を行うことで日露学生間の絆を深めることができました。次回の日露学生フォーラムに向けて，日露学生連盟の活動が活発化することが期待されます。





| | |
|---|---|
| 開　催　日 | 9月23日(月)～9月28日(土)(28日は非公式行事) |
| 開催場所 | モスクワ国立大学(ロシア連邦モスクワ市) |
| 参　加　者 | 日露大学協会加盟校等の学生57名<br>(日本の大学:30名, ロシアの大学:27名) |
| 言　語 | 英語 |
| プログラム | 次ページ参照 |









**PROGRAM**

**2nd Russia-Japan Student Forum**

Lomonosov Moscow State University

23 – 27 September, 2019

| Time | Event | Location / Resource | Note |
|---|---|---|---|
| **September 22, Sunday** | **The motto of the day: "WELCOME TO RUSSIA, MOSCOW, MSU!"** | | |
| 10:00 | Check-in of participants who arrive earlier | Dormitory, MSU Main building, Sector E | 6 Japanese participants |
| 12:00 | The beginning of the accommodation of Russian and earlier arrived Japanese participants | Dormitory, MSU Main building, Sector E | |
| 14:00 – 15:00 | Lunch | MSU Main building, Dining room on the Sector B | |
| 15:00 | Arriving of the Japanese students in Moscow | Domodedovo airport | Volunteers, translators |
| 16:00 | Transfer to the Main Building of MSU | On a coach (bus) | |
| 17:30 | Accommodation in the dormitory | Dormitory, MSU Main building, Sector E | |
| 18:30 | Dinner | MSU Main building, Dining room on the Sector B | |
| 19:30 | Rest | Dormitory, MSU Main building | If participants have any questions, they can contact to student secretariat |

| **September 23, Monday** | **The motto of the day: "OUR COMMON FUTURE"** | | |
|---|---|---|---|
| **Main activity:** | **Participation in the 2nd General Assembly of the Association of Institutions of Higher Education of the Russian Federation and Japan** | | |
| 07:00 – 08:00 | Breakfast | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 08:30 – 09:00 | **Registration** of the Student Forum delegates as participants in the 2nd General Assembly of the Association of Institutions of Higher Education of the Russian Federation and Japan | MSU Fundamental Library | |
| 09:00 – 10:00 | **Opening ceremony of the 2nd General Assembly of the Association of Institutions of Higher Education of the Russian Federation and Japan:**<br>• Welcome speech of the Rector of Lomonosov Moscow State University, academician Victor A. Sadovnichy;<br>• Welcome speech of the Acting President of Hokkaido University, professor Masanori Kasahara;<br>• Welcome speeches of the Government representatives of the Russian Federation and Japan | MSU Fundamental Library | The presence of all Student forum participants |
| 10:00 – 11:00 | **Plenary meeting № 1** of the VIII Russia-Japan Rector's Forum<br>Rectors' reports on the themes:<br>1. Exchange of human resources<br>2. Health and medicine<br>3. Regional development | MSU Fundamental Library | The presence of all Student forum participants |
| 11:00 – 11:30 | Photographing of all participants<br>Coffee-break | MSU Fundamental Library,<br>Atrium at the 7th floor | The presence of all Student forum participants |
| 11:30 – 13:30 | **Plenary meeting № 2** of the VIII Russia-Japan Rector's Forum<br>Rectors' reports on the themes:<br>1. Exchange of human resources<br>2. Health and medicine<br>3. Regional development | MSU Fundamental Library | The presence of all Student forum participants |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13:30 – 14:00 | **Closing session** of the 2nd General Assembly of the Association of Institutions of Higher Education of the Russian Federation and Japan:<br>• Speech of the representative of the Japan Business Club<br>• Speech of the representatives of the 2nd Russian-Japanese Student Forum<br>• Signing of the cooperation agreements<br>• Closing remarks of the Rector of Lomonosov Moscow State University, academician Victor Sadovnichy and Acting president of Hokkaido University, professor Masanori Kasahara<br>• Signing of the communique on the results of the Forum | MSU Fundamental Library | • The presence of all Student forum participants<br>• 1 young representative from Russia and 1 young representative from Japan make a common speech (10 min in total) |
| 14:00 – 15:00 | Lunch | MSU Fundamental Library, Dining room on the ground floor | |
| 15:00 – 15:30 | Exhibition tour "Universities - Science - Business" | MSU Fundamental Library | |
| 16:00 – 17:30 | **"Towards the 2020 Tokyo Olympics".** Olympic movement and values of Olympism. A meeting with the Olympic champions from Russia. | MSU Shuvalov building | The presence of all Student forum participants |
| 17:30 – 19:00 | **Key meeting** about Japan-Russia Student Union activity:<br>• remembering the history of business activity,<br>• acquaintance with previously expressed proposals,<br>• started discussion of the future outcome document of the Forum. | MSU Shuvalov building | The presence of all Student forum participants |
| 19:00 – 20:00 | Dinner | MSU Shuvalov building | |
| 20:00 – 22:00 | Free communication of Russian and Japanese participants according to their interests | MSU Main building | |

| **September 24, Tuesday** | **The motto of the day: "SELF-DEVELOPMENT, EDUCATION and SCIENCE"** | | |
|---|---|---|---|
| **Main activity:** | **Participation in the VI Russian-Japanese Scientific Forum** | | |
| 08:00 – 09:00 | Breakfast | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 09:15 – 9:30 | Walk from the MSU Main Building to the MSU Fundamental Library | | |
| 09:30 – 10:00 | Quick registration of the Student Forum delegates as participants in the VI Russian-Japanese Scientific Forum | MSU Fundamental Library | The presence of all Student forum participants |
| 10:00 – 10:10 | Opening ceremony of the VI Russian-Japanese Scientific Forum | MSU Fundamental Library,<br>Transformer Hall | The presence of all Student forum participants |
| 10:30 – 13:00 | **Plenary session** of the VI Russian-Japanese Scientific Forum<br>Work in sections:<br>• history and archeology;<br>• psychology and philosophy;<br>• philology and literature;<br>• economics and world politics;<br>• environmental sciences. | MSU Fundamental Library,<br>Transformer Hall | • The presence of all Student forum participants distributed in different sections.<br>• Youth reports in sections are provided |
| 13:00 – 14:00 | Lunch | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 14:00 – 15:30 | Excursions and meetings of the Forum participants with young scientists and specialists in laboratories / departments of MSU | Different buildings of MSU | 10 groups of ≈6 participants (≈3 from Japan + ≈3 from Russia + 1 MSU volunteer in each group) |
| 15:30 – 17:00 | Public interactive lecture about the role of the individual in the scientific and technical development:<br>• Professor Toshiyuki NAKAGAKI, Laboratory of Mathematical and Physical Ethology, Director of Research Institute for Electronic Science (RIES), Hokkaido University<br>• Maksim SKULACHEV, PhD, MSU Leading Researcher and CEO of "Mitotech".<br>Answers to questions of participants and discussion on the subject of interactive lecture. | MSU Main building,<br>1030 auditorium | SKULACHEV Maksim<br>www.scopus.com/authid/detail.uri?authorId=6508320582 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17:00 – 18:00 | Work in groups on given topics to prepare proposals for student cooperation projects and outcome document of the Student Forum | MSU main building, marble foyer of MSU House of culture | Session №1 of group work |
| 18:00 – 19:00 | Dinner | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 19:00 – 21:00 | Business game / youth quest about the Russian and the Japanese in the global world of the future.<br>Memorable prize to the winning team from MSU | MSU main building, marble foyer of MSU House of culture | Students will participate in a business game in 4 cross-functional teams |
| **September 25, Wednesday** | **The motto of the day: "I, HOMELAND and ALL THE WORLD"** | | |
| **Main activity:** | **In the center of Moscow** | | |
| 08:00 – 09:00 | Breakfast | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 9:00 – 10:00 | Transfer to the center of Moscow | On a coach (bus) | On the bus with a short tour in the direction of travel |
| 10:00 – 12:30 | Tour of the Moscow Kremlin* | Walking tour | kreml.ru/en/museums-moscow-kremlin/ |
| 12:30 – 13:00 | Walking from the Kremlin to the First historical MSU building on Mokhovaya | | |
| 13:00 – 14:00 | Lunch | MSU Dining Hall on Mokhovaya | |
| 14:00 – 15:00 | Excursion in the First historical building of Moscow State University and acquaintance with modern activities of faculties on Mokhovaya:<br>• The Institute of asian and african studies,<br>• Faculty of psychology,<br>• Faculty of journalism. | MSU Building on Mokhovaya, 11 | www.iaas.msu.ru/<br><br>www.journ.msu.ru/eng/<br><br>www.psy.msu.ru/english/index.html |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15:00 – 16:30 | Public interactive lecture on the theme of humanitarian cooperation between Russia and Japan:<br>• professor Igor A.ABYLGAZIEV, Director of the MSU Institute of Asia and Africa studies;<br>• professor Yoshihiko OKABE, faculty of Economics, Kobe Gakuin University.<br>Answers to questions of participants and discussion on the subject of interactive lecture. | First historical MSU building on the center of Moscow - Mokhovaya, 11 | professor Igor A.ABYLGAZIEV<br>info from ru.wikipedia.org - bit.ly/2m7xtNz<br><br>professor Yoshihiko OKABE<br>info from ja.wikipedia.org - bit.ly/2m6zxp6 |
| 16:30 – 17:30 | Practical experience of humanitarian exchanges in Russia and Japan.<br>2 short presentations of students who studied in Russia/Japan:<br>• Takumi OKADA, a student at Tokai University and Airi SHIBAGAKI, a student at Kobe University of Foreign Languages;<br>• Elvin ALLAKHVERDIEV, 6th year student of the MSU faculty of fundamental medicine.<br>Open discussion on the subject of interactive meeting. | First historical MSU building on the center of Moscow - Mokhovaya, 11 | www.facebook.com/profile.php?id=100011214588794<br><br>www.facebook.com/AiriShibagaki<br><br>www.facebook.com/elvin.allakhverdiev |
| 17:30 – 19:00 | Visit to the Red Square and "Zaryadye" park | Walking tour | zaryadyepark.ru/en/ |
| 19:00 – 20:00 | Transfer to the Dormitory on MSU Main building | On a coach (bus) | |
| 20:00 – 21:00 | Dinner | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 21:00 – 22:00 | Freely communication of Russian and Japanese participants according to their interests | MSU Main building | |

| **September 26, Thursday** | **The motto of the day: "THE EARTH IS OUR COMMON HOUSE"** | | |
|---|---|---|---|
| 08:00 – 09:00 | Breakfast | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 09:00 – 10:30 | Public interactive lecture on the development of relations in the field of ecology on the example of a large project of MSU "Noah's Ark":<br>• professor Petr A. KAMENSKI - MSU project "Noah's Ark": desire the Ideal of Biological Collections;<br>• Anastasia Yu. EFIMENKO, PhD, MD, Chief of the laboratory in the MSU Institute of Regenerative Medicine, about the development of the medical part of the project.<br>Answers to questions of participants and discussion on the subject of interactive lecture. | MSU Main building,<br>1030 auditorium | professor Petr A. KAMENSKI<br>www.mol.bio.msu.ru/dict/view.php?ID=20<br><br>Anastasia Yu. EFIMENKO<br>irm.msu.ru/employees/efimenko/ |
| 10:30 – 12:00 | Work in groups on given topics to prepare proposals for student cooperation projects and outcome document of the Student Forum | MSU main building, marble foyer of MSU House of culture | Session №2 of group work |
| 12:15 – 13:30 | Excursion in the Museum of MSU | MSU Main building | www.mes.msu.ru |
| 13:30 – 14:30 | Lunch | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 14:30 – 16:30 | Excursion in the MSU Botanical Garden | Walking tour | botsad.msu.ru |
| 16:30 – 18:00 | Symposium on the experience exchange of youth organizations in Russian-Japanese cooperation:<br>• YAMAMOTO Toshio, Head of Information Department of the Japanese Embassy in Russia;<br>• executive representative of Rosmolodezh - Federal Agency for Youth Affairs (part of the Government of Russian Federation).<br>Answers to questions of participants and discussion on the subject of Symposium. | MSU Main building,<br>1030 auditorium | |
| 18:00 – 19:00 | Work in groups on given topics to prepare proposals for student cooperation projects and outcome document of the Student Forum | MSU main building, marble foyer of MSU House of culture | Session №3 of group work |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 19:00 – 20:00 | Dinner | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 20:00 – 21:30 | Exchange of personal experience and training in talent management and self-development | MSU Main building | Students will participate in the training in 4 cross-functional teams |
| **September 27, Friday** | **The motto of the day: "OUR COMMON RESULT"** | | |
| 08:00 – 09:00 | Breakfast | MSU Main building | |
| 09:00 – 10:30 | Public interactive lecture about development of economic relations between Russia and Japan<br>• associate professor Mayu MICHIGAMI, Faculty of economics, Niigata University;<br>• professor Larisa V. LAPIDUS, Faculty of economics, Moscow State University. Answers to questions of participants and discussion on the subject of interactive lecture. | MSU Main building,<br>1030 auditorium | ass.professor Mayu MICHIGAMI<br>researchmap.jp/michigami/?lang=english<br><br>professor Larisa V. LAPIDUS<br>larisalapidus.ru |
| 10:30 – 11:30 | Work in groups on given topics to prepare proposals for student cooperation projects and outcome document of the Student Forum | MSU main building, marble foyer of MSU House of culture | Session №4 of group work |
| 11:30 – 13:30 | **Plenary session № 2** and final symposium with reports from each group and discussion of the outcome document of the Student Forum | MSU Main building,<br>1030 auditorium | Each group offers one proposal in the outcome document |
| 13:30 – 14:30 | Lunch | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 14:30 – 16:00 | Closing remarks of the Russia-Japan Student Forum | MSU Main building | |
| 16:00 – 20:00 | Excursion in the "Kolomenskoye" Museum | On a coach (bus) | www.mgomz.ru/kolomenskoe |
| 20:00 – 21:00 | Dinner | MSU Main building,<br>Dining room on the Sector B | |
| 21:00 – 22:00 | Freely communication of Russian and Japanese participants according to their interests | MSU Main building | |

| **September 28, Saturday** | **The motto of the day: "SEE YOU AGAIN IN NIIGATA!"** | | |
|---|---|---|---|
| 08:00 – 09:00 | The breakfast | MSU Main building,<br>Dining room at the Sector B | |
| 09:00 – 12:00 | "Russian tea ceremony" - Informal closing ceremony of the Student Forum | MSU Main building,<br>Dining room at the Sector B | |
| 12:00 – 13:00 | Lunch | MSU Main building,<br>Dining room at the Sector B | |
| 13:00 | Check-out of participants from the dormitory | MSU Main building | Participants, secretariat |
| 13:45 | Airport transfer | On a coach (bus) | Volunteers, photographer |
| 14:45 | Border control | Domodedovo airport | |
| 17:15 | Departure from Moscow | Domodedovo airport | |

# 学生フォーラム参加者 Japan

| No. | Name | University |
|---|---|---|
| 1 | Igarashi Ryoko | Hokkaido University |
| 2 | Sasaki Kaichi | Hokkaido University |
| 3 | Kamikawa Rei | Hokkaido University |
| 4 | Koike Takayuki | Tohoku University |
| 5 | Ishikawa Oriha | University of Tsukuba |
| 6 | Nakajima Momoka | University of Tsukuba |
| 7 | Nozu Rarana | Tokyo University of Foreign Studies |
| 8 | Kurisu Asaho | Tokyo University of Foreign Studies |
| 9 | Mitsunaga Mayuko | Tokyo University of Foreign Studies |
| 10 | Kawana Hiroki | Tokyo University of Foreign Studies |
| 11 | Kono Mako | Tokyo Institute of Technology |
| 12 | Watanabe Takumi | Niigata University |
| 13 | Sugawara Daisuke | Niigata University |
| 14 | Kikuchi Kazuma | Niigata University |
| 15 | Yamashita Teppei | Kanazawa University |
| 16 | Takeuchi Oki | Kobe University |
| 17 | Ishikawa Taiyo | Hiroshima University |
| 18 | Yoshimatsu Naoki | Nagasaki University |
| 19 | Kubo Aoi | Kobe City University of Foreign Studies |
| 20 | Shibagaki Airi | Kobe City University of Foreign Studies |
| 21 | Okada Takumi | Tokai University |
| 22 | Takahashi Mao | Tokai University |
| 23 | Komatsu Tomohiro | Tokai University |
| 24 | Suzuki Taiki | Sophia University |
| 25 | Omori Ayaka | Soka University |
| 26 | Kitamura Tsubasa | Waseda University |
| 27 | Ozaki Shiho | Kindai University |
| 28 | Sakaguchi Naoya | Kobe Gakuin University |
| 29 | Sagimori Mizuho | Kobe Gakuin University |
| 30 | Kato Mikiko | Fukushima Medical University |

# 学生フォーラム参加者 Russia

| No. | Name | University |
|---|---|---|
| 1 | Zimakova Ekaterina | Moscow State University |
| 2 | Gazi Yossr | Moscow State University |
| 3 | Gerchikov Alexander | Moscow State University |
| 4 | Abramova Tatiana | Moscow State University |
| 5 | Stolyar Natalya | Altai State University |
| 6 | Seitov Ruslan | Novosibirsk State University |
| 7 | Khramova Julia | Lobachevsky University |
| 8 | Sidorenko Anna | Diplomatic Academy |
| 9 | Shaginova Elena | Diplomatic Academy |
| 10 | Zhambekov Azamat | Kabardino-Balkarian State University |
| 11 | Bekaldieva Narsana | Kabardino-Balkarian State University |
| 12 | Shepeleva Polina | Southern Federal University |
| 13 | Pilipenko Ekaterina | Southern Federal University |
| 14 | Sukhov Victor | Southern Federal University |
| 15 | Khomenko Veronika | Novosibirsk State Technical University |
| 16 | Antropova Sofya | Russian New University |
| 17 | Artyomov Vyacheslav | Russian New University |
| 18 | Ivanova Margarita | Russian New University |
| 19 | Nazarenko Roman | Gubkin Russian State University of Oil and Gas |
| 20 | Arifullin Airat | Gubkin Russian State University of Oil and Gas |
| 21 | Vakhitov Rishat | Gubkin Russian State University of Oil and Gas |
| 22 | Belov Maxim | Gubkin Russian State University of Oil and Gas |
| 23 | Gutnikova Julia | Gubkin Russian State University of Oil and Gas |
| 24 | Akhmetzyanova Renata | Kazan (Volga) Federal University |
| 25 | Ibragimova Safina | Kazan (Volga) Federal University |
| 26 | Rumyantseva Elena | Kazan (Volga) Federal University |
| 27 | Rasulov Dinis | The National University of Science and Technology "MISiS" |



# Japan-Russia Students Union



## Friendship of Students of Russia and Japan

Ekaterina ZIMAKOVA
Moscow State University

Takumi WATANABE
Niigata University

Naoya SAKAGUCHI
Kobe Gakuin University

31st January 2020 | Tokyo Japan



# Japan-Russia Student Union



**Platform for student cooperation and youth interaction, created by the universities of Japan and Russia**

## Our Vision:

Increasing the number of people who are interested in studying or working in Russia/Japan

## Our Aim:

Improving relationship between Japan and Russia by enhancing educational, cultural and science exchange

# Japan-Russia Student Union





- all areas of cooperation: academic, educational, scientific, humanitarian, cultural, technological, economic, sports, etc.;
- in the framework of the Association of the Universities of Japan and Russia;
- coverage of the entire university youth - from applicants to young professionals;
- coordination of common standards, methods, technologies and rules of work and interaction;
- joint activity and mutual participation in each other's projects.

# Japan-Russia Student Union

## For youth Japan and Russian friends

## education, science, professional growth, social adaptation, cultural and personal development

JRSU
JAPAN RUSSIA STUDENT UNION

- students , 54 universities;
- geographic and interregional character;
- interaction with the authorities of both countries and international organizations;
- intercultural exchange, meetings and events with foreign students;
- language practice;
- help in social adaptation;
- scientific research;
- technical help and economic development;
- sports activities.

# Student Forums










| Preview in Vladivostok, Russia | **1st** in Hokkaido, Japan | **2nd** in Moscow, Russia | **3rd** in Niigata, Japan |
|---|---|---|---|
| Sep, **2017** | May, **2018** | Sep, **2019** | **2021** |

# Students support

➢**from University:**

1) Recognize the credit Exchange

2) Assist for making the website

➢**The environment surrounding the students**

a) VISA

b) Credit Exchange System

## Result of 2nd Russia-Japan student forum





### Group activity

- Discussion about the future cooperation between Russia with Japan
  - 10groups (society, culture, science, etc.)
- Presentation and share ideas by each groups

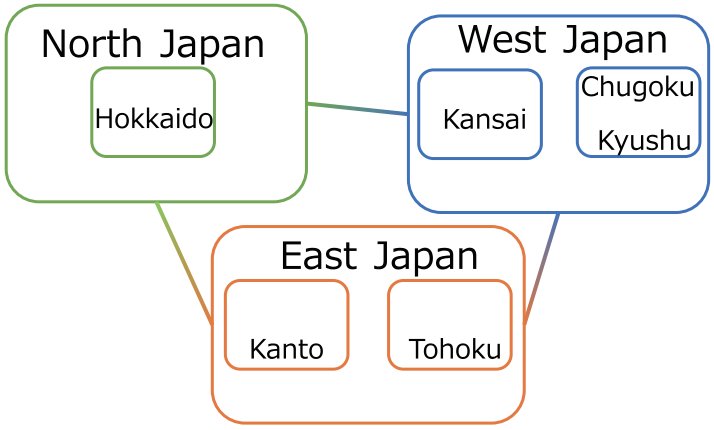
## Result of 2nd Russia-Japan student forum





### Organization of JRSU in Japan

- Japan-Russia Student Union's Structure



# Result of 2nd Russia-Japan student forum





## Lecture



- History
- Economy
- Ecology
- Human cooperation
- SDGs  etc.

Informative

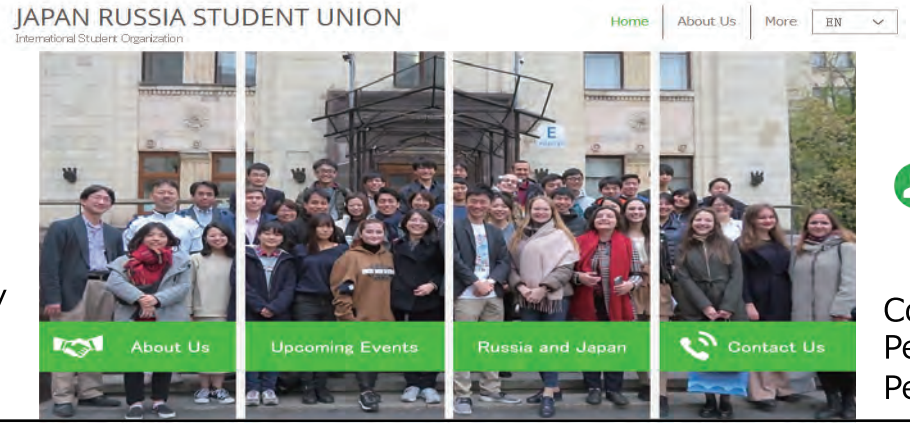
## Result of 2nd forum

Open our official  Website !

～by students, for students～

URL: https://jrstudentunion.wixsite.com/rjstudentunion

Sustainable




Enriched by Student's Perspective

Connect People and People

## Plan for 3rd JRSF in Niigata, Japan 2021



Community



Data



Projects



Activities



**Key tasks & expected results:**

- Developing the website,
- Making the JRSF a stable association,
- leadership election,
- specialized committees;

## Students' Opinion and Task





➢**Our remaining issues between Japan and Russia:**

a) Recognize the Credit Exchange System

b) VISA-Free Exchange:
Enable people go study abroad without VISA

➢**Our task:**

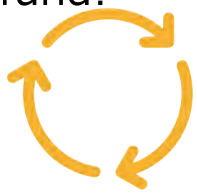
c) Other issues:
Toward 3rd Student Forum in Niigata

# Student's Dream

## Our Dream

Continuing our wonderful activities,
even after the termination of HaRP/IUEP fund!





## Problem

How to find sponsors for our activities

Welcome you as a sponsor for us!

Contact us: jrstudentunion@gmail.com

Kazan Federal UNIVERSITY

# Program Highlights

**Observership period** : 13 March - 17 April 2020 (four-week program duration), 5 days per week, 6 hours per day

A certificate of completion will be presented in the end of the observership period and will include following information:

- Name of the department(s)
- Amount of hours in each department
- Attachment : Observership performance evaluation

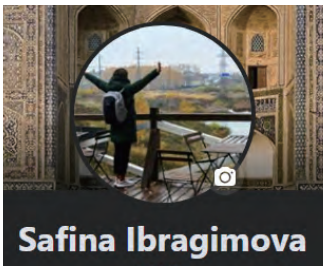
Kazan Federal UNIVERSITY

**Observership Program at University Hospital of Kazan Federal University (KFU)**

## Contact information:

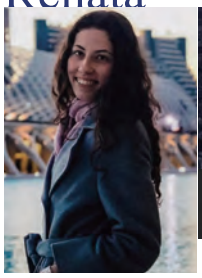

Safina






safina.ibragimova@gmail.com

Renata






renata.akhmetzianova@gmail.com




# 7　日露産官学連携実務者会議



2020年1月31日(金)に, 筑波大学東京キャンパスにおいて「第2回日露産官学連携実務者会議」を開催しました。

この会議は, 北海道大学と新潟大学が共同採択された文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～(タイプB:プラットフォーム構築プログラム)」の事業(HaRP事業)の取り組みの一つです。昨年度行われた第1回目の会議では約100名の日露交流を行う産官学の関係者が一堂に集い, 日露交流の発展及び促進を目的として情報共有し, 意見を交わしました。第2回の今回は, 日露交流を行う大学(日本の大学19校, ロシアの大学30校)に加え, 文部科学省, 外務省, 経済産業省, 在日ロシア政府公館, 企業・団体等(29の機関・団体)から, 昨年度を大きく上回る約160名が参加しました。

第1部の「大学の世界展開力強化事業採択校活動状況報告会」では, 北海道大学の笠原正典　理事・副学長及び吉岡路　文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室専門官の挨拶から始まり, 続いて平成29年度「大学の世界展開力強化事業(ロシア)」の採択大学8校(7事業)から, これまでの活動の成果や課題の紹介及び質疑応答がおこなわれました。

また, 日露大学協会の下に置かれている, 日露人材交流委員会や, 学生の立場から日露交流を考える日露学生連盟の活動報告も行われ, HaRP事業における日露交流に対する取り組みを多角的に, 多くの方に知っていただくことができました。

第2部の本会議においては, 宮川清巳　外務省欧州局日露経済室・ロシア交流室主席事務官, 靏田将範　経済産業省欧州課長, Igor　TITOV在日ロシア連邦大使館参事官兼ロシア連邦交流庁駐日代表, Pyotr　PAVLENKO在日ロシア連邦通商代表部首席代表の挨拶に続いて, 一般社団法人ロシアNIS貿易会 (ROTOBO) 及び独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) による日露経済協力と外国人材採用を見据えた取り組みについての発表があった後, 北海道大学の瀬戸口剛工学研究院長から, 2019年度の専門セクションにおける地域に根ざした産官学連携状況についての全体説明が行われました。

また，ロシア側大学4校より，ロシア各地（ウラジオストク，サンクトペテルブルク，サハリン，イルクーツク）の日本関係地域コンソーシアム紹介と，日本側大学3校より日本各地（北海道地域，新潟地域，石川地域）のロシア関係地域コンソーシアムについて発表があり，日露各地でのさまざまな分野において，特色のある取り組みがされていることを窺うことができました。

その後，「2020年～2021年の日露地域交流年における，地域単位での日露経済協力と人材育成の展望」についてのパネルディスカッションが行われ，北海道大学の瀬戸口工学研究院長をモデレーターとして，日露合わせて6名のパネリスト，コメンテーターとともに，意見交換が行われました。特に人材育成においては，日露双方の学生インターンシップについて議論がなされ，受入先企業や地域社会にとってのメリットについて話し合いが行われました。

また，既にインターンシップを導入している大学からビザ取得方法や，日露における仕事観の相違について具体的な情報を共有することができました。

会議の中では，既存の日露交流の深化や新たな交流の形成を図るため，自由交流会の時間を多く設けたり，ポスター展示も行いました。

また会議前日には，日本側大学16校ロシア側大学5校が参加し，日露大学間の単位互換制度について議論した日露人材交流委員会幹事会や，日本側関係者18名，ロシア側関係者27名が参加し，各事業内容の発表を行った先端技術専門セクション会議，日本側大学７名ロシア側大学５名が参加した日露学生連盟打合せが行われました。

この会議を契機として培われた，産官学連携に携わる実務者同士のネットワークが，今後の日露交流を発展させることを期待します。



## 概　要

| | |
|---|---|
| 開　催　日 | 2020年1月31日(金) |
| 開 催 場 所 | 筑波大学東京キャンパス文京校舎 |
| 参 加 人 数 | 163名 |
| 参 加 機 関 | 日露の大学（大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校，日露大学協会加盟校等），文部科学省，外務省，経済産業省，ロシア大使館，ロシア通商代表部，日露交流を行う企業，自治体，団体等（後述の「参加機関一覧」参照） |

## スケジュール

**［第１部］大学の世界展開力強化事業採択校活動状況報告会**

- **挨拶**（北海道大学，文部科学省）
- **平成29年度採択校による事業紹介，Q＆A**
- **日露人材交流委員会活動報告**
- **日露学生連盟活動報告**
- **文部科学省と大学の世界展開力強化事業採択校との意見交換，質疑応答等**

**［第２部］本会議**

- **挨拶**（外務省，経済産業省，在日ロシア連邦大使館，在日ロシア連邦通商代表部）
- **日露経済協力と外国人材採用を見据えた取り組み**
  「人材育成に資するロシアNIS貿易会の取り組み」：ロシアNIS貿易会（ROTOBO）
  「ジェトロの高度人材活用の取り組み」：日本貿易振興機構(JETRO)
- **全体説明（専門セクション及び産官学連携に関する説明）**
- **ロシア各地の日本関係地域コンソーシアム紹介**
  ウラジオストク：極東連邦大学
  サンクトペテルブルク：サンクトペテルブルク国立工科大学
  サハリン：サハリン国立大学
  イルクーツク：イルクーツク国立大学

- **記念写真撮影, 自由交流会**
- **日本各地のロシア関係地域コンソーシアム紹介**

  北海道地域コンソーシアム：北海道大学

  新潟地域コンソーシアム：新潟大学

  石川地域コンソーシアム：金沢大学
- **大学と企業等とのパネルディスカッション**

  【テーマ】2020～2021年の日露地域交流年における, 地域単位での日露経済協力と人材育成の展望

  モデレーター：北海道大学

  パネリスト：東京外国語大学, 日本映像翻訳アカデミー(株), ウラル連邦大学

  コメンテーター：日本貿易振興機構(JETRO), オポーラ・ロシア全国中小企業連盟協会

※閉会後, 自由交流会を実施

## 参加機関一覧

- **関係省庁, 大使館, 通商代表部**

  文部科学省, 外務省, 経済産業省, 在日ロシア連邦大使館, 在日ロシア連邦通商代表部
- **日本の大学, 高等教育機関**

  〈大学の世界展開力強化事業（ロシアとの交流）〉

  平成29年度採択校：千葉大学, 東京外国語大学, 東京工業大学, 金沢大学, 長崎大学, 福島県立医科大学, 東海大学, 近畿大学

  平成26年度採択校：筑波大学, 東京大学, 新潟大学, 北海道大学

  〈日露大学協会加盟校〉

  名古屋大学, 神戸市外国語大学, 上智大学, 創価大学, 南山大学

  〈専門セクション参画校〉札幌大学, 長岡技術科学大学

  〈その他〉長岡工業高等専門学校
- **ロシアの大学**

  〈日露大学協会加盟校〉

  モスクワ国立大学, アルタイ国立大学, 極東連邦大学, イルクーツク国立大学, カザン連邦大学, クラスノヤルスク国立医科大学, ノヴォシビルスク国立大学, セチェノフ第一モスクワ国立医科大学, サハリン国立大学, 北東連邦大学,　北方（北極圏）連邦大学, 太平洋国立医科大学, 太平洋国立大学

〈その他の大学〉

アストラハン国立大学, ヴォルゴグラード国立大学, 極東国立農業大学, 極東国立交通大学, ドン国立工科大学, イルクーツク国立研究工科大学, モスクワ市立教育大学, モスクワ国立言語大学, モスクワ測地学・地図作成大学, ペルミ国立大学, ロシア民族友好大学, サンクトペテルブルク国立文化大学, サンクトペテルブルク国立工科大学, 北西国立医科大学, トムスク国立工科大学, ウラル連邦大学, チェリャビンスク国立大学

- **日本の企業, 自治体, 団体等**

〈企業等〉

日本映像翻訳アカデミー株式会社, 株式会社テクノソリューション, 双日ツーリスト株式会社, 東京貿易マシナリー株式会社, 三井物産株式会社, GPSSホールディングス株式会社, 株式会社 明神館, ソブリンインターナショナルソリューションズ, サスティメント株式会社, 株式会社J&Jヒューマンソリューションズ, 川崎重工業株式会社, 自営業

〈自治体, 団体等〉

一般社団法人 ロシアNIS貿易会(ROTOBO), 独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO), 公益財団法人 環日本海経済研究所, (日露アンチエイジング医学会*)*オポーラロシア全国中小企業連盟協会からの参画者

- **ロシアの企業, 団体等**

オポーラ・ロシア全国中小企業連盟協会, 財団「ウリヤノフスク-文化の首都」, 文化情報センター「日本」, ヤクート農業研究所(ロシア科学アカデミーシベリア支部), サハ共和国議会, サハ共和国農業局, 国営企業 サハ共和国貴金属及び宝石委員会, レストラン「Rekaozeroles(川・湖・森)」

# 8 大学の世界展開力強化事業中間評価について

HaRP事業は，文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択され，支援を受けています。この事業は，最大5年間の補助事業で，補助機関開始の3年目に中間評価，補助期間修了後に事後評価が実施されることとなっております。本プログラムの中間評価が本年度実施され，以下のとおりとなりました。

## 中間評価にかかるスケジュール

| | |
|---|---|
| 2019年 4月 | 評価実施についての通知 |
| 7月中旬 | 中間評価調書の提出 |
| 7月下旬～9月中旬 | 書類評価の実施 |
| 10月16日 | 面接評価の実施 |
| 12月下旬～<br>2020年1月下旬 | 中間評価結果（評価コメント）の事前開示及びこれに対する申し立ての受付 |
| 2020年 3月9日 | 評価結果の通知 |

## 評価結果

総括評価
A

これまでの取組を継続することによって，事業目的を達成することが可能と判断される。

コメント

本プログラムは，日露間の連携強化を実現すべく，諸活動を担う地域エキスパートである高度職業人を育成する日露共同教育プログラムの確立とその実施支援組織の整備が不可欠な課題について北海道大学と新潟大学が連携し，両国の経済連携強化に資する幅広い人材育成と学術振興を目的とする産官学連携のプラットフォーム構築を目指している。

日本側の2大学とモスクワ大学，太平洋国立大学が中心となり，両国にセントラル・オフィスやリエゾン・オフィスを設置することで，多彩な活動が推進できる体制を整備している。また，日露大学協会総会等を開催し，各種委員会設置や8項目の日露経済協力プランに対応する専門セクションを設置するなど，プラットフォーム構築プログラムとして順調に進捗している点は高く評価できる。2018年度までに数多く開催したイベントの中で，日露産官学連携実務者会議は日本の大学等への波及効果を伴いつつ，両国の発展に寄与する活動を担っているほか，企業・団体からも寄附を募るなど，意欲も感じられる。さらに，各大学の取組や今後の計画等をリスト化し，新たな事業の提案や既存事業の発展・展開を検討する上での基礎となる情報収集やデータ整理が行われており，今後これらを活用した一層の展開が期待できる。

一方で，イベント開催に留まらない，日本の大学全体に裨益するような活動の提供が期待される。具体的には，ロシアの大学との交流実績のない，あるいは少ない大学に対するロシアの大学に関する情報提供や，学生交流，研究交流，語学研修等の実施を模索する大学同士のマッチングを行うなど，交流活動に関する相談や

助言が可能な窓口の開設等の交流普及活動が望まれる。また，留学を希望する日露双方の学生が必要とする情報が容易に得られるポータル・サイトの提供も期待される。加えて，プラットフォーム構築プログラムとしてのウェブサイトについては，ロシア語での情報発信に一層の注力を期待したい。
最後に，今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに，我が国と相手国の大学間交流の促進に向け，プラットフォーム構築事務局として引き続き積極的にプログラムを展開していくことを期待する。

また，中間評価実施年度の取組状況のうち，海外の大学との連携教育やその質の保証のための取組など大学が積極的に記載する実績については，調書提出時までの実績を評価の対象とします。

## 評価基準

中間評価結果は，総括評価（下表の５段階評価）及び評価結果に関するコメントで構成されます。

| 評　価 | 標　語 |
|---|---|
| S | 優れた取組状況であり，事業目的の達成が見込まれる。 |
| A※ | これまでの取組を継続することによって，事業目的を達成することが可能と判断される。 |
| B | 当初目的を達成するには，助言等を考慮し，より一層の改善と努力が必要と判断される。 |
| C | これまでの取組状況等に鑑み，目的の達成が困難な取組があると考えられ，<br>成果を見込めない取組については縮小・廃止し，財政支援規模の縮小が妥当と判断される。 |
| D | これまでの取組状況等に鑑み，事業目的の達成は著しく困難と考えられ，<br>財政支援の中止が妥当と判断される。 |

※A評価のうち，取組状況や目標の達成状況について，評価の段階では一部改善を要するものの，これまでの取組を継続することによって，事業目的を達成することが可能と判断されるものについてはA⁻とすることが出来る。

なお，評価結果については，以下のURLに掲載されております。

（平成29年度採択プログラム全体の評価）
https://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/chukan_hyoka_kekka.html

（各事業ごとの評価）
https://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/sentei_jigyo_h29.html

# 9 HaRP事業へのメッセージ

## 世界冬の都市市長会実務者会議に併せて開催された Panel discussion program “North for work and life”の意義について

世界冬の都市市長会事務局書記長代理　岩田 敦
(札幌市国際部交流課)

2019年の世界冬の都市市長会実務者会議は，北極圏に位置するロシア・ノリリスク市が開催都市となり，2012年以来となる国外開催となりました。この実務者会議に併せて，HaRP主催の学術フォーラムを開催いただきましたことに，御礼を申し上げます。

市長会の前身である北方都市会議は，1981年に当時の札幌市長である板垣武四が提唱し，「冬は資源であり，財産である」というスローガンのもと，気候・風土が似通った都市が共通する課題について話し合うことを目的として，1982年に第1回の会議が開催されました。この北方都市会議から北方都市市長会を経て，現在の世界冬の都市市長会へと発展していきました。

市長会では，2年に一度開催する市長会議や，テーマを設定して課題解決に取り組む小委員会の中で，様々な施策の共有や検討を行っていますが，今回，実務者会議に併せた学術フォーラムを開催いただき，日ロ双方の研究者によって様々なテーマで学術的な知見をご提供いただいたことは非常に有意義なことであり，今後の各都市における施策立案への一助となるものと考えています。

また，同じくHaRPのご協力によりノリリスク市が開催した併催イベントであるトークショーの"How to make life in a winter city more comfortable"では，会員都市であるエドモントン市，マガダン市，札幌市をパネリストにお招きいただき，プレゼンテーションや質疑応答を通じて，各都市の魅力や先進的な施策，冬の都市ならではの課題について意見を交換することができたところです。

このように実務者会議に併せて学術フォーラムやトークショーを開催していただいたことは，市長会にとって大いに意義のある取組だったと考えています。

HaRPに参画するいくつかの大学では，その立地環境から寒冷気候下における学術的な研究が幅広く行われておりますが，これらの研究成果を基に，会員都市が実際に施策に取り組んでいくことができれば，それは市長会にとっても実に価値のある取組となります。

今後とも，「冬は資源であり，財産である」という市長会のスローガンを共有していただき，様々な場面で連携を図っていくことができればと期待を寄せているところです。

2020年の市長会議は，フィンランドのロヴァニエミ市で開催します。このたびの実務者会議で，メインテーマを「Aging Society in Winter Cities and Cold Climate」に決定いたしました。ぜひ，ロヴァニエミ市での市長会議にもご参加いただき，高齢化の進む冬の都市ならではの課題を解決するため，建設的な意見交換ができればと考えています。

2020年2021年は，日ロ地域・姉妹都市交流年でもあります。私たちは，日ロ双方の大学の研究の成果を，広く世界の冬の都市に提供していくツールとして市長会を用いていただくためにも，今後とも，HaRPと密接な連携をしていきたいと思うところです。



図1．コーヒーブレイクの情報交換風景（左からノヴォシビルスク市 エフゲニー・モーリン国際交流委員長，北海道大学　マリーナ・ロマーエヴァ産学官連携コーディネーター，同　森太郎准教授，同 大塚夏彦教授）



図2.伝統的な友情の儀式（中央：北海道大学大塚夏彦教授，右：札幌市国際部交流課 平塚泰章氏）

# 日露IT人材育成の促進とHaRP活動に対する期待に寄せて

株式会社テクノソリューション　取締役事業部長　坂口 憲一

■はじめに

私は1994年，サンクト・ペテルブルグ国立大学に私費留学しました。異国の地で同世代の若者と交流できたことは私自身の大切な思い出となりましたが，ソ連邦崩壊後のロシア経済社会の大混乱は，日露間の学術研究や人材交流活動にも少なからず負の影響を与え，ロシアへの日本人留学生も大幅に減少しました。

2018年，日露経済協力プラン（8項目）の一環で，日露ITスタートアップ企業ビジネスマッチングイベント（総務省主催）に参加する機会を得て，四半世紀振りにロシアの地を踏むことができました。大きく変貌を遂げたロシアの街並みを目の当たりにして，約25年前に成し得なかった日露間でのIT分野におけるビジネスに取り組むことを決意しました。そして，事業化調査でロシアを再訪問した際に，日本貿易振興機構（JETRO）のモスクワ事務所から，第2回日露大学協会総会（第8回日露学長会議）をご紹介いただき，すぐに企業ブース出展を申し込みました。それが，北海道大学モスクワオフィスとの出会いでした。

■日露間における大学・学生の活発な交流

2019年9月23日（月）。初めてモスクワ国立大学を訪れました。広大なキャンパスには，歴史を感じさせるスターリン様式の本館があり，その迫力に驚くばかりです。日露大学協会総会では，日露双方の大学から，医療・健康や地域開発・スマートシティ，人材交流等，多岐にわたる日露共同研究プロジェクトの事例発表がありました。また日露学生連盟の活動においては，次代を担う若者達が，日露の社会・文化・経済・スポーツ等の各分野で議論を展開していました。25年前の留学生活とは大きく異なり，羨ましくも思いました。

■HaRP（北海道大学モスクワオフィス）との連携

日露大学・学生の活発な交流事例を知り，私自身にも具体的なビジネスアイデアが思い浮かびました。それは，「日露間における先端ITエンジニアの育成事業」です。

現在，我が国ではAI（人工知能）やBig dataデータ分析，ブロックチェーン等の先端技術を担う「先端IT人材」が不足しています（経済産業省・「IT人材需給に関する調査」2019年）。IT産業の下請け多重構造やエンジニア客先常駐作業の慣例化，長時間労働などもあり，独創的なサービス創造が難しく，北欧や東南アジア等に比べると，我が国のスタートアップ市場の立ち上がりは遅いのではないかと危惧しております。先端ITエンジニアの育成は，我が国の新たな経済成長を牽引する重要なカギを握るものと考えております。

一方，ロシアでは，昔から数学や物理等の理数教育が優れていることを知っておりましたので，ロシアにおけるIT教育の現状を調査するために，北海道大学モスクワオフィスを何度も訪問させていただき，ロシアの大学教育の現状をご教授いただきました。さらに，日本帰国

時には北海道大学国際部（札幌市）にも訪問のうえ協力をお願いした結果，ロシア各地の大学（ノヴォシビルスク国立大学，ノヴォシビルスク工科大学，ウラジオストク極東連邦大学，サンクト・ペテルブルグのComputer Science Center）を訪問することができました。どの大学・組織でも，私一人を温かく迎え入れていただき，日露間における産学連携の交流促進に向けて，最初の一歩を踏み出すことができました。特にノヴォシビルスク国立大学では，学生達と一緒に人工知能の講義（ゲーム理論の「ナッシュ均衡」）を受講することができました。さらに，サンクト・ペテルブルグのComputer Science Centerは，民間企業が運営する教育組織であり，実務に即した実践的なIT教育を無料で実施していました。

■HaRPネットワークの価値

今回は，私の出張の関係上，シベリア・極東方面およびロシア西部の大学等を訪問してきましたが，HaRPの中心的な役割を担われている北海道大学のロシアとの人脈ネットワークおよび迅速なご対応によって，出張途中での日程調整を経て，ロシアの大学訪問が実現できました。私共のような零細企業に対しても，北海道大学の皆様は真摯にご対応いただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。新たなビジネス創造を模索されている日本の中堅・中小企業の方々も，日露間での産学連携ビジネスを検討される際には，HaRPや北海道大学のネットワークを積極的に活用されることをお薦めいたします。

■今後HaRPに期待すること

現在の日露間における学術・経済交流の発展は，日露両政府による積極的な外交・経済施策が牽引役となっています。今後，政治主導から民間主導へと変遷する過程において，成果を上げている学術・経済交流がさらに自律的発展を続けるためにも，我が国の社会的課題や産業界からのビジネスニーズを解決できる研究開発や人材育成を実践いただきたく存じます。また，我々，産業界からも日露ビジネス拡大に向けての積極的な投資とともに，HaRPネットワークの活用を進めていきたいと考えております。

（補足）

2020年1月30日（木）に開催された「先端技術協力に関する意見交換会」において，弊社からは「日露IT教育プログラムの実践」に関する産官学連携ビジネスを提案させていただいたところ，参加大学（ロシア）から多数の賛同の声をいただきました。今後，ビジネスの具体的な実践に向けてチャレンジしていきたいと思います。



サドーヴニチィ学長（モスクワ大学）との記念撮影（日露学長会議2019）

# 親愛なる友人の皆様！

在札幌ロシア総領事館　アタッシェ　オリガ・ダニロワ

ロシア高等教育界にとって未だかつてない規模の対日交流人材育成プロジェクトであるHaRPプラットフォーム事業が年度末を迎えようとしています。

昨年，総領事館とHaRP幹事校の間で効率的な連携が生まれ，北海道とロシア連邦構成主体との交流状況や今後の予定について定期的に情報交換することが可能になりました。その結果，地域間協力の発展を目指すいくつかの重要イベント（2019年10月の北海道ロシア連邦極東地域経済協力常設合同委員会の会議，11月北海道代表団サンクトペテルブルク訪問）においてHaRPプロジェクトが紹介され，露日関係に積極的な地域の首脳部にこのプロジェクトの情報を届けることができました。また，双方の取り組みにより参加大学数が増え，政府機関やビジネス界のこのプラットフォーム事業に対する更なる注目を喚起することができました。

とはいえ，私たちはこの道を歩み出したばかりです。ロシアと日本の若者には，大学卒業後の就職という切実な問題が残っています。ロシアと日本の連携の中に広がる大きな可能性をはっきり示せるような現実的な「成功例」が必要です。このようなモチベーションは露日関係の仕事がキャリアとして成立すると考えているビジネスマンや学者にも必要です。またHaRPが日本におけるロシア語とロシア文化の普及や両国の大学単位相互認定のような応用的な課題の解決に資することを期待しています。近い将来，首脳レベルで確認された二国間関係を質的に新たなレベルに引き上げるという計画を現実のものにする若いスペシャリストのコアを作れるかどうかは，当然の事ながら，私たちの肩にかかっています。

# HaRPプラットフォームと極東連邦大学

極東連邦大学 東洋学部・研究科 地域・国際研究専攻
学部・研究科長 エヴゲーニー プストヴォイト

北海道大学と新潟大学が創設した日ロ経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム（HaRP）は，すでにロシアと日本の大学間連携にとって重要なステージになっている。また教育関係の共同事業を実現することで人文分野の両国関係を共に発展させたいと希求するさまざまな団体（民間企業や公的機関）にとっても重要である。特に2020-2021年のロシア日本地域間・姉妹都市交流年の中で注目されている。

2020年1月HaRP実務者会議が東京で行われたが，プラットフォーム主催者や参加者は議事の枠を広げ，より大きな規模のプロジェクトについて発言していたように感じた。これらのプロジェクトが実現されると，双方の接点がさらに増加して，将来性があり興味深い活動分野の創出につながるだろう。

会議は実り多く，参加者は両国の文化研究，言語学習，学術成果レベル，教育システムの魅力と課題，両国の留学プログラムなど文化・人的交流について幅広い協議を行なった。プラットフォームを使って持続的な交流を維持発展させることが重要であると指摘された。具体的には①日本語教員の研修，②学生対象の講義のための教授招聘，③出張講座の講師招聘，④学術交流と交換プログラムである。

双方とも学術教育面で大きな潜在力を持ち，互いに学術交流やアカデミックな交流に関心を示していることから，HaRP活動の枠内で私達の協力分野の幅が広がり，ボリュームが大きくなっていくものと期待される。

また多くの会議参加者がHaRPの支援の下で，次の方向性について互恵協力を発展させることに同意した。

1．学者・専門家交流
2．科学技術調査研究活動に係わる政治，実習，法律問題に関する情報交換
3．双方が関心を持つテーマでの合同セミナー，国際会議，シンポジウム，展示会の開催
4．学者・専門家の育成と能力向上
5．連携プログラムと協力プロジェクトの実施
6．技術交流

今日, 極東連邦大学には長年の東洋学研究の実績だけでなく, 先進的な科学調査研究基盤や革新的教育プロダクト, 勉学と生活のための素晴らしい環境があり, ロシア国内有数の教育拠点のひとつとして, 多くの外国人留学生を魅了している。現在, 極東連邦大学には75カ国3500人の留学生が学んでいる。その約65%がアジア太平洋地域諸国の学生であることが特徴である。

極東連邦大学と日本の諸大学および民間企業との関係が大きく発展している。これがアジアや世界の教育界とロシアとの多面的な融合に役立っている。日本については日立, 島津, コマツ, JAL, 三菱, テクニコ, 扉温泉明神館, 国立農業食品産業技術総合研究機構, 日本特許庁など主要な試験場, 研究所, 企業との協力関係がある。

極東連邦大学は日本企業と本学学生のための研修プログラム拡充に向け協力の発展に努めている。これは安倍首相が提案した「8項目協力プラン」に沿ったロシアと日本の人的交流の役割強化に役立っている。具体的には革新的で魅力的かつ競争力のある教育研究プログラムや露日間の新規ビジネス案件の策定, 極東連邦大学学生の日本語能力の向上, 日本の企業風土や文化に対する理解深化, 日本企業におけるOJT, 主な日本の大学や団体, 民間企業と協働で進める極東連邦大学学生や教員の国際的流動性の拡大である。

HaRPにおける極東連邦大学と日本の諸大学との今後の協力は有意義で将来性があると考える。協力関係が長期的なものになることを期待している。最も大切なものは, ロシアでも地理的遠隔地で, 開発が不十分である極東のような地域の発展にとって重要な第一歩であるということだ。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

新潟大学 経済学部 経済学科　菊地 主眞

## 事前オリエンテーション

事前のオリエンテーションは，ロシアに行くにあたっての渡航事前確認として大変重要であったと思います。次回も継続して行ったほうが良いと思いました。

また今回のフォーラムでは，日本人側の初の顔合わせがロシアで行われたことで ロシア人学生と交流する前に日本人同士の交流が必要となり，ロシア人との交流がスムーズに行われなかったと思いました。次回のフォーラムでは，事前に日本人学生間の親睦を図ることでロシア人の受け入れや交流がスムーズにできる環境を整えたほうが良いと思いました。

## 講　義

自らの専門以外の講義を聞く機会はめったにないものであり，とても貴重な経験となりました。そのために次回からも継続してほしいと思いました。また専門外の講義で，しかも英語で行われたことで学生側で理解が追いつかない場面が多々あったように感じました。補足の配布資料やせめてスライドを印刷したものを手元に用意するべきと思いました。

## エクスカーション

スケジュールのおくれも途中ベネズエラの大統領がロシアを訪問していたことで起きたものだけで，快適にロシア観光を楽しめました。

## エキシビションツアー

普段ならいけないような教室，大学内の資料室も見学できたので大変満足です。

## グループワーク

私が所属した経済の分野においてはグループ分けは適当でした。しかし第一希望からもれた学生からは不満の声を聞くことがありました。多数のグループ，多数の学生がいるため，全員が希望通りにいくことが難しく仕方のないことだとは理解していますが，なるべく選考と同じグループになるようにしていくべきと思います。

私たち新潟大学では，次期フォーラムに向けて日露学生連盟内に実行委員会を作り，その中でグループワークの内容を考えるプログラム作成という部署を作る予定です。今回のグループワークでは生徒間の知識の有無に大きな差があり，私が想定していた内容よりも薄く，誰でもできるような議論となってしまいました。そのため事前に各分野の議論の内容を決めて，参加する生徒に事前学習してもらうようにする予定です。

通訳に関しては賛否両論あると思います。私自身，議論の中でうまく伝えられないことを通訳の方にサポートしてもらうこともありました。しかし，通訳に頼ってしまうことで日露生徒間の直接的な交流が図れない場合も見受けられました。このフォーラムではあくまで二国間の交流がメインとなるため，言葉が通じないなりに工夫することも生徒の成長に繋がることだと思います。次期フォーラムではなるべく通訳を通さずに議論してもらう予定です。

## ロシア人学生との交流

ロシア人側も英語を話すことができたくさん交流することができたため，言語能力には不満はありませんでした。ロシア人との交流を通して，ロシア人も”奥ゆかしい”という点で日本人と似ていると感じることができたことが一番の思い出です。

## 全体を通して

今回のフォーラムは坂口さん，尾崎さん，五十嵐さん，上川さん，佐々木さん，渡邊君，岡田さんの現コアメンバーがいなければ成功しえなかったと思います。一フォーラム参加生徒として感謝しています。本当にありがとうございました。こんな貴重な経験ができたのも皆さんのおかげです。

今回のフォーラム時にはすでに次期フォーラムが新潟で開催されることが決定していたため，私は次の開催にあたって参考になるもの，改善すべきものを選別し見つけ出さなければならない批評的な立場として参加しました。そのため，現コアメンバーからすればフォーラムのなんの役割もはたしていないのにもかかわらず，上から目線でプログラムや日程に批判する私を目の上のたんこぶのように感じていたと思います。大変申し訳ございません。

モスクワ大学でのフォーラムを経験し，新潟でのフォーラムと照らし合わせていくとやはり不安になる箇所，本当に新潟で開催できるかなどと思ってしまうこともあります。しかし，日露学生連盟の再スタートをしている現在，各生徒が自ら考えて行動し連盟を盛り上げようとしている姿を見るとそんな心配は無用のもとであると感じています。各大学が持つ特徴，各生徒が持つ得意とするものを組み合わせていけば，次期新潟でのフォーラムは確実に成功するはずです。もちろんこのフォーラムは学生連盟主催なので学生が主役となりますが，日露関係をつなぐ架け橋の基礎としてそれぞれの政府も一目置く存在になれるはずです。私はこの日露学生連盟の再スタートに立ち会わせてもらっていることをうれしく思い，学生連盟が日露間の重要な役割を果たせるようになることを願っています。コアメンバーの皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

北海道大学 理学部　地球惑星科学科　4年　上川　伶

## 事前オリエンテーション

内容については特に過不足はなかったと思います。ご丁寧にしおりまで作成してくださり，大変助かりました。オリエンテーション実施後に全員に録画を共有してくださると，欠席者や再度確認したい方でも視聴できてよかったのではないでしょうか。次回以降，ご検討いただけると幸いです。

## 講　義

やや専門的な研究内容についての講義が多く，正直なところ理解するには難易度が高かったように感じます。もう少し講義のレベルを下げるか，様々な分野の学生にとって馴染みやすいようなトピックが望ましいかと思います。また，せっかく日本人学生とロシア人学生が集う場での講義なので，普段のような一方向の講義だけでなく，先生方に何か論点を提供していただいて議論を行うような形式や学生発表を入れたゼミ形式の講義を導入するなどの工夫があると，講義パートでもより充実した交流が期待できます。

## エクスカーション

歴史あるモスクワ国立大学構内の施設やモスクワの景勝地を訪れ，ロシアの文化に触れることができる貴重な機会でした。モスクワ国立大学をはじめとするスターリン建築やメトロで見られた労働者の像などからは，ソ連時代の名残が感じられました。もし軍事大国ロシアを象徴するいくつかの軍事博物館にも訪問する機会があれば，また違ったロシアを垣間見ることができたのではないでしょうか。

## エキシビションツアー

エキシビションツアーのプログラム時間は僅少であったため，エクスカーションの項目に統合して記載いたしました。

## グループワーク

ロシア人学生のボランティアスタッフが進行役を務めてくださったおかげで，ディスカッション自体は非常に楽しんで取り組むことができました。ただし，議論の成果を今後どのようにJRSUの活動に取り入れていくのかについては日本側とロシア側で意見の相違があったように感じました。

また，今回は幅広いテーマを扱うことはできましたが，グループごとでの議論と発表で終わってしまい，異なるグループ間での意見交換や発表後の計画についてのフォローが甘かったと言わざるを得ません。また，今回扱ったどのテーマも議論がやや予定調和となってしまった側面があるので，次回はもっと内容を精査して論点を設定し，場合によっては事前学習を検討してもよいかもしれません。

## ロシア人学生との交流

グループワークを通じて同じグループのメンバーとは交流することができましたが，時間的な制約もあり他のグループの学生やボランティアの学生とはなかなか交流の場を持つことは難しかったです。人数が多く言語のレベルや社交性の有無などに個人差がかなりあるので，ホスト側は個人どうしの交流の時間を確保しつつもなるべく積極的にグルーピングを変えることによって多くの参加者と触れ合う機会をつくるよう努力したほうが良いと感じました。

## 全体を通して

ロシア人学生はもちろんのこと，日本国内のJRSUメンバーとの関わりができたことは大きな収穫でした。これまでなかなか顔を合わせて話し合う機会が少なかったので，夜の空き時間などを有効に利用して今後の活動について議論したことで次回の新潟での開催に向けて多少ながらも前進できたと感じています。モスクワとは条件が異なる部分は多いですが，今回の良かった点や反省から学んだことの中で次回のフォーラムにつなげられることは大いに参考にいたします。

最後にモスクワ国立大学の皆様，旅行の手配や引率などサポートしてくださった先生方，参加者の学生さん方に深く感謝申し上げます。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

神戸学院大学 グローバルコミュニケーション学科 3年　坂口 尚弥

## 事前オリエンテーション

とても良いアイデアだし，今後も継続して行っていくべき。今回は一度に多くの学生の参加であったため，一人一人に意見や質問を発表できる雰囲気作りがあまりできていなかった。次回からは何回かに分けて行った方がより良いと思う。

## 講　義

他の学生からは講義が多すぎるという声もあったが，個人的にはとても満足した。普段の学生生活では聞くことのできないような内容で，分野も多岐にわたっていた。次回からもボリュームを調整しつつ先生方の講義はイベントスケジュールに入れていてほしい。

## エクスカーション

長丁場のフォーラムだったので，息抜きをできる良い機会だった。また，ワーク中では関われなかった人ともコミュニケーションをとることができ，文化の相互理解に大いに役立った。また，日本側チーム内での組織マネージメントを行う上でも，一人一人と会話をできたので，大変有意義な時間だった。

## エキシビションツアー

これも上記と同じく一日に変化を加え，ワークの生産性を上げることに繋がった。個人的にも権威ある大学を隅々まで拝見することができたのでとても満足した。こちらも是非今後のフォーラムの参考にして欲しい。

## グループワーク

改善としてあげられる点は学生たちが，①何を求められているのか，②どのレベルを求められているのか，③このGWの結果はどうなるのか，といった点をより詳しく，全員に徹底共有すること。これらの情報伝達は私が一番に意識していたことなので，FBを行い次回フォーラムに生かしていきたい。

## ロシア人学生との交流

連盟の大義である"文化的交流"を果たすうえで大変重要なポイントだと思う。彼らの立ち振る舞いには感動したし，素晴らしい学生たちがフォーラムに集っていた。岡田君のアンケート結果にあったように，多くの日本人がロシア人に対して様々なイメージを持っているが，それらは私たちが出逢ったロシア人たちと必ずしも一致しない。ロシアのリアルを伝えていくことが私たちの使命であると改めて感じた。

## 全体を通して

大変満足してます。素晴らしい仲間たちとともに素晴らしい環境で仕事できたことを誇りに思います。今後この意義ある活動を存続させていくためにも継続して活動していかなければならないと思います。最後に，このような機会を与えてくださった皆様に大変感謝申し上げます。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

広島大学 国際協力研究科 修士2年　石川 太陽

## 事前オリエンテーション

事前に参加する学生や教員とコミュニケーションを取ることは非常に重要だと思いました。大学によっては事務の方もフォーラムや連盟についてよく分かっていない場合もあるので，事前に情報を共有し，できる限りステップを合わせることは次回のフォーラムでも重要になってくると思います。また，参加学生が早めに決まっていれば，オリエンテーションや事前準備の時間をもっと割くことができると思うので，2021年の新潟に向けて，各大学で早めに担当学生を決めておくのが良いかと思います。

## 講　義

今回は全体的に講義のスケジュールが詰め詰めであったり，それぞれの講義時間が長く，講義後の質疑応答の時間が少ないと感じました。学生フォーラムである以上，一方的な知識の習得だけでなく，それぞれのバックグラウンドから来る多様な質疑，ディスカッションがより重要になると思います。また，専門分野とは異なる学生も理解できるように，内容を砕いて説明してもらえればより面白い議論に繋がると思います。

## エクスカーション

ロシアの文化や歴史を知るという意味で良い経験になりました。ただ，施設を回る時に，日本人とロシア人が分けられることが多く（説明時に使用する言語の違いが理由だと思いますが），本来の目的である日露学生の交流があまり出来ていなかったと感じました。また，観光地も良いですが，例えばロシアにある日本企業や大使館等を伺うエクスカーションがあれば，今後の関係にも繋がる良い機会になると思いました。

## エキシビションツアー

モスクワ大学内の博物館や植物園などは非常に面白く，勉強にもなりました。大学内にあの規模の施設が存在していることには驚きました。また，エクスカーションと同様に，日本人とロシア人が分かれて案内することもあったので，それぞれの学生が混じった小グループ等を作っても良いのではと思いました。

## グループワーク

ロシア渡航前は，このグループワークが学生フォーラムの中心イベントであると思っていましたが，実際にはあまり時間が割かれておらず，深い内容まで議論することは出来ませんでした。可能であれば，事前に日本側とロシア側のグループメンバーを共有し，テーマや役割分担を決めておくことが重要かと思いました。

## ロシア人学生との交流

講義やグループワーク以外にも空港での送迎や入寮時，食事など多くのタイミングでロシア人学生と交流する機会がありました。自分の大学では，ロシア人学生と会う機会は少なかったため，交流前は少し緊張していましたが，明るく，優しい人が多く，話をしていて楽しかったです。特に，ボランティアで参加したロシア人学生には多くの場面で手助けをしてもらい，非常に感謝しています。

## 全体を通して

約1週間という日程の中，休む暇もない非常にタイトなスケジュールのお陰で，有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。日本側の参加者は，ロシア語やロシア文学を専攻している学生が多く，工学専攻でロシアの知識も少ない自分が参加していいのか，と思うこともありましたが，学生交流やグループワークでは自分の意見を伝えたり，周囲から学びを得ることが出来たので少し安心しました。上にも書きましたが，フォーラム中，様々な場面でロシア人ボランティアの学生が案内や通訳，補助を行なってくれたお陰で，滞ることなく全行程を終えることが出来たと思います。また，日露学生フォーラムである以上，学生が主体となって開催していくことも重要ですが，今回は引率の先生方に非常にお世話になりました。今後，学生フォーラムを実施していく上で，学生同士の情報共有や早めの準備が重要になってくると思います。自分も，数少ない九州支部の一員として，まずは学内での広報や学生連盟参加者の引き継ぎ等を継続的に行なっていきたいと思います。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

近畿大学 国際学部 国際学科 4年　尾崎 史歩

## 事前オリエンテーション

フォーラムについて事前に説明があった。資料は事前に配られていたが，モットーなど見落としがちなところも目を通せるような構成になっており，よかったと思う反面，運営側も理解していない部分が多いように感じた。LIVEで質疑応答等できるのはいいことなので次回のフォーラムではクリアに説明すべきだと思う。

## 講　義

発展専門的な講義テーマが多く，個人的には興味を持てなかった。しかし，鳩山先生が講義内でおっしゃった「ロシア人は創造やアイデア出しを得意とし，日本人は課題認識やマネジメントを得意とする」という性質がグループワークを通してすごくよくわかった。お互いの長所を伸ばし合えるようになればいいと思う。

## エクスカーション

初めてのクレムリンなどの有名建造物に感動した。ただ，観て終わりというだけでなく，ガイドさんがいたため，歴史的背景を知ることができて，ロシアに対してより興味が湧いた。一つ後悔していることは，自分で予習してから行けばもう少し楽しめたのかなと思う。

## エキシビションツアー

モスクワ大学の貴重な場所に連れてってもらい，モスクワ大学の歴史はもちろん，講義内で紹介のあったモスクワ大学が得意とする研究分野の様々な研究資料まで見学できた。研究分野自体には詳しくないものの，日本に住んでいるからこそ身近に感じるプレートの絵や鉱産物のサンプル，溶岩など興味深いものがたくさんあった。

## グループワーク

事前に割り振られたグループ内で体調不良が出てしまい，別のグループに参加した。割り振りを考えたのは自分だが，次回のフォーラムではこのような事態にも対応できるように各国側から最低3人ずつのグループで組むべきだと思った。

Group10でLawについて話し合ったが，Webのコンテンツを作成するにも難しい内容であった。その分，協力して取り組めたように思う。

## ロシア人学生との交流

今回，参加者の他にもボランティア学生とも交流する機会があり，彼らのなかには日本語が達者な学生が多くいた。今回のフォーラムでの交流では彼らの日本語の練習にもなり，わからない単語などは英語で説明したり，露英日間での単語の相違点を話したりと，私が日本語教員の養成課程を履修していたため，個人的に興味深い交流ができた。

## 全体を通して

前2回のフォーラムを通して考えてみても思い出深いフォーラムになった。2年前に参加したウラジオストクで行われた日露学生フォーラムでは，最年少だった自分がまさか学生連盟にここまでコミットするなんて考えておらず，毎回参加させていただくたびに自分自身の課題を突きつけられるが，今回も新たに課題が見えた。色々な面での自分の無力さを痛感したフォーラムだった。

約二年間ずっと参加してきたにも関わらず，私には動かすことのできなかった連盟が2年かけてモスクワで今やっと動き出し，この先もずっと続いて，日露間の協力，それ以前に友好が深まってくれることを願っている。

今回のフォーラムが成功したのは参加者のみなさんもそうですが，他でもない坂口くんと北大とモスクワ大学の運営メンバー，鈴木さん，小黒さん，青木さん，様々な面からサポートしてくださった先生方のおかげです。ありがとうございました。

次の新潟フォーラムも成功させてください！

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

上智大学 外国語学部 ロシア語学科　鈴木 大己

## 事前オリエンテーション

オンラインでのオリエンテーションを行った。各々の参加可能日に合わせた二回開催されていたため，渡航前の不安や質問を解決できる良い場となっていたと感じる。ただ，オリエンテーションで話されたことと同じような内容の資料を事前にもらっていたため，必ずしも必要だとは感じなかった。

## 講　義

経済学から工学，医学まで幅広い分野での講義が行われた。ほとんどが英語で専門的な内容であったため，普段から英語を聞きことに慣れていない学生にとってはすべてを聞き取ること，また理解するのは難しかったと感じた。ただ，イグノーベル賞を受賞した研究の講義であったり，その分野の最先端を行く教授達による大変興味深い講義であったため，一講義当たりの時間は長かったが，有意義なものとなった。場所によってはスライドが見え辛かったため手元の資料があればよかったと感じる。

## エクスカーション

クレムリンから，モスクワ大学内の博物館や植物園まで様々な場所を訪れた。クレムリン内部での教会では，壁中にイコンが描かれておりロシア正教独特の荘厳さと美しさを感じた。モスクワ大学内の地質博物館や植物園はガイドの解説があり非常に分かり易かった。地質博物館には普通の博物館では見られないような珍しい石がたくさん展示されており，このようなものが自然に生成されたのかと思うと感動した。植物園には地球の様々な地域の植物が育てられており，ロシアの寒い環境の中で良く管理されているなと感じた。途中に紙の原料になる木がありそこに落ちていた木の皮にペンで「にち～ろ」と書いたのは良い思い出である。総じてエクスカーションでは旅行や留学しただけでは訪れられない場所に行くことができ，大変満足している。

## エキシビションツアー

カローメンスコエは世界遺産ということで，やはり正教会の荘厳さを見ることができた。日本人学生とロシア人学生分かれての案内だったことは少し残念だったが，様々な武器や遺物を見学でき，それが造られた時代背景なども説明があり，大変分かり易いものだった。

## グループワーク

事前にテーマごとに分けられた10のグループによるロシア人とのディスカッションで，私のグループは言語学をテーマに話し合った。具体的なテーマとしては「日本語，ロシア語の学習者を増やし，促進させる方法」についてであった。ディスカッションの時間はとても限られていたが，その中で有意義な話し合いを進めることができた。ディスカッション以外にもグループで工作をする時間がありその中でお互いのことをよく知ることができた。ロシア人は案出しがとてもうまいと感じた。

## ロシア人学生との交流

全体的に少なかったように感じる。自らのコミュニケーション能力の問題ではあると思うが，もっと早い段階から積極的にロシア人と話せたらよかったなと思った。後半にかけてはロシア人とも話すことが増えたが，日本人同士，ロシア人同士で固まっていたことが多かったかなと感じた。ただ，フォーラムが終わってSNSを交換するくらいには仲良くなることができた。

## 全体を通して

総じて，知的な刺激が多い充実した一週間であった。このフォーラムの最大の利点としては，参加者をロシア語学習者に限定せず，文型理系問わない様々な学部から集めた点だと考える。このことにより，ロシアを様々な面から考えることができ，今まで自分が知り合うことのなかったようなロシア人学生とも出会うことができ，様々な知識を包括的に得ることが出来た。

また，モスクワ大学からは毎日たくさんの優秀な日本語通訳の方が参加してくれ，自らのロシア語の勉強の励みにもなった。さらに毎日様々なロシア料理が提供され，食事に関してもとても満足であった。モスクワ大学の寮に関しては，決して広くはなかったが一週間過ごす場所としては申し分なかったが，シャワーが壊れていたり，暖房が一切つかなかったりと，ロシアらしさが垣間見えた。一週間体調を崩すことなくすべてのプログラムに参加できたことは本当に幸運だった。今後は2021年の新潟でのフォーラムに向けた準備をまずは引継ぎから進めていきたい。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

新潟大学 経済学部/経済学科 4年　菅原 大輔

## 事前オリエンテーション

Zoomを用いる事で全国から参加者がいるようなケースにも対応する事が出来，非常に利便性が高いツールであると感じた。このオリエンテーション時，スケジュールが未確定であった事に関しては非常に不安が残った。

## 講　義

専門用語を多く使用した講義に関しては，あまり理解できなかったため，同時通訳を課すか講義で使用する専門用語表の配布が必要であると強く感じた。

## エクスカーション

モスクワの代表的な名所をガイドつきで回れたため，非常に満足度は高かった。次回以降もガイドつきのエクスカーションを継続してもらいたい。

## エキシビションツアー

モスクワ大の博物館の展示品は一般客は見ることができないものだったので，非常に貴重な経験させてもらったと感じた。モスク大の歴史の他に，ロシアの歴史，文化についての説明もあり，興味深かった。

## グループワーク

グループワークの際，通訳がいたことで議論が円滑にすすんだのは非常に良かった。ただ，議論のトピックがフォーラム参加直前に決まったこともあり，あまり具体的な準備ができなかったのは残念であった。

## ロシア人学生との交流

アイスブレイクとフリーコミュニケーションの回数を増やせば，もっと多くのロシア人学生を交流できたと思う。

## 全体を通して

フォーラム参加前は，日露学生連盟についてほとんど理解していなかったが，フォーラムに参加したことで連盟について理解することができた。また，フォーラムに参加したことで，大学卒業までの間，時間が許す限り，次回フォーラムに開催に向けた準備に貢献していきたいと思った。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

新潟大学 農学部 農学科 2年　渡邊 匠海

## 事前オリエンテーション

時期は適切だと思います。

今後電話会議が事前に複数回行われればわざわざオリエンテーションという名目で行う必要はないのかもしれません。質問事項に関してはメールなのでもよいかもしれません。

## 講　義

時間は少々長く感じ内容もかなり専門的なものであったが，大学の教授たちの研究活動についての発表を聞くことは貴重な機会なので続けるべきだと思った。専門用語については資料を配るなど工夫を行うことでより良いものが期待できる。

## エクスカーション

内容は十分すぎるくらいだと感じた。夜はフリーにして交通渋滞から逃れるなど対応は可能。ただし土地勘のない人もいるので工夫が必要。

## エキシビションツアー

満足。特に改善点はなし。

## グループワーク

各グループで認識が一致していればもっと良いものになると感じた。改善していけば今後に期待が持てそう。

## ロシア人学生との交流

日本語を話せる学生も多く交流できたと思う。日本人同士で事前にコミュニケーションがとれていればもっとスムーズに交流できたと感じた。

## 全体を通して

今回は準備まで時間が少なかったにもかかわらずできたことはかなり多いと思う。改善点をしっかり見直し次回フォーラムの成功に向けていけたらいいと思う。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

神戸学院大学 経済学部 経済学科 3年　鷺森 瑞穂

## 事前オリエンテーション

スケジュールが事前にある程度わかっていたので，準備がしやすかった。また，どんな学生や先生が参加するかが事前に分かっていたので，空港であった時仲良くなりやすかったと思う。いい試みだったので次回以降も継続して欲しい。

## 講　義

興味深いものが多かったが，中には専門分野外すぎてわからないものもあった。また，連日の講義続きで疲れている人も多かったのではないかと思う。しかし，交通や微生物など普段なら絶対勉強しないであろう分野の発表を聞いて興味が出てきたものもあったので，新しいものとの発見という意味ではとても充実した，貴重な機会だった。

## エクスカーション

地元のガイドの方のお話を聞きながら案内してもらえる機会はありがたかった。ロシアの歴史について前提知識ほとんどなしで行ったが，この試みのおかげで色々知ることができ有意義だった。

## エキシビションツアー

モスクワ大学のさまざまな場所を学生や専門の方のガイド付きで見れて勉強になった。学生でも知らないことがあったりして，それを話しながら仲良くなれたこともあったのでこの試みは，友好関係を築くという意味でも貴重だと思う。

## グループワーク

グループ解散というハプニングはあったが，新しいグループでもロシア人の方が快く迎えてくれてありがたかった。ロシア人の考え方，日本人の考え方が一緒に作業をすることによって顕著に現れたので面白かった。このような共同作業は自然と仲良くなるし，また色々な発見があるので今後も続けて欲しい。

## ロシア人学生との交流

いつもロシア人の方がついてきていたので，話す機会や交流する機会が多かったのはとても良かったと思う。ただ，いつもいるロシア人が少なく，人の入れ代わりが激しいと思った。

## 全体を通して

とてもためになったフォーラムだった。運営側の学生の人たちがとても頑張ってくれていてありがたかった。ここでできた新たな繋がりも大切にしていきたいし，自分の至らなかった点も残りの学生生活やこれからの人生で解消していきたい。ロシアという国に特別な思い入れもなく参加したフォーラムだったが，1週間，ロシアの学生や人々，ロシアに興味のある日本の学生や先生がたとお話することで，自分自身にもロシアへの興味が出てきたことも収穫の一つだったと思う。この貴重な経験をさせてくれた恩返しとして，次の世代へとしっかりと引き継ぎをして，このフォーラムを出来るだけ長く続けていって欲しいと思う。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

神戸市外国語大学 外国語学部 ロシア学科 4年　久保 葵

## 事前オリエンテーション

開催された時期, 時間, 内容も適切だったと思う。オリエンテーション前に接続テストも行われていたので, 当日トラブルもなくスムーズにできていてよかったと思う。

## 講　義

ほぼ毎日あったがもう少し少ない回数でも良かったと思う。また行うにしても参加者の専門領域, 興味などを考慮したうえで内容を組むべきだと思う。

## エクスカーション

クレムリン内部には入れたのはとても嬉しかった。ただ, そのあとに講義があり, 早く帰る必要があり, ゆっくり歩いてみて回ることができなかったのが残念だ。

## エキシビションツアー

モスクワ大学の歴史, 所蔵している貴重な資料などを見ることができてよかった。

## グループワーク

時間, 回数共に少なかった。また, 日本人はみな参加していたが, ロシア人の学生は来なかったりまちまちであまり深い交流はできなかった。

## ロシア人学生との交流

グループワーク以外に食堂で食事をする際も交流できたが, 全体を通して交流を深める機会はあまりなかったと思う。

## 全体を通して

二回目ということもあり, まだうまく組織化できてないところもありましたが, 貴重な体験ができました。ありがとうございました。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

神戸市外国語大学 ロシア学科 3年 (モスクワ大学留学中)　柴垣 愛梨

## 事前オリエンテーション

私は, 事前オリエンテーションあたりにモスクワに到着し, 慌ただしかったので, 他の参加者とは別日程を組んで, 既にレコードされたビデオを視聴した。事前オリエンテーションの段階では, まだ詳しいことは決まっていないようだったが, 岡部先生をはじめロシアに詳しい方々がついてくださっていたので, 特にこれといって深刻な不安はなかった。

## 講　義

数々の講義を受けたが, 中でも印象に残っているのは, 生命に関する講義と道上先生の研究の話。生命に関する講義では, 若返りや老化を阻止する技術に関する講義で, 以前より抱いていた「ねずみやぞうは心拍数が違い, また寿命の長さも違い。心拍数は寿命に関係があるのか」との質問をする絶好の機会だと思ったので, 講義の後に個人的に質問に行った。他のロシア人参加者も4人ほど質問に来ていた。また道上先生の講義は, ロシアに住んでいるものとして共感できることの多い,「ロシアの住居」に関する内容だった。「この建物もあの建物も, ソ連時代に建てられたもの」と気づくことのできるヒントがたくさん詰め込まれた講義だった。

## エクスカーション

エクスカージョンの運営はあまりスムーズなものではなかった。到着地点に着くまでに街中を何度も同じところを歩いたり, さらに道が封鎖されていてなかなかたどり着けなかったり, バスが時間通りに来なかったりした。ただ, エクスカージョンの内容自体は大変興味深いもので, クレムリンの中をガイドさん付きで散策できたり, モスクワ大学の博物館を巡ったりした。だが1つ, エクスカージョンの際に, 言語の問題ゆえなのだろうが, 日本人とロシア人を完全に分けてしまった回数が多かったのは, 交流の観点からもったいないと感じた。

## グループワーク

グループワークの際にボランティアとして数名のロシア人が感じてくれたのだが, 彼らには感謝しかない。彼らはボランティアという役割であるはずなのに, とてもスムーズにディスカッションを進めようとしてくれたり, 議論したものを持ち帰ってまとめてくれたりして, その働きぶりは眼を見張るものであった。しかし, 個人的に想定していたディスカッションの時間よりも大幅に少ないものであったため, そこが不満点である。

## ロシア人学生との交流

ロシア人参加者との交流もまずまずできたが, 主に私が交流したのは, ボランティアとしてきてくれていたモスクワ大学の学生だった。彼らはあくまでもボランティアなので, 決まった時間にしか来られなかったため, なるべく彼らと一緒にご飯を食べたり時間を過ごしたりしようと努めた。彼らの大半は, 未だ個人的に連絡を取っていて, 遊んだりしている!

## 全体を通して

貴重な経験をさせていただいたなと思うのは，全体の前でプレゼン，また質疑応答をさせていただけたこと。最初は，どのような場所でどのような雰囲気でプレゼンをしたらいいのかすらまったく情報が与えられていなかったが，意を決して，自分の思っていることをありのままに伝えた。そうすると，言葉が勝手に浮かんでくるもので，自然と熱弁することができた。半ば演説みたいな雰囲気を作り上げてしまった。しかし，「私はロシアが好きだ！」ということを伝えたい一心で話していたら，聴衆であった参加学生のみんなもそれに答えるように一生懸命に聞いてくれて，臆せずにこの場を借りて意見を発表できてよかったなと思った。みんなの前でプレゼンすることがなければ，「私はこと会議でなにをなにを成し遂げたのか…」とモヤモヤを抱いてしまっていたかもしれない。

日露学生会議を通して，もっともっと，ロシアについて知っていきたい，日本とロシアの民間レベルの架け橋になりたいと思った。いま，ロシア留学中であるが，なんとかしてその方法を模索している最中である。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

神戸大学 法学研究科 博士後期課程　竹内 大樹

## 事前オリエンテーション

・ロシア旅行に際して必要最低限の情報は提供するべき
・開催時期はもう少し早いほうが望ましい

## 講　義

・専門分野の偏りが大きすぎる；理系偏重
・そもそも割り当て時間が多すぎる。学生交流やディスカッションがメインであるはずでは？

## エクスカーション

・妥当であった。

## エキシビションツアー

・妥当であった。

## グループワーク

・時間が少なすぎる。全てかき集めても2時間足らずというのは，いくらなんでも短すぎるのでは？

## ロシア人学生との交流

・南部連邦大学等々，他地域から参加者として来ている学生とはそこそこ交流できたが，モスクワ大学からの参加者またはボランディアとは，あまり交流できなかった。

## 全体を通して

・次回はディスカッションの時間を増やしたほうがいいと思います。何が目的なのか？が不明になるので。講義の比重を増やすなら学会か研究会という名目でいい気がします。あえて学生フォーラムという形態をとる理由をもう少し考える必要があったのでは。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

早稲田大学 文学部 文学科 3年　北村 翼

## 事前オリエンテーション

事前オリエンテーションではフォーラムの概要について先生方が話してくださったので，疑問点についてある程度不安を解消することができた。ロシアでは想定外が当たり前と話されていたのが印象的であった。振り返ってみると，確かに事前オリエンテーションで説明された通りに進んだわけではなかったが，説明を基に準備を進めることができたのであってよかったと思う。

## 講　義

日露両国の先生方が様々な講義を用意してくださったので学際的な学びをすることができた。普段触れることのない自然科学に関する講義がほとんどだったので，視野を広げることができた。今後はロシア語学習者の一人として自分の専門だけではなく，ほかの分野でロシアとの協力の余地がある分野にも目を向けていきたいと思った。

## エクスカーション

エクスカーションで一番印象に残ったのは，金曜日に訪れた帝政ロシア時代の教会である。モスクワはソ連時代に建設された建造物が多く，ソ連の街という印象が強かったが，帝政ロシアの教会を訪れたことによりまた別の側面を知ることができた。英語での解説もしてくださったので帝政ロシアや正教について理解を深めることができた。その他のエクスカーションも自分の知見を深められるようなものばかりであった。

## エキシビションツアー

エキシビションツアーでは，モスクワ大学のアジア・アフリカ学部を訪れた。日本語学科の教員の方が案内してくださったが，案内は全て流暢な日本語で行われ，日本語学科の卒業生は政界や経済界で活躍していると述べられていた。日本語学科の学生たちは通訳も行っていたが，そのレベルの高さに驚かされた。また，別日ではあるが，ロシアのオリンピック選手のお話を聴くという機会を得，日常生活からスポーツ論に至るまで様々な話を拝聴することができた。そのストイックな姿勢はさすがオリンピック選手と感じさせられるものがあった。

## グループワーク

私はCultureのグループに配属された。グループのメンバーは日本人が４人でロシア人が2人であった。英語でディスカッションをした経験がほとんどなかったので最初は緊張したが，全員同年代ということもあり，すぐに打ち解けた雰囲気で行うことができた。日露両国の文化理解に関して齟齬があるという意見が多かったので，それを解消するためにウェブサイトを作成することを提案するという結論に至った。ウェブサイトに掲載するコンテンツについて意見を出し合い，話し合ったことをパワポにまとめ，発表の準備を行った。

## ロシア人学生との交流

今回，ロシア人学生と交流する機会は，ディスカッションと食事，エクスカーションの時にあった。特に印象に残ったのはディスカッションの時であった。同じグループでディスカッションしたロシア人メンバーは流暢な英語を話し，日本語もある程度話せるような人たちだった。また，企画力も高く，ディスカッションをスムーズに進めていた。しかし，独断でディスカッションを進めることもなく，意見をきちんと聞き入れてくれた。私は圧倒されるばかりだったが，ディスカッションをよりよいものにすべく積極的に意見を伝えることを意識した。やはり，外国人とディスカッションを行うときは積極的に意見を伝えることが大切であると学ぶことができた。

## 全体を通して

私は日露学生フォーラムに参加した一人として，得た知見や学びを今後の学習・研究に活かしていきたい。そのためにも，今回参加して気づいた日露双方の強みや弱みを周りの友人などに積極的伝えていきたいと思う。私自身はロシアに関する学科にいるので，ロシアを遠くに感じたことはなかったが，組織的なレベルでの日露間交流はまだまだ盛んではないと感じた。ビザや領土などの問題は存在すれど，お互いに興味を持つ人々が増えればそういった問題は解決に近づくと思う。今回のフォーラムで提案された，日露共同でウェブサイトを作るというのは両国に興味を持つ人々を増やすことにも有効であると思った。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

筑波大学 人文・文化学群文学類 3年　石川 織羽

## 事前オリエンテーション

事前オリエンテーションの段階では日本にいたため，日本から会議に参加した。接続上のトラブルなどがあったが，おおむね良好に会議に参加することができた。現地参加者の集合場所などが人によってまちまちであったりしたので，統一して動けると分かりやすかったと思われる。

## 講　義

様々な分野の研究者の講義を聴くことができ，とても興味深かった。自然科学分野や社会科学分野，さらに日本とロシアのつながりや交流に関しての講義などは普段なかなか聴くことができないため，とても貴重な経験となった。

## エクスカーション

モスクワの歴史的な地区のエクスカーションがとても素晴らしかった。コローメンスコエ地区では，自然と歴史的建造物の両方を堪能することができ，素晴らしい体験ができた。また，ザリャージエ公園では，モスクワの夜景も見ることができた。

## エキシビションツアー

モスクワ国立大学の自然博物館や，大学の歴史の博物館を見た。自然博物館では少し駆け足になってしまったが，多くの鉱物や化石を見ることができた。小規模ながらとても説明の多い火山コーナーなどから，博物館や美術館の公共教育施設の充実に力を入れるロシアの方針をうかがい知ることができた。

## グループワーク

グループワークでは，やはり日本側とロシア側で伝えたいことや方向性が異なっていたため，それらをすり合わせようとするところから始めると時間が足りなくなってしまい，どちらかが折れるような形で進めざるを得なかったと感じた。また，webサイトを作成するという縛りがディスカッションをさらに難しくしているとも感じた。しかし，ボランティアの方が指針を示して下さったり，ひとつの話題を皆で掘り下げたりして一つの答えを導くことができたので，有意義なグループワークになったと思う。

## ロシア人学生との交流

食事をとるときなど，ロシア人学生と混ざって座って話すことができた。日本語ができる学生とは日本語で話したり，そうでない学生とはロシア語と英語で話すなどして，とても勉強になった。自分は日本人の中でもかなりシャイなほうだと考えている。そのせいだとは言わないが，あまり積極的に交流を持とうとしなかったとふりかえって思う。これからモスクワでの滞在中，この反省を生かして様々な人とかかわっていけたらいいと思う。やはり日本の漢字や名前に込められた意味が面白いらしく，それらを日本人学生に聞き集めている学生の姿が印象的だった。

## 全体を通して

今回の学生フォーラムでは，様々な活動を通して自分の内面を見つめ直させる機会がとても多かったと感じた。自分には話したい事は多少はあるが，それを伝えられる英語力，ロシア語力，つまりツールが足りていないと痛感させられた。これは訓練次第でどうにかできることなので，留学中はやはり言語の訓練に割いていきたいと思う。また，私は他人や起こっている事象に対する興味が非常に薄いと感じられた。これが欠如していると外への接点は急速に減っていく。そのため，主体的に興味のあることは調べるなど行動を起こしていこうと思った。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

筑波大学 人文・文化学群 人文学類 2年　中島ももか

## 事前オリエンテーション

事前オリエンテーションの先生方のいる回に参加できなかったため，後日録音したものを見ました。音声のみのものを一回聞いただけだったため，少し理解するのに時間がかかるものもありました。

## 講　義

自分の勉強不足で所々理解しにくい部分がありました。また，生物学などの分野で専門的な話になると基礎知識自体の理解が私には難しく感じられたので，資料があると理解が進む気がしました。

## エクスカーション

ロシアの歴史ある建築物を直で見学し，ガイドの方の説明を聞くことでロシアの文化に対する理解が深まった気がします。

## エキシビションツアー

フォーラムの日程表をなくしてしまったため，何がエキシビションツアーを指すのか分からないです。すいません。

## グループワーク

あまり話し合いに参加できず，自分の意見を述べることが出来ませんでした。グループとしてはとてもまとまっていて，スムーズに話し合いを行えていたと思います。

## ロシア人学生との交流

語学力が十分でないことと，自身の消極的な性格もあり，あまり交流することが出来ませんでした。また全体でも日本人とロシア人それぞれがまとまって行動しているような印象をうけました。

## 全体を通して

フォーラム参加者の末端の方までフォーラムに対する理解や意識付けが出来ていないように思いました。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

長崎大学 医歯薬学総合研究科 修士2年　吉松 直樹

## 事前オリエンテーション

Zoomといったツールを使用してのオリエンテーションは初めてであったが，今回のフォーラムのように全国からの参加者がいる場合には，非常に効果的なツールではないかと感じた。オリエンテーションは録画での参加であったため，映像を見ることができなかったのは残念であったが，事前のオリエンテーションがあったことで，全体の流れをおおまかに把握することができた。

## 講　義

専門的な内容となると，理解が難しいものもあったが，普段は勉強する機会がない分野を行っている研究に沿って知ることができたのはとてもよかった。ロシアのオリンピック選手の方々の話もまた，普段では聞くことができない非常に貴重なものであった。

## エクスカーション

KremlinやKolomenskoyeといった美しく，歴史ある場所，建物を見ることができたのは感動的な経験であった。説明書きはロシア語のものが多かったため，ガイドが同行してくれたことで，詳しく知ることができた。

## エキシビションツアー

まず大学のキャンパス自体に驚かされた。インターネット等の画像では見たことがあったが，実際に見てみると，その壮大さには圧倒されるものがあった。大学内の博物館を見学する際に，ロシアの学生が日本語の翻訳を懸命に行っていたことは印象的であった。エキシビションツアーでは，モスクワ大学の歴史に加え，ロシアの歴史や文化についても知ることができたのがよかった。

## グループワーク

フォーラムのメインの部分であり，ロシアの学生と多くのディスカッションができるということで，とても楽しみにしていたセッションであった。私はMedicineのグループで，グループには医師を目指している学生も数人いた。私自身は一度看護師として働いているため，現場を知っているが，まだ現場を経験していない学生からの意見を聞くのは新鮮であり，またロシアの医療事情についても知ることができたのはとてもよかった。限られた時間ではあったが，ディスカッションを重ねていくに連れて，互いの距離感は近くなったと思うし，非常に有意義な時間となった。今後もグループワークについては継続してほしいと考える。

## ロシア人学生との交流

ロシア人学生と交流するのは，初めてのことではなかったが，今回のフォーラムでは日本に興味を持ち，また日本語も話すことができる学生が多くいたことには驚いた。エクスカーションに行った際，ロシアの学生は建造物の名前や歴史について詳しく知っているという印象を受けた。相手の国について知ることはもちろん重要であるが，自分の国について知っておくことも重要であると感じた。連絡先を交換した学生もいるので，継続的に連絡を取り，親交をより深めたいと思う。

## 全体を通して

今回のフォーラムの中で，多くの講義を聞く機会があったが，その中でよく話題となったが，若い世代の交流の重要性である。ロシアに関する情報は，普段なかなか触れる機会がないものであり，また情報を得ようとしても，多くのものを得ることができないという状況ではないだろうか。そのためステレオタイプ的な考えが流布することになると思われるが，私たちのような若い世代が，実際にロシアに行って自分の目で見て，また現地の学生と交流し，直接知ることというのは，ステレオタイプ的な考えを打破する最も有効な手段であると考える。今回のような日露学生フォーラムは，まさにそういった機会を提供してくれるものであった。私たちが今後すべきことは，今回で終わらせるのではなく，次の世代に引き継ぎ，日露間の交流を継続し，より強くしていくことだと思う。まだまだ両国の交流は始まったばかりともいえるが，日本とロシアのかけ橋となることができるよう，微力ながらも尽力したいと考えている。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東海大学 教養学部 国際学科 4年　岡田 拓海

## 事前オリエンテーション

基本情報の概要と各大学の生徒が一回でできる合理的なオリエンテーションだと思った。接続テストとオリエンテーションの当日と二日間時間を開けるのがむずしかったため，できれば1日でして欲しかった。

## 講　義

長く時間を取られすぎたと思う。講義は良いのだが，学生同士の時間に充てて欲しかったと思う。

## エクスカーション

エクスカーション先は有名どころが多く，それを見学できただけでも価値はあった。基本的に通訳もついていたし，深く知れてよかったと思えた。

## エキシビションツアー

貴重な展示品（化石や岩石など）を見る機会になったのがよかった。細いところまで見せてくれたので興味を持てる内容になったと思う。

## グループワーク

ロシア人学生と交流できる良い機会になった。ただ，議題の共有が完全にできていなかったため，どこまで本気で話せたかどうかは微妙だった。最後にプレゼンでまとめたが，理想ベースの話だったためどこまで自分たちが行動に移すかを考えた提案をすべきだったと反省。

## ロシア人学生との交流

交流時間は基本的に移動時間と食事の時間がほとんどだった。もう少しディスカッションの時間があってもよかったと思う。その方が議論を深めた話し合いができて達成感があったと思う。

## 全体を通して

基本的に講義が多く，学生同士で話せる時間が少ないことが残念だった。個人的には大学外の時間も欲しいと思った。具体的に日露に関わるビジネスの現場なども見れた方が自分たちが帰国後どのように動けるかのヒントになったと思う。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東海大学 教養学部 国際学科 3年　高橋 真央

## 事前オリエンテーション

事前オリエンテーションは出発の一ヶ月前に日露学生フォーラムについての説明かつ，関係者との顔合わせとして行われた。このフォーラムの趣旨や目標などを教授によって報告されたためわかりやすかった。しかし，参加者同士の自己紹介などは行われなかったため，当日の成田空港まで他の日本側の参加者の顔や情報を知ることができなかったのが残念だった。事前オリエンテーションで軽く自己紹介ができたらなお良かったのではないかと考える。

## 講　義

講義は1日につき2講義行われてとても濃密な時間だった。各分野の先生が自身が専門的に行なっている研究に基づく発表をしていたためどれも新鮮でとても興味深かった。一方で，テクノロジーの分野を専門としている教授が多いように感じた。私も含め日本側の生徒の多くが国際学や言語学などを専攻しているためそのような分野の講義も受けれたらより良いのではないかと感じた。

## エクスカーション

エクスカーションとして取られていた時間は長く，ロシア側の参加者と何気ない会話ができる重要な時間だった。大学内の説明などには日本語を学んでいる生徒が通訳してくれたのだが，専門分野に関わる難しい内容だとは思うがところどころ通訳された日本語の意味がわからず困った。英語での説明や資料を配布してくれたら理解度が高まったのではないかと考える。

## エキシビションツアー

ロシアの歴史などをついて知ることができるとても充実した時間だった。しかし，ロシア側の参加者と日本側の参加者が通訳の関係上かもしれないが分けられてしまったため，なかなかロシア側の参加者と話すことができなかった。両参加者がおなじグループだったらより交流する時間がとれたのではないかと考える・

## グループワーク

10グループにわかれて日露学生連盟のホームページに載せる内容をロシア人側の参加者と話し合った。私たちのグループはロシアと日本の学生の交流の発展のために法律や条約がどのような役割を果たすかということについて話し合った。グループメンバーにはロシア・日本留学経験者だけではなくアメリカなどへの留学経験者もいたため私たちの実際の留学経験を比較し話し合うことでどのようなことが学にとって問題で，今後どのように改善していくことができるか話し合った。最終日に発表する必要があった為，どうしても情報をまとめることを優先的に行なってしまいデスカッション自体はもっと話せたのではないかと感じる。今回のフォーラムで1番充実した時間であったため，今後はより多くの時間をグループデスカッションとして割いても良いのではないかと感じた。

## ロシア人学生との交流

普段はあまり関係を持つことがないテクノロジーや医療を専門としている学生が多く参加しておりとても新鮮だった。一方で, 日本側に多かった, 国際学や政治学などを専攻している生徒が少なく両国側での参加者の多様性が少なかったのではないかと感じる。両国側の参加者の専門性がより多様だったらさらに良い交流になるのではないかと感じる。

## 全体を通して

とても充実した一週間だった。普段は経験できないような学長会議の見学や講義の受講はとても勉強になった。また, ロシア側の学生との交流は私たちが普段知ることのできないローカルかつリアルなロシアの姿を知るとても良い機会だった。しかし, 日露学生連盟の趣旨や目的はフォーラム中のプログラムを通して知ることが多く, 事前に知ることでより充実したプログラムにすることができるのではないかと強く感じた。 今後の日露関係の発展にむけこのような学生同士の交流は学生だからこそできることが沢山あり, 熱意に満ち溢れた学生達なら今後の日露関係の強化につながるような活動にできるのではないかと強く感じた。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東京外国語大学 国際社会学部 3年　栗栖 朝帆

## 事前オリエンテーション

Zoomアプリに慣れておらず，事務局の方々にご迷惑をおかけしました。会議時間を合わせるのが難しいため，オリエンテーションも動画配信のような形式に変えても良いかと思います(坂口さんのウェブサイト作成の経緯の説明のように)。

## 講　義

モスクワ大学での講義を聴く貴重な機会をいただけたと思っております。

特に興味深かった講義は2日目の科学フォーラムの人文分野の講義でした。日本人の教授によるロシア(またはソ連)についての講義，ロシア人の教授による日本の地域研究の講義(少子古冷夏などの社会問題や日本の哲学・思想を研究していらっしゃる教授などがいました)を聴いたことが新鮮でした。地域研究を行う場合，該当地域に住む人々とのコミュニケーションや視点は互いに不可欠なものであることを認識させられました。

その他に刺激となったのがアジア・アフリカ研究所の教授による大学の紹介でしたが，学生のレベルの高さと言語教育の手厚さに驚きました。レクチャーも受けてみたかったです。

科学技術の講義は，理解することが難しいものもありました。

ですが，ロシアが力を入れている最新の分野について知ることができました。

## エクスカーション

コーロンメンスコエなどにも行けて面白かったです。

## エキシビションツアー

モスクワ大学内に博物館や植物園を見学しました。特に，生物学(ノアの箱舟計画など)に実際に使われている施設を見ることができ講義の内容の理解が深まりました。

## グループワーク

全体のプログラムの中でディスカッションに充てられた時間が少なかったような気がします。

参加者が何をしなければいけないのか(プレゼンの内容や，ディスカッションのゴールなど)がグループワークが始まるまで共有されていなかったため準備ができませんでした。

具体的な議題，事前の議題とディスカッションの目標が定められていたらもっと内容の濃いディスカッションを各班ができたのでは，と思います。また，通訳の方を班に組んでくださったのは助かりましたが，いなくても頑張れると思います。

## ロシア人学生との交流

個人的にはもっと積極的な交流をするべきだったと反省しております。全体的に日本人の学生同士，ロシア人の学生同士で交流しがちだった印象です。

面白かったことは，同じロシアでも全国からの学生が集まったため様々な背景を持つ学生の話を聞けたことです。ロシアだけではなくカザフスタン，ウズベキスタンなどの方と交流をしたことにより，各国，地域につてより興味を持つことができたと思います。

## 全体を通して

日本，ロシアの様々な学生より刺激を受けることができ，帰国後の自身の学習の励みとなっております。外語大では自身と似た興味関心を持つ学生と接することが多いですが，フォーラムでは全く違く学部や研究に取り組んでいる方々と接することができたので，視野が広まったように感じます。

学生生活の中でロシア語を何故勉強しているのか，と考えることは多々ありますが，フォーラムを通して語学や経験を活かせる進路が沢山見えてきました。

日露学生連盟という組織の説明を受けずにフォーラムに参加をしたため，フォーラムの役割の大きさを知りあまり連盟に貢献することができなかったと個人的に感じております。次回のフォーラムで外語大の参加枠がいただけるかはわかりませんが，引継ぎをしっかり行いたいと思います。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東海大学 工学部 航空宇宙学科 航空操縦学専攻　小松 知広

## 事前オリエンテーション

前回のフォーラムそれにおいて発生した予想外の事態や，それに対する心構え等がアナウンスされた。比較的短時間ではあったがまとめられて情報共有されており，有意義な時間となった。

## 講　義

日常生活において聞く機会が無いような方々の努力の結果を聞くいい機会となった。しかし長引いた結果ディスカッションの時間が削られるという現象が起こったためこれは要改善すべきと考える。

## エクスカーション

日本語を学ぶ学生が通訳として，ボランティアで参加してくれていたことは感謝してもしきれないくらいだった。あまり数が多くなかったため，次回からは多数の要望により増えると考えられる。

## エキシビションツアー

主に博物館等の貴重な場所を見て回った事であるが，ここでも日本語通訳を出来る生徒が尽力してくれたことが一番大きなことだったと思われる。モスクワ大学が保有する貴重な展示物を数多く見て回れたため有意義な時間と考える。

## グループワーク

時間が少ないと言うのが直感的な所ではあるが，自身のグループは夜一緒に出掛けたりも出来るほど仲を深めることが出来たため，これは成功では無いかと考える。ただしグループワークの何がゴールで結果として残すべきかは事前に断言しておくべきと思われる。

## ロシア人学生との交流

良かったと思われる。全体的にケンカも無かったためお互いにフレンドリーにやれたのではないかと見られる。しかし日本のみ，ロシアのみ，と固まってしまう局面が多々あるため，次回はグループのみで行動させる等するとより良いのではないかと考える。

## 全体を通して

交流という意味では，個々人で大きく差が出た事は否めないと感じる。しかし日露がここまで大々的に協力し合い一つの物を成せるのだという証明になったため，今回のフォーラムは成功であったと言えると考える。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東京外国語大学 言語文化学部 ロシア語学科 3年　光永 万結子

## 事前オリエンテーション

服装を統一する等の大事な連絡は事前オリエンテーション以前に連絡してほしい。

## 講　義

興味のある講義のみ希望制で受講するようにするとよいと思った。また，学生が主体でやっているので，今後このようなことがあったら，主催側から予定を変更する提案をする，もしくは参加者の意見を募る等してよいと思う。

## エクスカーション

事前に行き先をいくつか挙げ，希望をとって小規模なグループで行動した方がよいと思った。もしくは，自由時間にしてディスカッションのグループごとに行きたい場所に行けばよいと思った。

## エキシビションツアー

大学の関連施設は関係者でないと入れないので，そのような場所にガイド付きで入れたのは良い経験になった。

## グループワーク

もう少し時間を多めにとってほしかった。また，全体で共通の目標を具体的に説明し，何をすればよいか提示する必要があると感じた，それに加え，活動内容は決める必要があるが，そのあとの行動は全グループでそろえなくてもよい思う。

## ロシア人学生との交流

グループワーク以外は関わる機会があまりなかったのが残念だった。最初に全員で自己紹介する時間があってもよかったかもしれない。

## 全体を通して

今回のフォーラムを経て，日露間で課題解決のプロセスや時間に関する概念などが異なるということが分かったので，次に生かしてほしいと思った。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東京外国語大学 言語文化学部 言語文化学科 3年　川名 浩輝

## 事前オリエンテーション

直接引率の先生方の顔を拝見しつつ，どのような方針で行われるのかなどについて事前に内容を知れた事によって気持ち的に安心出来ました。また，ロシアではこういう事に気を付けるべきだという事を事前にお知らせいただいたことも良かった点の一つです。

## 講　義

個人的に内容が少し理系に傾倒しがちだった点が気になりました。また，どのような観点から講師を選んだのかも気になります。加えて，時間のオーバーが気になりました。そこのマネジメントは必要だと思います。かなりきつめのスケジュールなので。

## エクスカーション

モスクワを知る機会になって良かったと思います。時間はもう少し短くてもよいと思う時がありましたが。

## エキシビションツアー

モスクワ大学の教育設備や内容を知る良い機会になったので良かったです。

## グループワーク

ディスカッション自体は問題ありませんでしたが，時間不足感が否めません。煮詰めたかった。。。

## ロシア人学生との交流

いい機会になったと思います。今後も関係を続けていきたい。

## 全体を通して

内容の充実したフォーラムだったと思います。個人的にはグループワークの時間をもっと増やしてほしかったです。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東京外国語大学 国際社会学部 地域研究コース ロシア地域 3年　野津 ららな

## 事前オリエンテーション

Zoom会議システムを用いたオリエンテーションでは，フォーラムの意義や今回の目標，当時の段階での決定事項を共有。私は大学の教授から推薦を受け参加を決定したが活動内容を再確認し意欲をより高めることができた。また，SNSで日本側のグループチャットが作成され，連絡と情報共有が円滑に。

この後グループ分けのテーマが発表された。

## 講　義

初日は日露学長会議に，2日目は日露学会に出席。各大学の日露間プログラムについての現状報告や両国に関する研究発表を聞いた。

フォーラム中はこの他に日露双方の研究や協力についての講義があり，その分野は多岐に渡った。

特に日露関係に関する内容は参加学生の全員が関心を寄せるところであり，貴重な機会だった。神戸学院大学の岡部先生の講義ではサブカルチャーを軸にした人的交流を通じて領土問題に向き合う姿勢を学んだ。新潟大学の道上先生の講義では現代における日本企業のロシア進出が困難な理由について知ることができた。いずれも継続的支援が鍵の一つとなる。

さらに，ロシア国内の経済や研究計画についても知ることができた。モスクワ大学経済学部のラピドゥス教授はデジタル経済がロシアの新たな市場を作り出すことに言及し，政府の援助やテクノロジーと経済関係について講義していただいた。また，モスクワ大学の"Noah's　Ark"という生物学的データ収集システム構築について伺い，ロシアの膨大な基礎研究のベースと未来を感じることができた。

一方で改善点や問題点も研究者的視点で語られた。例えば，ロシア側の医療についての講義ではアンチエイジングの製品が医薬品として認可されることが難しい問題があげられた。日本側については，山本公使から日本人の日本史理解の必要性についてのお話があった。

文系・理系様々な分野から集まった学生が様々な分野・視点を吸収し質問するある意味学際的な場が生まれていたように感じられた。

## エクスカーション

クレムリンと赤の広場に面したモスクワ大学付属アジアアフリカ諸国大学に訪問した。

コローメンスコエでは公園を歩き，博物館や教会を見学した。イワン雷帝の話やロシア語の語源の話など歴史的に興味深い内容を知ることができた。

## エキシビションツアー

モスクワ大学のキャンパスは学部ごとにモスクワ市内に散在し，その一つ一つが大きい。モスクワ大学の歴史を辿る展示，世界の植物が鑑賞できる植物園，標本や鉱物が展示されているメインビルディング28階などを訪問した。

## グループワーク

社会，言語習得，文化，気候変動，科学技術，医療，経済関係，政治，法律をテーマとする９グループに分かれ議論を進め，本フォーラムの目的であるウェブサイト構築に向けたコンテンツを考案した。

私は「学生生活と若者への政府支援」というテーマを掲げた政治分野のグループに所属した。与えられたテーマは学生生活と政府支援という２つに分けて考えることができるため，アイデアを一つに絞るという最初のタスクから少々困難であった。議論を重ね，最終的に留学生活のトラブルを少なくするという一つの目的に向けて学生の私たちにできることにウェブ上のガイド製作を据え，政府の手助けが必要なことには提言するという２本柱に決定した。ガイドには諸手続きや交通機関や量販店，医療機関などを含む大学付近の環境の情報を盛り込む。一方，査証手続き簡素化や大学共通のチューター制度整備については大学や政府など機関を通して実現を図る。

このグループにはモスクワ留学中の日本の学生が２人いた。特にチューター制度への言及は実際の経験に基づくものであり，実体験を交えたディスカッションをすることができた。

ただ，グループワークの時間が限られており，納得がいくまで一つ一つの案を深く掘り下げることができなかったように思う。

## ロシア人学生との交流

私のグループには２人のロシア人学生がおり，日本人と合わせて全員で５人という少人数だったためアイスブレイクやディスカッションが容易に行えた。またディスカッションの席には通訳ボランティアとしてモスクワ大学の日本語学科の学生が２人ついてくれでいたが，彼らの意見を聞く場面もあった。

ロシア側のフォーラム参加学生のみならず，学会やエクスカージョンでモスクワ大学からのボランティアの学生と交流する機会も，必ずしも多かったとは言えないが，時折あった。

特に印象深かったのは，ロシア側参加学生の出身の多様性である。会話しているうちにロシア側参加学生はカザフスタン，ウクライナ，タタールスタン，カバルダ・バルカルなど，ロシア連邦内外でも様々な地域の出身であることが分かった。「ロシアは多民族が集まる国だ。現に，今まさにここにいるメンバーもみんな出身がバラバラだ。」という発言が心に残っている。日本との違いを強烈に感じられた。彼らもまたフォーラムや交流の存在が最終的に国家関係をよりよくするものだと考えており，人的交流の重要性を再認識した。交流の時間は多ければ多いほど良いなと思う。

## 全体を通して

講義やエクスカーションには十分な時間が割かれていた一方で，個人的にはグループワークの成果が浅いように思えた。方向性と必要な点・改善点のリストアップはできたが，その各項目について具体的な事実確認や情報収集方法の確立，ウェブサイト様式などに踏み込む時間がなかった。交流とウェブコンテンツ考案に関しては，より多くの時間を割かれることが望ましかったと言わざるを得ない。しかしプログラム全体は非常に濃く，一週間という定められた短い期間の中で日露学生連盟の活動を深く知り，関わることができたことは有意義な経験だった。参加できたことを嬉しく思う。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東京工業大学 生命理工学院 生命理工学系 ライフエンジニアリングコース 修士 1年　河野 真子

## 事前オリエンテーション

お互いの顔が見える形でビデオ通話を行った。プログラム等はこの時点でははっきりとは決まっておらず，大体の流れをこのオリエンテーションでつかんだ。質問があればここで聞くこともできる。

## 講　義

自身の専門に近いものが多かったので大変充実した時間を過ごすことができた。一方で，理系分野のものが多かったので，他の分野における講義も聞いてみたいと感じた。

## エクスカーション

主要な観光地を丁寧なガイドと共に訪れることができ，ロシアの歴史や文化に触れることができた。

## エキシビションツアー

自身では行くことができないような大学内の博物館で貴重な鉱石や歴史的な物を見学した。鉱石に関しては，かなりの数が展示されていて，知識がなくても見るだけでかなり楽しめた。

## グループワーク

Medicineグループに所属した。ロシア人学生は全員医学部生だったために，ところどころで彼らだけのまとまりになる場面もあったので，日本側も医学部生を入れるか，ロシア側の学生に多様性を持たせるかをしたほうが議論がしやすいと感じた。

## ロシア人学生との交流

お互いに英語が第一言語ではないために，コミュニケーションに関して気負わずに楽しむことができた。特に日本に興味を持った学生ばかりだったので，話題に困ることもなく，時に日本語での会話をすることもあった。

## 全体を通して

東工大にこのようなロシアとの関わりを持つ団体がないために，周りの学生の熱意に圧倒される場面が何度かあった。学生間交流が一番重要であるが，それと同時に自分が連盟に対し何ができるのか模索する必要もあると思う。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

東北大学 経済学部 3年　小池 貴之

## 事前オリエンテーション

Zoomを用いた事前オリエンテーションで，利便性は高かった。また，オリエンテーションで使う資料が事前に配布されており，準備面でも満足だった。内容としては，ロシア側から提示されている情報が未確定だったため，スケジュール等の把握に問題があった。また，このオリエンテーションでこの学生フォーラムの目的等の共有をしてほしかった。

## 講　義

講義によっては，同時通訳のシステムがあり，理解しやすい準備がされていて満足した。内容としても，興味深いものばかりだったが，自分の専門じゃない分野については専門用語等わからず，理解が難しかった。

## エクスカーション

モスクワの名所をガイド付きで巡ることができ，ロシアについての理解が深まった。また，移動についてはバス等の準備がされていたので，移動にも苦労することなく，とてもスムーズだった。

## エキシビションツアー

一般の人が入れないようなモスクワ大学所有の博物館を，通訳付きでみることができたので，非常に興味深く楽しかった。

## グループワーク

当初聞いていた話では，日露双方から3人ずつということだったが，(少なくとも自分の班では)実際には通訳の人も入れた人数で，実質そのテーマを専門にしている人は1人だけという状況だった。そのため，議論ではほぼ日本人の意見のみになってしまい，あまり日本人とロシア人がいる意味が感じられなかった。また，グループワークのテーマが学生レベルで達成できるようなものを目指しているのか，国家レベルで達成するものを想定しているのかが不明瞭で，班員の中でもそこに関して意見が割れてしまった。そのため，あらかじめグループワークで目指すべきものを共有しておいてほしかった。

## ロシア人学生との交流

グループワーク以外でも，食事やエクスカーションの際にロシア人学生との交流は十分にあったように感じた。

## 全体を通して

日露学生連盟自体がまだ若い組織であり，色々とシステム的に未整備な部分があり，それは一部の人の問題ではなく，学生連盟メンバー全員で考えるべき問題なので，今後もしっかりコンタクトをとり，学生連盟を発展させるべきだと感じた。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

北海道大学 法学部 3年　佐々木 海知

## 事前オリエンテーション

時期等は適切だったように感じるが，学生フォーラムでありながら，学生同士で話す時間が少なかったのは残念だった。

## 講　義

基調講演は興味深かったが，分量が多かった。文系の学生にとって理解が難しい内容も多く，次回フォーラムでは幅広い分野の教員方をお呼びできるようにしたい。

## エクスカーション

エクスカーション自体の回数が少なく，自由時間もなかったのが残念だった。しかし，モスクワ側が多くの準備をしてくださり，名所をガイド付きで巡れたことがとても素晴らしかった。

## エキシビションツアー

大学の歴史を学び，また豊富な財産を見ることができ，モスクワ大学を深く知る機会となった。

## グループワーク

お互いへ敬意を示し，同じ目標の下で共同作業をしたビジネスゲームが特に印象的だった。日本でフォーラムを開催する際も，ミーティングだけではなく，お互いが心を開けるようなゲームやイベントを企画できればいいと思った。

## ロシア人学生との交流

自己紹介をする時間がなかったので，お互いがすべての学生と話せたわけではなかったと思う。また，食事も残念ながら国ごとに別々の座席で摂ることが多かったため，言語の壁を感じた。しかし，最終日にかけて会話の機会が増えていったため，総合すると十分に交流できていたように感じる。

## 全体を通して

短い時間だったが，プログラムの密度が高く，充実していた。運営効率も高く，モスクワ大学関係者には深く感謝している。フォーラムがロシアで開催される際には，日本人学生がもう少し運営に協力できるようにする必要があるように感じた。

# 日露学生フォーラム2019 in モスクワ　報告書

北海道大学 文学研究科 修士 1年　五十嵐 諒子

## 事前オリエンテーション

事前オリエンテーションは，オンライン会議で行われた。引率の先生方を中心に，フォーラムのスケジュールや注意事項等を簡単に確認した。1か月前に行われたことは良い意識づけになった。次回は参加者同士の自己紹介等があるとより良いと思う。

## 講　義

様々な分野かつ，日露両国の先生方から講義を聞けたことが良かった。特に日露交流に関する講義・シンポジウムや，ロシアの実態を知ることが出来る講義が面白かった。講義を通して，引率の先生方の日露交流促進への思いも聞くことが出来て良かった。

## エクスカーション

モスクワの中心であるクレムリンを，ガイド付きで回ることが出来たことが良かった。また，MSUのアジア・アフリカ諸国大学を見学できたことがとても印象に残っている。ロシアにおける日本研究の一端を知ることが出来きて，勉強になった。

## エキシビションツアー

大学構内に，様々な分野の博物館が，点在していることに驚いた。また，その展示量の豊富さにも衝撃を受けた。観光ではもちろん，留学していてもなかなか入る機会がなさそうな場所も見学することができ，とても貴重な機会だった。

## グループワーク

グループワークを通じて，ロシア人学生と交流することが出来た。ロシア人学生と日本人学生の考え方や認識の違いを知ることが出来て面白かった。ロシア人学生，日本人学生のそれぞれの特徴も見えてきて興味深かった。

## ロシア人学生との交流

グループワークやエクスカーション，食事の時間等を通じてロシア人と交流することが出来た。今回できたつながりを大切にしたい。ただ，お互いシャイになってしまい，積極的に交流できていない部分もあったので，次の機会はもっと積極的に関わりたい。

## 全体を通して

学長会議や学会に参加したり，MSUの本館に泊まったり，MSUの様々な施設を訪問したりと，このフォーラムでしか経験できないような貴重な経験がたくさんできて良かった。実際にモスクワに行き，ロシア人学生や日本各地の学生と交流し，たくさん刺激を受けた。ロシア料理がとても美味しかった。

# 日露学生フォーラム2019報告書（ロシア）

**Summary of Student's voices**

about 2nd Russia-Japan Student forum

on September 22-28th,2019

Students of Russian universities provided feedback on the Russian-Japanese forum. Each person was personally interviewed and also provided written information:

- about general impression after forum;
- about activities during the forum: work in groups, lectures, panel sessions, business game;
- about the organization of this forum: meal, volunteers, technical support, infrastructure etc.;
- suggestions for the future forum.

## 1. GENERAL QUESTIONS about JRSU

1.1.How well do you understand the purpose of this student union?
Very well – 40%
Well – 30%
Generally – 23,33%
A little – 6,67%
Not at all – 0%

1.2.How well do you follow the structure of the student union?
Very well – 16,67%
Well – 26,67%
Generally – 46,66%
A little – 10%
Not at all – 0%

1.3.How well do you understand the activities of this union?
Very well – 33,33%
Well – 50%
Generally – 16,67%
A little – 0%
Not at all – 0%

1.4.Do you want to continue actively work on Japan-Russia Student Union?
Yes – 93,34%
No – 0%
I'm not sure – 3,33%

It’s difficult to understand right now – 3,33%

1.5.How well do you understand who the members of Japan-Russia Student union are?

Very well – 20%

Well – 30%

Generally – 33,33%

A little – 13,34%

Not at all – 3,33%

## 2. LEVEL OF SATISFACTION with participation in general

2.1.About participation in the 2nd Russia-Japan Student forum

Satisfied – 100%

Slightly satisfied – 0%

Normal – 0%

Dissatisfied – 0%

2.2.About participation in Rector’s forum

Satisfied – 70%

Slightly satisfied – 20%

Normal – 10%

Dissatisfied – 0%

2.3.About participation in the Scientific forum

Satisfied – 83,33%

Slightly satisfied – 10%

Normal – 6,67%

Dissatisfied – 0%

2.4.About work of the Organizing committee

Satisfied – 80%

Slightly satisfied – 10%

Normal – 10%

Dissatisfied – 0%

2.5.About work of the volunteers and assistants

Satisfied – 93,33%

Slightly satisfied – 6,67%

Normal – 0%

Dissatisfied – 0%

2.6.About the participation of the Japanese students

Satisfied – 90%

Slightly satisfied – 6,67%

Normal – 3,33%

Dissatisfied – 0%

2.7.About the participation of the Russian students

Satisfied – 80%

Slightly satisfied – 16,67%

Normal – 3,33%

Dissatisfied – 0%

2.8.Would you recommend your friends and colleagues to participate in such a forum?
Definitely yes – 90%
Yes – 10%
May be – 0%
No – 0%

## 3. LEVEL OF SATISFACTION with activities in the schedule of the forum

3.1.About the Pre-orientation
Satisfied – 36,67%
Slightly satisfied – 46,67%
Normal – 16,66%
Dissatisfied – 0%
3.2.About the Meal
Satisfied – 86,67%
Slightly satisfied – 13,33%
Normal – 0%
Dissatisfied – 0%
3.3.About the lectures during the forum
Satisfied – 33,34%
Slightly satisfied – 30%
Normal – 33,33%
Dissatisfied – 3,33%
3.4.About the Excursion and Exhibition Tours
Satisfied – 50%
Slightly satisfied – 30%
Normal – 20%
Dissatisfied – 0%
3.5.About the Group work
Satisfied – 46,66%
Slightly satisfied – 33,33%
Normal – 16,68%
Dissatisfied – 3,33%
3.6.About the Interaction with Japanese students
Satisfied – 56,67%
Slightly satisfied – 10%
Normal – 33,33%
Dissatisfied – 0%
3.7.About the Business game «Future of the JRSU»
Satisfied – 13,33%
Slightly satisfied – 50%
Normal – 36,67%
Dissatisfied – 0%
3.8.About the results after work in groups
Satisfied – 40%

Slightly satisfied – 53,33%
Normal – 6,67%
Dissatisfied – 0%

3.9. About the topics (motto) for every day
Satisfied – 36,67%
Slightly satisfied – 33,33%
Normal – 30%
Dissatisfied – 0%

## 4. PREFERENCES in the directions and activities of the forum

4.1. What kind of lectures was the most interesting for you?
About scientific field (as biomedicine, biology, engineering etc.) – 30%
About Japan-Russia cooperation – 46,67%
About economy – 16,67%
All – 6,66%
Nothing – 0%

4.2. What kind of activities during the forum was the most interesting and useful?
Lecture – 16,67%
Business game – 6,66%
Work in groups – 60%
Participation in the Rectors forum and/or Scientific forum –16,67%
Other – 0%

4.3. For what would you spend more time on the schedule?
Free time – 16,67%
Work in groups – 53,33%
Educational lectures – 10%
Excursion with all participants – 6,67%
Other – 13,33% (free communication with japanese students, games as 1 time during the forum, going to meet representatives of companies who can give money for activity of JRSU)

4.4. How well did the game «Future of the JRSU» help to understand activities of JRSU?
Very well – 33,33%
Well – 40%
Generally – 16,67%
A little – 10%
Not at all – 0%

4.5. How comfortable is such a busy schedule for you?
Comfortable enough – 16,67%
Normal – 66,67%
A little difficult – 13,33%
Very difficult – 3,33%

## 5. OPINIONS OF PARTICIPANTS

- «Very positive impression; Besides knowing a lot more about each other's cultures, how we think and our common interests , we had an opportunity to gain a better understanding of how we see our relationship in the future; It was very nice to understand that Russian and Japanese students stand on common ground and are very interested in developing Russian Japanese cooperation in all fields, which was confirmed by the very optimistic joint projects and ideas that were introduced by students of both countries at the forum; looking forward sincerely to future cooperation and events».
- «What I think is of most importance is making clear how the union is structured. There have already been two forums up to now and yet there is no single active and functioning website and/or facebook page on which the information about the union and its management is understandably written. If such page or site existed it would be a lot easier for people outside of the union to understand what it really is, who to contact if required, etc.»
- «There should be more time including the time it takes to get to the place where the group work will take place. There hasn't been a single time in September when we started on time. Also, people should have at least a general understanding of what they'll be doing during group work beforehand».
- «I would say that the forum was a great chance to make international friends in either Russia or Japan. The atmosphere of the forum was a little rushed but despite that, it was still a wonderful event and everyone who I talked to about it said that they had a lot of fun. I'm not sure of the actual goals of JRSU, but the strengthening of bonds between Russian and Japanese students and also providing of international experience to those students – that the forum was able to do greatly».
- «Everything was quite well. For the future, I also suggest choosing as volunteers and group supervisors students who know English well and are able to deal with conflict situations is very important and at this forum it was great».
- «Actually, the forum was so interesting! Of course with all the lectures and excursions (that were great), there was left little time to appropriate work in groups. Also, students must understand well tasks and specification of each group and be able to choose the group they like by themselves and change group if they want».
- «That was really good and I've really enjoyed it! I wish to visit something like that again. Some minor mistakes didn't spoil the whole picture about the forum».
- «Thank you very much for such important event! Lectures were quite interesting, but they are not fully related to theme of association itself. Everyone has different interests and you will fail trying to satisfy each one of us. This is just a generalized collection of different facts from science and etc.»
- «It was great, massive work! It is first real step to development of the joint scientific path of our countries. It's really important to mix life of Japan and Russian students during the forum – makes them not to work together, but live – because this is the main idea of unification of our countries. Connecting mutual assistance in living, avoiding isolation of two cultures will help to the idea of our forum».

## 6. SUGGESTIONS FOR THE FUTURE

- Organize chart, where each member has specific duties and responsibilities
- Full handbook for providing information about JRSU and forum
- To create media center (PR team) – YouTube channel
- To increase the time dedicated for group work
- More relaxed timetable is needed
- To organize more specific activities and groups for students of various specialties
- To create constant channel of communication for discussions between forums
- For providing information about JRSU and forum use japanese/russian clubs in universities
- To increase the amount of events and lectures for personal development
- To start preparation of the forum in advance and start by getting to know everyone
- To send people to different cultural events (such as “Prazdnik” - festival of Russian and Eurasian culture in Japan) to advertise our union
- Paying attention to Russian and Japanese style of holding meetings I suggest creating channel of communication between forums, so that both sides can share topics and details they want to talk about
- Lectures must be divided in several sections by specialties, so the students can attend the most appropriate and interesting for them. Also would be great to add lectures by students, so they can share their ideas and search for like-minded students for collaboration.
- To increase the amount of lectures about Japan-Russia relationships and our history/cultural intersections.

平成26年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築 |
| 大学名 | 新潟大学 |
| 担当部署 | 学務部留学交流推進課 |
| コンタクト先 | Tel: 025-262-6935 / Email: soumukokusai@adm.niigata-u.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

本事業は，日露の架け橋となって両国の医療を発展させ，さらには世界の医学の進歩に資する「グローバル医療人」を育成することを主目的とする。医科大学を中心に，ロシア全土に広がる全9校を相手校とする。交流する学部学生・大学院生には，先端的な知識や技術に加えて，過疎地などの地域医療を経験させる。また，多国籍の患者や医科学者と協調するための俯瞰的な視点を身に付けさせる。プログラムは，医学部生を対象とした❶「夏期医学生交流プログラム（双方向10日間）」および❷「医学研究実習プログラム（双方向2ヶ月）」，そして大学院生を対象とした❸「ダブルディグリープログラム（DDP）（受入）」と❹「ダブルディグリーを伴わないレギュラーPhDプログラム（RPP）（双方向）」の4つを設定している。このうち，大学院生プログラムについては，問い合わせベースとし，参加希望があった場合に限り，実施する。

本事業は，医学部内に設置する「統括センター」が運営・評価・管理を指揮する。教育の”質の保証”のため，本学・国外の各運営委員会，それらから構成される国際連携運営委員会と本学事務局が協働している。また，派遣・受入学生のために，事前のガイダンス，宿舎の確保，母国語での学習・生活支援など，万全のサポート体制を備えている。その他に，帰国後の交流やキャリアパスも積極的に支援している。

以上により交流のノウハウや信頼関係を積み上げて，それらを他の学部へ波及させるように努めている。本事業により日露間の「人材の循環」を加速させることで，我が国の医療のみならず産業の発展に貢献していくことを目指している。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

昨年度からの大きな変更点はないが，協定校の教員で本学出身者がいる場合は，主なコンタクト先に指定し，煩雑な事務手続きや書類提出の窓口，緊急連絡先としての役割を担ってもらっている。日露ならびに本学の事情に精通するコンタクトパーソンを据えることで，学生の派遣・受入のみならず，日本留学海外拠点連携推進事業で進める留学フェアの開催等にも協力体制を構築しており，実質的な成果を挙げている。

### 教育システム上の取り組み

❸「ダブルディグリープログラム（DDP）（受入）では，4年間で日露双方の大学で計２本の博士論文を発表することとなり，医学の分野においては，極めて難しい状況である。こうした実態を鑑み，令和元年度以降は，入学試験を実施しておらず，新たな合格者は出していない。特に，実験を伴う場合，十分なデータを取得するために必要とされる時間が圧倒的に不足するため，今後，学生を受入れる際には，学生の専門分野を十分に絞る必要があると思われる。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

①これまでの日露交流の実績が評価され，新たにセチノフモスクワ国立第一医科大と学部生を対象にした双方向性の臨床実習を実施することで，合意がなされた。令和２年度より開始予定である。

②学部，大学院と多層的なプログラムを準備したことで，過去に本学に短期滞在した学生が学位取得のため長期留学を志すケースが散見されるようになった。人材の循環に直結している。

③留学を経験した学生が，日露学生の結束を高めることを目的とし，プラットフォーム構築事業で進める「日露学生連盟」の立ち上げに自発的に関わるようになり，2021年度に新潟大学で開催予定の「日露大学協会総会」に合わせて，同学生連盟の総会を開催するべく，ロシア側の学生と連携しながら活動を本格化させた。

## 危機管理への対策

大きな変更点はありません。以下，昨年度と同様に実施している点を列挙します。

・事前支援・オリエンテーション　―　統括センターが，渡航する本学学生全員に，コースの説明・ビザ申請支援・十分な安全情報の提供などを実施。出発前の情報収集やたびレジなどの登録など指導を徹底している。また，専門家を招いての危機管理セミナーを複数回開催している。

・安全管理　―　渡航後は，学生と現地校教員の双方から「在籍確認書」を書面で提出してもらい，安全確認を徹底。渡航中にも統括センター職員がメールや電話で常時相談を受け付けている。

・日露緊急連絡網・24時間体制でのサポート　―　相手大学と本学の教員，統括センターで「日露緊急連絡網」を構築し，24時間体制で渡航中の学生支援を可能とした。

## 令和2年度以降の展望・方向性

医学部生を対象とした❶「夏期医学生交流プログラム」および❷「医学研究実習プログラム」を中心に事業を継続させていく。大学院生交流は，主に，教員ベースの国際共同研究やロシア側の要望に基づき，必要に応じて推進していく予定である。DDPを修了するロシア人学生の本学側の学位審査に関して，ロシア側の教員も含めた国際評価を計画している。事業全体の運営資金は学内予算の活用に加え，民間企業からの寄付などの獲得に尽力する予定である。日露の教員交流も活性化させ，国際共同研究とそれに係る学生交流を積極的に進めていきたい。

平成26年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露学生交流プログラム |
| 大学名 | 東京大学 |
| 担当部署 | 経営企画部国際戦略課国際事業チーム |
| コンタクト先 | intl-project.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

東京大学理学系研究科・理学部の全専攻・学科と工学系研究科・工学部の社会基盤学専攻・社会基盤学科では，平成26年から「自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム（STEPS (Students and Researchers Exchange Program in Sciences)）を行ってきた。補助金終了に伴い理学系研究科，工学系研究科それぞれで日露交流を続けることとなったが，本プログラムを通じて基礎科学分野，社会基盤学分野及び関連する分野における東京大学とロモノーソフ記念モスクワ国立大学及びサンクトペテルブルク国立大学間での学術交流を促進し，将来の教育・研究分野における連携の基盤を築くとともに，本学の学生がプログラムを活用し国際的な視野を広げることにより，将来，日本とロシアの交流に貢献するだけでなく，グローバルに活躍するリーダーとなるよう育成を行う基本理念に変更はない。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

過去に構築したSTEPSオフィスと両大学との連絡体制によりロシア側大学との連携上の課題は特に生じていない。理学系研究科では，昨年度のサンクトペテルブルク大学に続いて，今年度はモスクワ大学との間で締結されている学生交流のための覚書の更新を行い，モスクワ大学の担当者変更後も密に連携を行っている。工学系研究科では，サンクトペテルブルク大学の学生交流担当部署と今後の安定的な学生受入に向け建設的な意見交換を行い，合意に達したとともに，サンクトペテルブルク大学との間で締結されている学生交流のための覚書の更新を行った。

### 教育システム上の取り組み

短期派遣・受入学生は，各自渡航期間及び活動内容を受入先と調整の上決定している為，特に学年歴の妨げになることはなく，カリキュラムも個々のニーズに沿ったものになっている。

理学系研究科では，長期派遣・受入学生の学位認定にはいたっていないが，工学系研究科がサンクトペテルブルク大学マネジメントスクールとの間で行っている単位認定及び単位互換は，平成30年度も引き続き実施しており，2月中旬に帰国した受入学生については，帰国後に単位認定とその互換作業が行われ，単位取得がなされた。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

学生交流においては，受入先教員と帰国後もコンタクトを続け，共同論文を発表した学生の例や，平成29年に本プログラムで来日した学生が，文部科学省の奨学金を獲得し，平成30年9月より工学系社会基盤学専攻博士課程に入学した事例等があげられる。ロシアでの滞在を通じて海外での研究や生活に自信がつき，帰国後に他の海外派遣プログラムに応募する学生も見られ，学生の国際化に貢献している。

また，プログラム初期に来日した博士課程の学生が，その後モスクワ大学で研究者となり，平成30年に来日した学生の指導教員としてプログラムへの参加に協力したケースからも本プログラムを通じた日露交流の継続性が見てとれる。

## 危機管理への対策

これまで同様派遣学生にはガイダンスを開催し，現地での緊急連絡先や到着後の流れ等詳細な説明を行うとともに，STEPS専任担当者の配置や学生ボランティアシステムを活用し，危機管理への対策を行っている。
受入学生についても，日本滞在中は，STEPSオフィスと受入教員の研究室とで連絡体制を整備し，緊急時や災害時に備えている。

## 令和2年度以降の展望・方向性

理学系研究科では運営費等の学内予算を活用し，既存の学内／研究科内の派遣・受入プログラムに組み込む形でロシアとの交流を実施している。

工学系研究科では，日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（重点政策枠）による支援枠を申請している。

平成26年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム |
| 大学名 | 筑波大学 |
| 担当部署 | グローバル・コモンズ機構 |
| コンタクト先 | tenkai@un.tsukuba.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

本学は，国際的にも開かれた大学として，学際融合・国際化への挑戦を建学の理念とする「未来構想大学」を標榜している。「変動する現代社会に不断に対応しつつ，国際性豊かにして，かつ，多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する」ことは，世界をリードする大学を目指す本学の最重要課題となっている。本学は，未曾有のスピードで激変する世界情勢に迅速に対応するために，学生・教員・職員の意識改革を図りながら，グローバル人材の育成を全学一体となって行う国際化基本戦略を立て，平成25年4月に本学の国際化の推進を担う部局・センターを統合・再編し，グローバル・コモンズ機構を発足させ，キャンパスの「国際性の日常化」を推し進めている。全学的な国際化推進体制の下，本学が目指すグローバル人材，すなわち「確固たるアイデンティティーと十分な専門性を持ちながら多様性を活かす柔軟性を発揮し，地球規模課題の解決や，人類のグローバルな活動を牽引できる人材」の育成という理念に基づき，筑波大学が持つ海外拠点と大学間交流ネットワークを活用した，日本とロシア語圏諸国の持続的な相互互恵関係の強化・発展に貢献する人材を育成することが本プロジェクトの目的である。具体的には，ロシア・カザフスタン・ウズベキスタン・ベラルーシの11の大学を交流実施校に定め，本学のロシア語圏の海外拠点であるタシケントオフィスとアルマトイオフィスを活用しながら，双方向学生交流によるグローバル教育プログラム（学士課程）を実施する。双方の学生に，グローバルマインド，グローバルリテラシー（国際対話能力），マルチリンガル能力，実務能力，日本文化発信力を身につけさせ，日本とロシア語圏諸国においてビジネスを展開している企業等で活躍できる即戦力の人材を育成し，社会に輩出する。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

ロシア側大学との調整・連携については，本学の全ロシア語圏協定大学のネットワークと，モスクワ市立教育大学構内に設置したモスクワリエゾンデスク，ロシア語圏の海外拠点であるタシケントオフィスとアルマトイオフィスを活用しながら行っている。海外拠点を活用することで，現地の情報だけでなく案件に関わる先方の雰囲気等も共有することができ，双方にとって細やかな対応が可能になっている。

## 教育システム上の取り組み

プログラム活動の単位化を中心に，教育の質保証に取り組んでいる。平成27年度には，キルギスでの海外研修，海外インターンシップ，国内インターンシップを単位化した。海外研修およびインターンシップは，本プログラムでも特に重要な教育活動であり，制度的な観点から教育内容の一層の充実を図ることができるようになった。これらが単位化できたことで，学生に活動参加のインセンティブが生まれ，学生の積極的な参加が常態化した。その他，海外語学研修（ロシア語），医療視察研修など，海外研修は基本的にすべて単位化が実現しており，プログラム活動を通じて，教育の質が格段に向上した。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

本事業の活動成果を基盤とし，学内外の運営資金を活用しながら，交換留学や海外研修を中心に教育活動を継続していく基盤を構築した。関連事業は，「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS拠点）」（以下拠点事業）及び「日本財団　中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（以下NipCA)である。拠点事業は，文部省の外部委託事業として2018年10月に採択され，開始されたもので，北海道大学，筑波大学，新潟大学の３大学が連携・協力し，ロシア・CIS地域から日本への留学生増加を目的としたオールジャパンの取り組みを推進する事業である。本事業で培ったロシア・CIS諸国の大学間交流ネットワークを最大限に活用し，各国の主要都市で日本留学フェアなどを開催し，日本国内の大学の留学生獲得と国際化に貢献している。

NipCAについては，本事業の成果が認められ，日本財団の支援によりJACAFAと連携して2019年1月より開始したプロジェクトである（2019年度助成確定，事業実績により2030年度まで助成が継続される見込み）。中央アジア諸国及びアゼルバイジャンと日本をつなぐ人財育成を目的として，積極的な相互学生交流を可能にしている。

## 危機管理への対策

学生・教職員の海外滞在中の，大学全体としての危機管理システムとして，グローバル・コモンズ機構において，交流大学と迅速な連絡・情報共有ができる体制を組んでいる。天災やテロ等の危機遭遇時にも海外で支援が受けられるよう，民間危機管理会社と契約することで，海外滞在中の学生の支援体制を強化している。海外留学及び海外研修の実施に当たって，参加学生たちに対して，必ず事前危機管理研修を行っている。

## 令和2年度以降の展望・方向性

学内外の運営資金を継続して獲得できるよう事業の継続とその成果を国内外にアピールする。より有効かつ実質的な交流ができるよう，学生受入，派遣における人材育成の成果としての質を確保し，その成果を示していく。

平成26年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露間における新価値創造人材の育成 |
| 大学名 | 東北大学 |
| 担当部署 | 総務企画部国際企画課 |
| コンタクト先 | kokusai-r@grp.tohoku.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

グローバルな視点から日露両国間交流の意義と重要性を深く理解し，全球的観点で日露間の新たな価値を創造できる指導的人材を育成する目的で，本学と関係が深いロシアの特別大学である「モスクワ国立大学(MSU)」及び「ノボシビルスク国立大学(NSU)＋ロシア科学アカデミーシベリア支部(SB RAS)」，「極東連邦大学(FEFU)＋ロシア科学アカデミー極東支部(FEB RAS)」を交流組織として，①学部1・2年生を対象とした，相互の異文化理解を推進する短期学生交流，②学部3・4年生および博士課程前期学生を対象とした，単位取得を伴うプレ留学交流，③博士課程前期および後期学生を対象とした，日露で実施している高いレベルの共同研究を基盤とした大学院生の教育研究交流を実施し，これまで教育を中心としてきたロシアの大学，研究を中心としてきたロシア科学アカデミー(RAS)，また研究第一，門戸開放，実学尊重をモットーとする本学が三位一体となって段階的教育交流モデルを構築する。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

●本学ではロシア側コンタクトパーソンとの連携を強化し，共通認識，相互理解を心がけた。
●ロシアの大学（学士・修士課程）とRAS傘下研究所（修士・博士課程）における教育面での相互補完関係に着目し，両者と協力することで学生交流の推進を図った。
●研究所を巻き込むことで，より専門性の高いカリキュラムを学生に提供した。

### 教育システム上の取り組み

●学生が留学しやすい環境整備のため，セメスター制に替えてクォーター制を導入した。
●本学文学研究科心理学講座とMSU心理学部とのジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリー(JSD)プログラム開発に際しては，単位の読み替えのため双方の授業科目内容を確認。JSDプログラムでのMSU博士学生受入れにあたっては，MSU側指導教員と協議の上，学生の研究テーマや履修科目を決定。教育の質および学生の成績は，本学における半年以上の指導内容，単位取得状況，論文の内容をもって指導教員ならびに受入機関で保証，認定する予定。またJSD学生が受入機関において取得した授業単位を派遣元機関において必要とされる授業単位に含むことができるため，修業年限内での課程修了が可能であり，留学をキャリアプランに組み込むことができる。派遣元機関において学位を授与し，受入機関と派遣元機関による共同指導学位証を授与する枠組みを構築した。
●全学的に推進している博士前期・後期一貫の国際共同大学院において，本学理学研究科が主体となる環境・地球科学国際共同大学院プログラムでは，NSUを海外連携機関の一つとして認定した。各国際共同大学院では同様のカリキュラムが設定されており，博士前期及び後期修了時に学生の質を保証するためのQE(Qualifying　Examination)を面接中心に行う。面接は，海外の大学・研究機関の研究者も含めて英語で行うことで，研究能力に加え，グローバルに活躍できる能力のある学生であることを保証している。なお，海外の大学からこの環境・地球科学プログラムに参加する学生には，東北大学で環境・地球科学特別実験Ⅱとして6か月以上滞在し研究することを義務付けた。(単位数は各国の事情に配慮し等価的に3単位に相当する単位)。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

学生派遣：異文化交流型の短期留学(学部1・2年生対象)を契機に，より長期の留学やロシア関連企業への就職を志す日本人学生が増加したことは，日露の懸け橋となる指導的人材育成を趣旨とする本プログラムの成果。

学生受入：異文化交流型の短期留学および単位取得を伴う1年間の留学を経たMSU心理学部の学生をその後JSDプログラムの博士課程の1年生として本学文学研究科心理学講座にて受入れたことは段階的教育交流モデル構築の成果事例。

共同研究を基盤とした交流：文化的，社会的環境・背景の異なる学生，研究者が現状の問題点や最先端の研究成果について直接議論することにより，新たな問題の捉え方や問題解決の方法を見出すことができた。共同研究やジョイントセミナーへの参加を通し，学生が早い段階から国際的アカデミーネットワークに加わる機会を提供することができた。

## 危機管理への対策

●学生は，学研災付帯海外留学保険への加入，たびレジへの登録，本学あるいは海外留学生安全対策協議会(JCSOS)が開催する危機管理セミナーの受講を必須としている。

●緊急連絡網などを収録したセーフティー・ハンドブックの配布やロシアに特化した危機管理情報を提供することで渡航の心得から緊急事態への備えまで，危機管理の意識付けを徹底している。

●危機管理ガイドライン作成検討会による指導，マニュアルの周知で留学生の受入れおよび学生派遣にかかる危機管理を教職員にも徹底している。

●海外留学生安全対策協会（JCSOS）による海外派遣に係る危機管理シミュレーションを学内で実施し，問題点の洗い出しや危機管理体制の整備を行っている。

## 令和2年度以降の展望・方向性

●MSU心理学部と，文学部・文学研究科が継続してJSDプログラムに特化した段階的プログラムを実施する。

●本学において教育の国際化ならびに学生交流プログラムを全学的に企画・実施しているグローバルラーニングセンターと本学の学位プログラム推進機構がロシアとの交流プログラムについても引き続き実施する。

●学生の留学機会を増やすため，留学プログラムを授業科目として設定するなど各部局での検討を予定している。

●学内財源および独自留学支援制度等を活用しながら，学生交流を推進していく。

平成26年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム |
| 大学名 | 北海道大学 |
| 担当部署 | 学務部国際交流課 |
| コンタクト先 | RJE-3@oia.hokudai.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

本プログラムは，極東・北極圏を対象として，北海道大学とロシアの大学・研究機関において蓄積された環境，自然災害，民族・言語・文化等のフィールド研究による実績とそのネットワークに基づき，極東ロシアの基幹5大学と北海道大学の複数大学院，北海道や極東ロシアの自治体，産業界の代表などで構成されるコンソーシアム（East Russia-Japan Expert Education Consortium，以下RJE3コンソーシアム）を構築し，極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組みである。

座学だけではなく，フィールドワークや分野横断的な学びを含む教育カリキュラムを通じて，多文化理解力・コミュニケーション力・企画，創造力が身につく本プログラムにおける，初年度から今年度までの学生交流数は，派遣学生156名，受入学生149名となり，本プログラムを通した日露の学生交流は活発化してきたと言える。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

本学にセントラルオフィス，ロシア側大学にリエゾンデスクを置き，国際運営委員会のメンバーにリエゾンデスクの事務担当者を含め，事務担当者も国際運営委員会に出席することにより信頼関係を築いてきた。補助金期間終了後は各大学の旅費負担になり事務担当者が直接顔を合わせる機会はほとんど無くなるため，メールを中心とした調整の中でも信頼関係構築を維持することが課題である。

### 教育システム上の取り組み

基礎科目修了証と共同修了証の授与基準をつくり科目担当者による評価と，日露両方の指導教員による評価を行うことによって，成績の透明性と客観性を確保するとともに，日露間の評価の標準化を図っている。また夏に行われる「国際運営委員会」にて，教育システム上問題となっている点があれば議論し，決定していくこととしている。これまで単位認定に関しては比較的スムーズに実施してきたが，帰国後に単位認定のための試験合格が必要など，認定までに時間が掛かるものもあった。更なる改善に向けた情報収集に努めている。

### プログラムの実施における特筆すべき成果

例年本学で実施してきた国際運営委員会を，令和2年度には極東連邦大学（ウラジオストク）で実施することが決まり，令和3年度には太平洋国立大学（ハバロフスク）で実施する予定。昨年度で補助金期間が終了し，今年度から各大学ができる範囲で旅費負担をしながらプログラムの実施を始めたが，ロシア側の理解が得られており，バランスの取れた関係を構築しつつある。

## 危機管理への対策

プログラム開始前には危機管理についてのオリエンテーションを行い，犯罪・事件，人災に巻き込まれないように注意喚起を行っている。本学はNPO法人海外留学生安全対策協議会(JCSOS)に加入しており，本プログラム参加学生についてもJ-TASへの加入を必須としている。また学生には危機管理マニュアルを配布し，出発前に海外生活の心得を熟読し，留学に対する危機管理に備えている。

## 令和2年度以降の展望・方向性

本学では今年度モスクワ国立大学内にモスクワオフィスを開設した。モスクワオフィスの協力を得て，極東ロシア5大学からモスクワ・ペテルブルグを含むヨーロッパ・ロシアへも共同教育プログラムパートナーの対象を拡大していく方向で，令和2年度の新規開講授業を計画している。

学生のニーズに応えてロシアにおける選択肢を増やし，学生にとって意義と価値のあるプログラムを提供することにより，留学支援金が今までどおりになくても学生が積極的に参加することが期待できる。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成 |
| 大学名 | 近畿大学 |
| 担当部署 | インターナショナルセンター |
| コンタクト先 | 06-4307-3081 |

## 2.プロジェクト概要

【大学間協定に基づく学生交流を実施】

「日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成」プログラムは日露間で事業展開するモノづくりを中心とした企業において製品開発プロジェクトを推進でき得る人材の養成を目的として，本学と学術交流協定を結ぶロシアの10大学との間で展開する教育プログラム。

当該教育プログラムは①短期人材交流プログラム（2週間／双方向），②交換留学プログラム（1セメスタ／双方向），③学位プログラム（修士：2年，博士：3年／東大阪モノづくり専攻への受入のみ）の3層で構成され，これら全てにおいて企業での研修を実施している。②では，ロシア協定校と人材ニーズを十分に反映した協同教育の企画・運営を行い，協同教育プログラム委員会の設置等，単位互換・ジョイントディグリーの可能性を検討する。ロシアに留学する学生に対しては初等ロシア語教育，危機管理教育等の渡航前教育を十分に行い，ロシアからの受入学生には日本語・日本文化研修等を人材交流の一環として実施している。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

ロシア側大学との調整・連携を行うために，近畿大学日露人材育成プロジェクトオフィスを設置し，本学インターナショナルセンターおよび理工学部と連携して日本とロシアの学生の要望に即応できる十分な連絡体制を備えている。

### 教育システム上の取り組み

交換留学プログラムおよび学位プログラムにおいて受講科目の単位認定が行われる。ロシア人学生には，「エンジニアリングデザイン実習」「理工学国際ゼミナール」（2019年度新設）が必修科目と位置付けられ，ルーブリックに基づいた単位の認定が行われ，質の保証が担保された17単位を下限とする履修プログラムとなっている。すなわち，ルーブリックに挙げたエンジニアリングデザイン能力の評価項目を高いレベルで達成するような教育指導が行われる。さらに両科目ともに，本学の学生と区別なく厳格な評価が行われる。また，ロシア人学生は個々に研究室に所属し，それぞれの専門に応じた課題の指導を教員より受ける。さらに，本学で開講されている留学生用の日本語科目，日本文化に関する科目も履修・受講。交換留学生一人ひとりに本学の大学院生を中心としたチューターを配し，履修指導，課題作成・提出等のサポートを実施。交換留学プログラムではインターナショナルセンターが理工学部からの単位認定報告を受け，プログラム修了書を発行，受講生に授与する。

ロシアの経済情勢に精通した大学教員，モノづくり企業の技術者，他大学の教員等で構成される外部評価委員会を組織・開催し，ロシアの製造業のニーズ把握とともに，科目の質の客観評価を行っている。

本学からの学生の留学においては，学内公募に応募してきた学生にロシアでの学修計画を提出させ，プログラム運営委員会が留学の是非を審査する。留学が認められた学生は，本学で渡航前教育と初等ロシア語科目，協定校で「国際プロジェクトマネジメント実習」（2019年度新設）を受講し，帰国後に成果報告プレゼンテーションを行うことにより最終的な単位認定がなされる。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

【東大阪を中心とする「モノづくり」企業と日露学生の交流】

ロシアからの短期受入プログラムでは，東大阪市内のモノづくり現場の視察を実施し，1セメ受入プログラムでは関西圏のモノづくり企業でインターンシップを実施した。これらの場を通じて，ロシアからの受入学生には本学の実施するプログラムや「モノづくり」の本質を理解してもらうと同時に，本学学生に対してはロシアへの関心を高める契機とした。さらに東大阪をはじめとするモノづくり企業に対する本プログラムの理解にも繋がった。

## 危機管理への対策

【近畿大学海外リスク管理マニュアルの策定】

本学では海外リスク管理マニュアルを策定し，本学の学生および教職員が留学，研修，出張等で海外渡航する際のリスク事案に対応するための指針を定めると同時に，リスク管理対策事務局をインターナショナルセンター内に設置し，24時間対応している。

【渡航前研修の一環として危機管理セミナーを実施】

ロシア事情に詳しい本学教員が，短期・長期を問わず，ロシアに渡航する学生を対象に「ロシア事情講義」「危機管理セミナー」等を実施し，学生の危機管理・安全対策を促している。

【旅行のプロによる危機管理セミナーを実施】

とくに短期人材交流派遣プログラムには海外渡航に不慣れな1－2年生の参加が多いため，直前研修では，トヨタツーリスト社の協力を得て旅行に詳しい旅行代理店のプロを招き，渡航中の身の安全の確保，いざというときの対処法に関するセミナーを実施している。

【安全保障輸出管理にかかわるセルフチェックシートを活用】

安全保障輸出管理にかかわるセルフチェックシートを活用しながら，学生に安全保障輸出管理に関する説明を行い，理解を深めている。

【安全保障貿易管理を行うためのe-ラーニングを実施】

本学教職員が外為法を理解し，適切な安全保障管理を行うために，経済産業省が作成したe-ラーニングを活用している。そこで教職員が得た知識を学生・院生に還元し，適切な運用を心掛けている。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

本学は，国際化推進の基本戦略である「近畿大学国際化のビジョン」に基づき，地域発展と国際社会に貢献できる人材育成を目標にグローバル化を強力に推進している。そして，この目標を達成するための1つの事業として，本事業の教育プログラムが進められている。従って，補助期間終了後，本事業は既存事業との交流や発展的な融合等を行い，継続的な内容として実施できるシステムへと再構築される予定である。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成－主に極東地域の経済発展を目的として－ |
| 大学名 | 東海大学 |
| 担当部署 | 国際教育センター |
| コンタクト先 | tokai.russia@ml.u-tokai.ac.jp　/　TEL:　0463-58-1211　内線：2774（展開力担当） |

## 2.プロジェクト概要

ロシア連邦の大学・大学院研究科とは，幅広く科学技術交流に重点を置いて研究交流を始めている。展開力強化事業内で行っている学部ライフケア分野交流と課題が多少異なり，理工学系基礎科学の交流課題を2分野を採択し注力している。

プロジェクト課題１．高速流体の理論的・実験的解析

プロジェクト課題２．光技術によるナノ材料の創成とその応用

プロジェクト課題2については将来的にライフケア分野への発展を視野に入れている。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

「課題１．高速流体の理論的・実験的解析」では，モスクワ大学物理学部が主として理論解析　東海大学総合科学技術研究所と大学院工学研究科（修士課程）が実験的解析を担い相補関係である。「課題２．光技術によるナノ材料の創成とその応用」では，極東連邦大学工学部と東海大学総合科学技術研究所相互に同様な実験装置を有し成果の検証を促進している。

### 教育システム上の取り組み

上述のいずれの課題も大学院カリキュラムでの単位互換というよりは，研究成果を論文公刊し世界にいち早く情報発信することに力を注いでいる。現在，年度で数名ずつの大学院生（博士課程あるいは修士課程学生）または，博士研究員を交換している。課題2については，博士課程の学生の論文作成にかかわって「デュアルスーパーバイザー」の制度で教員が，お互いの大学院研究科の博士論文審査の審査員に関わろうとする計画をしている。

### プログラムの実施における特筆すべき成果

「課題１．高速流体の理論的・実験的解析」では，東海大学で毎年年末に総合科学技術研究所にて課題１のプロジェクトでは定期的にシンポジウムを開催して，モスクワ大学物理学から博士課程学生と博士研究員が参加して研究成果発表してる。国内から東北大学やJAXAからの発表も行われ情報交換が進められている。「課題２．光技術によるナノ材料の創成とその応用」は，シンポジウム開催はしていないが，本年度すでに7報の論文が論文誌に共同執筆で公刊されて，極めて高い成果を上げていると判断される。

## 危機管理への対策

1. 留学生の派遣については, 展開力強化事業内学内の啓発事業として安全に関する渡航前セミナーを受講させている。

2. 受入学生の実験等の安全に関しては, 受入れ時に研究の安全に関する講義をおこなっている。

3. 輸出管理安全保障に関する事項については, 共通のデータの交換, 機器使用等について両国の担当研究者が学内でのルールに従うよう注意をしている。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

2プロジェクト概要でも記したように, 本取組みは展開力強化事業内で行っている学部ライフケア分野交流と課題が多少異なり, 自主経費で進めている。本年度一部は, 東海大学に在籍する外国籍教員が民間財団資金を導入し, 極東連邦大学の研究者と共同研究を進めている。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム |
| 大学名 | 千葉大学 |
| 担当部署 | 学務部国際企画課 |
| コンタクト先 | kokusai-grants@chiba-u.jp, 043-290-2044 |

## 2.プロジェクト概要

極東ロシアにおいて食料や種苗生産から高度施設園芸，植物工場までを通じて，流通・販売ビジネスまで含めた未来農業を理解でき，日露の共同事業に貢献できる人材育成を目的とし，大きく2つの領域でプログラムを実行する。第一は，未来農業の中心である「太陽光利用型植物工場」と「人工光型植物工場」における環境制御，栽培技術・管理，デバイス開発に関するプログラムであり，第二は有機農業を含む「太陽光利用型植物工場」と「人工光型植物工場」の生産領域の拡大，生産物管理，繁殖・育種，マーケティング，ライフサイクルアセスメント等に関するプログラムである。栽培・生産や環境に関わる領域だけではなく，工学やマーケティングに関するプログラムを学び，極東地域における日露共同事業の柱の一つとされている，温室ビジネスを始めとした農業ビジネスにおいて多様な場面で活躍できる人材を領域横断型のプログラムで育成する。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

細かい相談はロシア語が必須のため，特定の職員に負担が集中する傾向がある。連絡に携帯用通信アプリ・WhatsAppを導入し，迅速かつ細かい相談が可能となった。また，インターネットを介しての打ち合わせも頻繁に行っている。今後は，学生との面談にTV会議システムを導入予定である。

### 教育システム上の取り組み

カリキュラム，科目構成の抽出を行っており，今後，共同プログラムの設置の可否を含めて，共同授業の開講についての検討を進める予定である。単位認定は昨年度と同様に行っている。今年度はサハリン総合大学から半年間の学生受入れを行っており，受講授業科目の調整を進めている。参加学生は派遣先の大学，受入大学（千葉大学）からプログラム修了証が授与されている。本年度は，極東農業大学，ノボシビルスク農業大学，両大学との大学間交流協定を締結し，2大学からの学生の短期受入れを開始した。来年度以降，単位互換，施設園芸に関わる共同プログラムを開始するための相談を進めている。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

プログラムの内容を多くの日本企業に紹介する事を進めている。2019年2月1日にNPO植物工場研究会と共催で「日本における施設園芸技術開発の動向と極東ロシアとの連携の可能性」を開催し，国立沿海地方農業アカデミー，国立サハリン総合大学，極東農業大学，地方行政府，企業関係者などロシアから10名？9名，国内企業等から150名強の参加があった。

毎年，日本とロシアで交互に開催している日本極東ロシア農業ビジネスフォーラムと並行して，日本企業の極東ロシアでの農業に関わる活動が開始され，本プログラムでの連携にかかわる相談が始まった。

## 危機管理への対策

本プログラムに参加する学生には，事前指導を実施し，危機管理に関する注意を十分に促している。派遣プログラムでは，海外での滞在については細心の注意を払うように指導している。日本人学生には，学生教育研究災害傷害保険に入ることで万が一の場合に対応できるようにしている。また，本学では平成23年度より，日本エマージェンシーアシスタンス株式会社が運営する留学生危機管理サービスOSSMAに加入しており，原則として渡航する学生はこれに登録する。受入プログラムでは，学生は学生教育研究災害傷害保険に入ることで万が一の場合に対応できるようにしている。また，本プログラム実施にあたっては，ISD（インターナショナル・サポート・デスク）が窓口となって緊急時の対応を行う体制をとっている。個別プログラム実施期間中は，教職員が帯同するために，十分に危機管理が行える環境である。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

補助金の交付期間中に，各大学，関連企業との信頼関係を構築すると同時に，多様なインターンシップの枠組みの検討を進めると同時に，関係産業の企業との連携を進めたい。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム |
| 大学名 | 東京外国語大学 |
| 担当部署 | 国際化拠点室 |
| コンタクト先 | メール：kokusai-kyoten@tufs.ac.jp　　TEL 042-330-5534 |

## 2.プロジェクト概要

言語力，ロシア及び日本に関する教養・知識，経済についての知見，交渉力・調整力を合わせもち，日露協力プランの第8項目「両国間の多層での人的交流の飛躍的拡大」に結び付く，多様な分野で活躍することが期待される高度な「日露ビジネス人材」を養成するために，ロシア6協定校（モスクワ大学，モスクワ国際関係大学，ロシア人文大学，高等経済学院，ペテルブルグ大学，極東連邦大学）と連携しつつ，①短期留学 ②長期留学 ③インターンシップからなる交流プログラムを実行し，各大学が行っている「ロシア関係」「日本関係」「実学的な経済関係」の教育をさらに強化する。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

各々のロシア協定校との交流窓口役を担っている本学のロシア関係教員，留学生課，国際化拠点室，プログラムコーディネーター及びモスクワへの現地コーディネーター配置により，ロシア側との円滑な調整を可能にしている。

### 教育システム上の取り組み

ロシアの学生が，自身の大学の単位互換制度について認知していないというケースが多くあったため，ロシア側連携大学に制度の有無について確認した上で，学生に制度を利用するよう積極的に働きかけた。ロシアへ帰国した学生へのフォローアップも実施し，一定の成果を挙げていることが確認されている。

### プログラムの実施における特筆すべき成果

・長期間のインターンシップ機会の開拓に注力した結果，日本映像翻訳アカデミー（JVTA)と産学連携により「J-Anime　Meeting」を今年5月にモスクワで開催することが決まり，昨年9月より日露の学生総勢46名が字幕翻訳やPR活動，上映会運営にJVTAによる指導・監督のもと，携わっている。

・実学教育強化のため，従来の科目の充実に加え，「駐在員のロシア語」を新設し，ビジネスで使うロシア語に加え，ロシアでのビジネスに必要な基礎知識を教授することで，より深い理解を可能としている。

## 危機管理への対策

従来の危機管理説明会等に加え,「女子学生・女性研究者のための海外渡航における危機管理説明会」を新たに実施した。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

本事業での新たな取り組みを可能な限り継続していく。

・TUFS日露ビジネスネットワークのサポートのもと, ロシア及び日本国内でのインターンシップの機会提供, 実学教育関連の講座を続けていく。

・本学学生, 他教育機関(大学のみならず小中高含め)と留学生を介した交流, 地方自治体などローカルコミュニティーとの連携を深めていく。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム |
| 大学名 | 東京工業大学 |
| 担当部署 | 工学院, 物質理工学院, 環境・社会理工学院, 生命理工学院 |
| コンタクト先 | E-mail: ryu.kor3@jim.titech.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

世界に山積する問題, 特に高齢者の健康や医療, 化石燃料の枯渇, 化石燃料使用による温暖化等の問題を解決するためには, 最先端の科学技術が必要不可欠となっており, 特に産業と連動する工学技術の発展は経済活動の活性化にも重要と考えられている。本事業では, 健康・医療産業や原子力・エネルギー産業に資する中心的な科学技術である生命工学, 医用工学, 環境科学, 原子核工学分野における日露間の産業発展に寄与できる若手技術系人材の育成を, 東工大とモスクワ大学(MSU)およびロシア国立原子力研究大学(MEPhI)と共同で実施することで, 上述した産業をグローバルに先導できる研究者・技術者を輩出する。学内の複数の学院に跨るライフエンジニアリングコース, 原子核工学コースや生命理工学コースが中心となり, 工学院, 物質理工学院, 環境・社会理工学院, 生命理工学院を横断した複合系コースを中心に, 東京工業大学の学生派遣プログラム, ロシア大学の学生受入プログラム, 日露の工学分野交流目的とする日露学生交流フォーラム開催を実施する。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

事業実施３年目となり, MSU並びにMEPhIの両運営メンバーとも意思疎通が十分図られるようになり, ①本学学生派遣(短期・長期), ②ロシア学生受入(短期・長期), ③日露学生交流フォーラム開催は, 双方のアカデミックカレンダーの相違を留意した実施時期が確定。また手続き等を含む運営方法も確立され, 論議内容は, より質の高いプログラム内容や共同研究, 単位互換の論議に移行しつつある。ただしMEPhIについてはTV会議システムが稼働しているが, MSUでは, モスクワ校, プシナ校がありTV会議システムが使えないので, 必要に応じた打合せ出張が必要である。

### 教育システム上の取り組み

本学学生の派遣により取得できる科目については, 希望学生が履修届を提出させ単位を認定している。成績評価は, 派遣前のオリエンテーション, 計画書の提出, また派遣中は引率教員による履修状況の実地確認, 並びに派遣後の報告書やプレゼンテーションにより行っている。

単位互換については, ロシア側大学と検討中である。課題は, ロシア側の大学で英語開講講義が少ないことである。但し, 特にMEPhIでは, 単位互換・ダブルディグリーについて関心がもたれはじめ, 今後まずは単位互換を実現させ, その後ダブルディグリーを検討することになった。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

・MSUとの全学協定の締結(昨年度までは，関係３学部との部局間協定のみ。なお，MEPhIについては昨年度に全学協定の5年間の期間延長を実施済)

・本事業の結果として今年度，原子力工学分野ではMEPhIと合同で，当該分野で史上初の日露両政府の国費による共同研究「国際協力型廃炉研究プログラム」に応募し採択，また生命科学分野では2020年度から，ロシア・CIS学生を含む国費留学生配置を伴う国際大学院プログラムの申請が採択された。

## 危機管理への対策

本学としては派遣前に学生への説明(ロシアの治安状況と行動留意点，たびレジへの登録，緊急時の連絡法＜領事館等への通報＞等)とともに，海外旅行保険，アイラックサポートへの加入を義務づけている。多国との学術交流を多く経験を有する教員等を中心にプログラム運営を行っているとともに，長期も含め，相手先２大学への学生の派遣時期をなるべく同時期とし，ロシア滞在経験を有する特任教員が引率するとともに，現地における生活指導を実施している。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

本事業終了時までに，MSU並びにMEPhIとの連携の枠組みは完成されると考えられる。その枠組みを利用して今後とも，学生交流を継続実施する予定である。費用面ではJASSO等の学生奨学制度の活用を考えているとともに，本学の既存国際交流制度にのせることにより，事務等のサポートも含め継続的に実施していく。さらに共同研究，採択された国費留学制度もベースに，ロシアとの学術交流を活発化させ継続していく。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム |
| 大学名 | 金沢大学 |
| 担当部署 | 国際部国際企画課国際化推進係 |
| コンタクト先 | g-planning@adm.kanazawa-u.ac.jp |

## 2.プロジェクト概要

本学とロシア側連携機関とのこれまでの研究者交流を学生交流へと展開し，専門知識に加え，異文化受容性，現状認識力，俯瞰的思考力，創造（想像）力，そして実践力を備えた，将来の日露関係を担う人材育成を行う。そのため，体系的で多層的な，質の保証された骨太の交流プログラムを構築し，学生交流の規模を抜本的に拡大するとともに，プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで，将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開を図る。本事業を通じて，東洋と西洋を結ぶ「21世紀の知（価値）のロシアン・シルクロード」の実現を目指す。

下記4つの単位・学位取得型交流プログラムを構築する。文化交流プログラムでロシアに対する興味を促し，継続的なフォローアップを通じて，専門・大学院課程での研究ベースの交流プログラムへの参加を促す。

①文化交流プログラム（体験交流・単位取得型）：ロシア・日本に対する興味喚起を目的とした学士課程学生を主対象としたプログラム。

②基礎科学交流プログラム（学位・単位取得型）：低温物理学分野で，博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムと単位互換プログラムを実施。

③先端科学技術交流プログラム（企業人材育成・単位取得型）：実学的な分野である機械工学と情報科学，環境科学分野で，主に博士前期課程の学生を対象に，今後の地域間企業連携を見据えた，企業でのインターンシップ等を組み込む。

④先制医療交流プログラム（研究交流・単位取得型）：脳神経科学，予防医科学，がん医科学，循環医科学分野における博士課程の交流プログラムを実施。理化学研究所，カザン連邦大学と連携して，将来的には日露医学研究教育センターの開設を目指す。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

■学生交流プログラムにおけるビザの取得

基礎科学・先端科学技術プログラムについて，学生交流ビザを必要とする大学と観光又は人文ビザでも可能な大学がある。必要なビザの種類が異なる原因は不明である。9月の派遣では，ロシアの長期夏季休暇のため，ロシア側からの連絡が取りづらく，一部の学生のビザが取れず，プログラムに参加できなくなったこともあった。

■指導教員のミスマッチ

派遣学生の指導教員について，通常，派遣先大学に適切な指導教員を見つけてもらうようにしているが，学生の研究分野とマッチングしないことがあった。

## 教育システム上の取り組み

カザン連邦大学の物理分野の学生1名が2018年10月に入学し，2019年4月～9月に渡日した。2019年10月にはカザン連邦大学の学生2名が入学し，1年生として2020年4月から渡日を予定している。また，2018年度10月入学の学生は2年生として2020年10月から渡日予定である。今後，数学分野でもダブル・ディグリー・プログラムの締結を目指している。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

■インターンシップ受入先の大幅な新規開拓

インターンシップ受入先拡充を目指して，企業と交渉した結果，11企業から35名の学生受入の承諾を得ることに成功し，本学学生とロシア人学生のペアで派遣を行った。また，ロシアへの学生派遣に関しても，カザン連邦大学との交渉の結果，2019年度から米フォードと露ソラーズの合弁会社である「フォード・ソラーズ」（自動車メーカー）での本学学生のインターンシップを開始した。

## 危機管理への対策

本学では，①全学的な危機管理オリエンテーションの実施（年2回），②海外渡航届の義務付け，③24時間365日対応可能な海外旅行保険・危機管理サービスの導入，④危機管理に係る情報の学内ホームページでの情報発信などを通して，学生への指導の徹底，学内の緊急連絡網，保護者等への連絡体制を整備し，速やかに情報の収集や伝達，安否確認ができる体制を整えている。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

■ロシア同窓会の設立

本事業の成果である人的ネットワークを確固たるものとして維持・活用するため，「金沢大学同窓会ロシア支部」の設立に向けて準備を進めている。

■経費負担

現在，派遣・受入れプログラムに参加する学生の航空券費用は，補助金から支出している。補助金終了後を見据え，連携大学と航空券等の費用負担に関する交渉を行っている。2020年度プログラムからの航空券費用は，本学が負担する上限枠（人数）を設け，それを超える分については連携大学が負担することとした。

平成29年度採択校

# 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校　情報共有シート

## 1.基本情報

| | |
|---|---|
| 構想名 | 日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業 |
| 大学名 | 長崎大学・福島県立医科大学 |
| 担当部署 | 長崎大学生命医科学域・研究所事務部学務課（大学院担当） |
| コンタクト先 | e-mail: dai_med@ml.nagasaki-u.ac.jp　　TEL: 095-819-7009　FAX: 095-819-7168 |

## 2.プロジェクト概要

本補助事業ではロシア及び日本が持つ放射線災害の経験，教育インフラを糾合し，両国のみならず世界において「放射線災害を含む大規模複合型災害を想定して，災害発生前の防災計画等から，発災期の緊急放射線被ばく医療を含む医療対応とクライシスコミュニケーション，その後の収束期から復興期におけるリスクコミュニケーションや保健活動などをはじめとする種々の災害対応等において，災害サイクルに応じて対応できる人材」の育成を行う。

具体的には，長崎大学，福島県立医科大学及び北西医科大学等の間で学生を派遣・受入し，放射線防護学，再生医療学，リスクコミュニケーション学及び被ばく影響学といった分野の講義受講により単位の互換を行う。さらに長崎大学・川内村復興推進拠点及び福島県立医科大学における実習などにより単位互換の拡大を図り，最終的にはダブルディグリープログラムを確立する。

## 3.プロジェクトへの取組状況

### ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点

本事業に参加する長崎大学，福島県立医科大学，ロシア連邦の北西医科大学，ベラルーシ共和国のベラルーシ医科大学，ゴメリ医科大学でカリキュラム委員会，学生交流委員会を構成し，各委員がネット会議等を通じて随時連絡調整を行うほか，各参加機関の学長，理事長が出席する運営会議を年一回開催し，各委員会の活動を審議し，今後の運営方針を決定する。

### 教育システム上の取り組み

学生の派遣・受入の中心となる長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の災害・被ばく医療科学共同専攻では，ロシアを含む海外のアカデミックイヤーに合わせて，2018年度より海外留学生を対象とする秋入学を開始した。

英語開講科目については集中講義により実施しているため，短期留学生の受入に対応可能である。2019年10月には，北西医科大学より5名の学生を受入れ，福島県川内村において，北西医科大学，長崎大学，福島県立医科大学の共修で実習を行った。また，12月には，新たに北西医科大学より5名の学生を受入れ，ICRP副委員長であるジャック・ロシャール教授による「放射線防護学Ⅰ・Ⅱ」（2単位）を共修した。

更に2019年1月には，長崎大学から7名，福島医科大学から2名の修士学生を北西医科大学へ派遣し，英語による「生物統計学」（2単位）を受講し，北西医科大学担当教員による成績評価に基づいて，福島県立医科大学の疫学と単位互換を行った。

今後，TV会議システムを用いて遠隔講義を行い，単位互換できる科目を増やす予定としている。

## プログラムの実施における特筆すべき成果

2018年度より本格的な学生交流が始動し，今年度においては，北西医科大学より10名の学生を受入れ，長崎大学及び福島県立医科大学から9名の学生を北西医科大学へ派遣し，双方において単位互換を行った。ロシアの学生からは帰国後，長崎大学での講義について，好評だったとの報告を受けており，北西医科大学に本事業のメリットを実感してもらったことで，今後の本事業運営の大きな推進力を得た。

2019年9月には，北西医科大学（ロシア：サンクトペテルブルグ）にて運営会議を開催し，ダブル・ディグリー・プログラムの実施に向けて，長崎大学，福島県立医科大学及び北西医科大学３大学における相互の学生派遣の人数，学修時間，単位互換対象科目等の詳細について協議を行った。

また，モスクワ国立大学で行われた日露大学協会総会に本学の教員２名が出席し，日露大学間において直面する課題やその解決策等について意見交換を行った。

更に，同じく９月に，モスクワ国立大学で行われた日露学生フォーラムに本学災害・被ばく医療科学共同専攻の学生１名が出席し，日露学生間の交流をさらに深めた。

広報活動としては，災害・被ばく医療科学共同専攻のロシア語版ホームページの開設，同専攻のロシア語版パンフレットを各協力機関，ロシア語圏の大学，ロシアでの日本留学フェアへ配布するなど，積極的に広報を行った。

## 危機管理への対策

受入学生については，長崎大学に在籍する世界展開力強化事業のプログラム担当（専任）教員が生活面も含めサポートする体制を整えている。さらに北西医科大学から引率教員を招聘し，受入学生に同行して，生活面を含めたサポートを行っている。

派遣学生については，海外へ渡航する際に，渡航（旅行）情報管理を徹底するため海外渡航システムへ登録すること，海外旅行保険へ加入することを義務付けている。また，本事業の学生交流を担当しているロシア語が堪能な長崎大学，福島県立医科大学の教員が，渡航前の学生の疑問や不安に答えるとともに，北西医科大学留学時に同行して生活面も含めたサポートを行っている。

有事の際には担当教員と本学の国際連携事業を担当するグローバル連携推進機構（国際企画課）が連携し，双方の責任者に連絡する体制を整えている。

## 補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性

ダブル・ディグリー制度については，既存の大学院のカリキュラムと融合するため，実施大学において，全て英語での授業の受講や海外での修学を経験できる国際的なプログラムとして発展させることが考えられる。

経費面については，渡航費については原則自費負担とするが，日本学生支援機構（JASSO）などの各種奨学金や長崎大学独自の奨学金制度を活用し，できるだけ学生の負担軽減を図る。また，TV会議システムを活用することにより，自国に居ながらにして相手校の講義を受講できる科目を増やすことで，費用負担を最小限に抑え，継続して実施できる体制を整備する。

HaRP

日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム

Human Resource Development Platform for Japan-Russia Economic Cooperation and Personnel Exchange

https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/